

学力分析と指導の手立てⅤ

—標準学力検査を活用して—



川越市教育委員会

川越市学力調査研究委員会

あ い さ つ

川越市教育委員会教育長 山浦 秀男

川越市教育委員会では、平成15年度より、川越市学力調査研究委員会を設置し、市内小中学校で実施している標準学力検査の結果をもとに、児童生徒の学力の状況の調査・分析及び指導の手立ての研究を重ねてまいりました。ここに研究の成果を「学力分析と指導の手立てV」として刊行いたします。

現在、教育を取りまく環境は大きな変革の時期にあります。改正教育基本法を受けてのいわゆる教育3法の成立、約40年ぶりとなる全国学力・学習状況調査の実施、そして、平成20年1月には中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」答申が出されました。

さらに、平成20年3月には新しい学習指導要領が告示され、基礎的な知識・技能を育成させる習得型の教育と自ら学び自ら考える力を育成する探究型の教育を両輪とし、それらを結びつける活用型の教育が重要であるとされています。児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために、教育に携わる私たちには、より効果的な指導法の開発に向けて工夫改善に取り組むことが大切です。

さて、本市の標準学力検査の結果を見ますと、概ね良好な状況であるといえますが、教科によって、いくつかの課題があり、改善のための方策をさらに検討していく必要があります。そこで、学力調査研究委員会では、授業改善のための方策として教科ごとに、児童生徒一人一人の実態に即した具体的な指導の手立てについて研究し、本年度は社会科の授業の在り方や校内研修の進め方などについて検討いたしました。

各学校におかれましては、校内研修や教科部会・学年会等で、本研究冊子を積極的に活用し、児童生徒が主体的に学習に取り組む態度を養えるよう御尽力くださるようお願いいたします。

結びに、この研究冊子の編集に携わった川越市学力調査研究委員会委員の皆様、並びに、御指導くださいました関係各位に厚くお礼を申し上げ、あいさつといたします。

は　じ　め　に

川越市学力調査研究委員会委員長 小 川 一 信

本委員会は、川越市の児童生徒の確かな学力の向上を図るため、平成15年度に設置され、本年度5年目の調査研究活動を行いました。

活動内容は、標準学力検査の結果をもとにした学年進行による学力の変化の様子や低位の正答率となる学習課題等への分析と研究を進め、「小問における課題と具体的な指導の手立て」として展開例を紹介した研究冊子を年度毎に刊行してまいりました。そして各学校の校内研修資料として有効活用をいただいているところでもあります。特に昨年度は、理科離れ・科学離れといった全国的な教育課題をふまえ、理科の楽しさや興味関心を引き出す授業実践という視点で、研究授業を展開することができました。

今年度は今までの活動を継承しつつ、各教科調査研究委員の先生方が「児童生徒の学ぶ意欲を引き出す」という研究方針で、とにかく全ての先生方に読んでいただき、活用していただける内容にすることを重視して何度も話し合い、協議しあってまとめあげたものであります。これをもとにして、それぞれの学校で課題解決のための具体的な指導の手立てを検討し、実践していただくことを切望いたします。

さて今年度は、教育基本法の改正、それを受けた関連法の改正が成立しました。そしてこの10年ほど教育に関する一番の関心事は何と言っても学力向上の問題となっており、本県のみならず、43年ぶりに原則全員が対象となる「全国学力調査」が実施され、その結果が都道府県単位で公表され、論議を呼んだところでもあります。また、56カ国が参加したPISA（OECD生徒の学習到達度調査）第3回2006年調査結果も公表され、読解力は前回の14位から15位へ、数学的リテラシーは6位から10位へ、科学的リテラシーは4位から5位へと更に順位を落としました。こうした現状を踏まえ、文部科学省は授業時数を純増した新しい学習指導要領の改訂を進めております。

このような状況の中、今、私たち教師に強く求められている指導力は、先ず授業規律という面で、受けるための姿勢を徹底し、そこから質の高い授業展開とおして、学ぶ意欲を引き出し高めて、家庭学習の定着にまで発展させることにあると思います。このような観点も含め、本研究冊子がそれぞれの学校で有効に活用されることを期待します。

結びに、本会の研究推進に関わっていただいた委員の皆様、御指導いただきました指導主事の先生方、御協力いただきました校長先生方に心より感謝申し上げます。委員長のあいさつとさせていただきます。

目 次

○教育長「あいさつ」

○委員長「はじめに」

研究の概要	1
川越市の学力の推移 (標準学力検査)	4
各学年の状況	
1 小学校第4学年	5
2 小学校第5学年	6
3 小学校第6学年	7
4 中学校第1学年	8
5 中学校第2学年	9
6 中学校第3学年	10
各教科	
I 国語	
1 小学校第4学年	11
2 小学校第5学年	13
3 小学校第6学年	15
4 中学校第1学年	17
5 中学校第2学年	19
6 中学校第3学年	21
II 社会	
1 小学校第4学年	23
2 小学校第5学年	25
3 小学校第6学年	27
4 中学校第1学年	29
5 中学校第2学年	31
6 中学校第3学年	33

III 算数・数学	
1 小学校第4学年	35
2 小学校第5学年	37
3 小学校第6学年	39
4 中学校第1学年	41
5 中学校第2学年	43
6 中学校第3学年	45
IV 理科	
1 小学校第4学年	47
2 小学校第5学年	49
3 小学校第6学年	51
4 中学校第1学年	53
5 中学校第2学年	55
6 中学校第3学年	57
V 英語	
1 中学校第2学年	59
2 中学校第3学年	61

資料編

I 実践資料(社会)	63
II バックナンバーと掲載ページ	71

○平成19年度学力調査研究委員会名簿

研究の概要

1 目的

川越市立小中学校の児童生徒（第4学年以上）を対象に実施した全国標準教研式標準学力検査（NRT）の結果を基に、標準化された全国の数値と比較しながら川越市全体の学力の状況を分析・考察し、各学校での指導法の工夫改善に資する。

2 研究方法

(1) 研究の対象と教科

学 校	対象学年	実施教科
小学校	第4学年～第6学年	国語、社会、算数、理科
中学校	全学年	国語、社会、数学、理科、英語

(2) 調査資料名

全国標準教研式標準学力検査（NRT）（平成19年6月中に各校で実施）

(3) 方法

川越市教育委員会が事務局となり、市内小・中学校の校長、教員からなる学力調査研究委員会を設置し、委員長1名、副委員長1名（教科部長兼務）、各教科部長1名、各教科委員3名（英語科1名）の計19名で組織した。

各教科部会では、全国標準教研式標準学力検査の川越市全体の結果を分析後、全国との比較から川越市の課題を明らかにし、課題解決を図る手立てを示した。

3 研究内容の見方

(1) 各学年の状況

① 全国通過率と川越市通過率の比較

通過率とは、1つの問いについて正答人数を総人数で割り、100倍した数である。川越市通過率とは川越市の児童生徒の通過率の平均である。

② 各教科の5段階の出現率

川越市の各学年における各教科の偏差値を基に、全国基準に照らして5段階評定を表した。偏差値は、全国平均点を50とし、偏差値50前後が「3」の評価になる。

各教科の5段階の出現率とは、偏差値を5段階に分け、そこに含まれる人数の割合を表したもので、下図のようになる。

< 5段階の出現率 >

段 階	1	2	3	4	5
偏差値	~34	35~44	45~54	55~64	65~
出現率	7%	24%	38%	24%	7%

全国とは正規分布の数値を指す。

5段階の出現率を折れ線グラフで表すと山型になり、頂点の位置が右寄りになるほど、全国より上回っていることがわかる。「学校」の欄には、自校の5段階の出現率を記入することにより、川越市や全国と比較することができる。

「評定」の欄には、各学校で実施した評定の比率を出し、川越市や全国の5段階の出現率と比較することができる。

(2) 各教科

① 全体の傾向

大領域・中領域の正答率及び小問の通過率から、川越市としての課題等について考察し、全体の傾向を示した。

正答率	$\text{個人の正答率} = \frac{\text{個人の得点}}{\text{満点}} \times 100$ <p>(ある大領域が40点満点なら、40で割る)</p> <p>川越市の正答率となると、個人の正答率の合計を川越市の人数で割った数になる。</p>
通過率	$\text{通過率} = \frac{\text{正答した人数}}{\text{総人数}} \times 100$

② 大領域の比較・中領域の比較

大領域について	学習指導要領に示された「内容」を大きな領域に分類した。
中領域について	学習指導要領の「内容」を参考に単元に近い領域に分類した。

大領域・中領域の数字は、正答率で表した。特に、「傾向」の中の矢印は、川越市と全国の正答率を比較し、3ポイント以上上回っている場合は↑で表し、3ポイント以上下回っている場合は、↓で表した。さらに5ポイント以上上回っている場合は、△で表し、5ポイント以上下回っている場合は、▼で表した。

川越市と全国の正答率の比較(差)	傾 向
3ポイント以上、5ポイント未満、上回る場合	↑
5ポイント以上、上回る場合	△
3ポイント以上、5ポイント未満、下回る場合	↓
5ポイント以上、下回る場合	▼

③ 全国通過率を下回る小問

平成17・18・19年度ともに、全国通過率を下回る小問10問までを提示した。また、国語科においては全国とともに通過率が30%を下回る小問について提示し、指導方法の工夫改善のために資料とした。

④ 課題解決の視点・指導の手立て

全国通過率を下回る小問を中心に課題を把握し、課題解決のための指導の手立てについて考察した。なお、本年度は更に学力を向上させる指導法についても考察した。児童生徒の学習意欲向上の視点から、興味・関心の高まりが期待できる指導法について示しているものもある。

4 全国標準教研式標準学力検査（NRT）の見方・生かし方と活用の仕方

(1) 全国標準教研式標準学力検査の見方・生かし方

本調査で利用した全国標準教研式標準学力検査（NRT）は、全国基準に基づく相対評価法による学力検査である。活用に当たり以下のことを踏まえる必要がある。

- ① 学級全体の学力水準は、標準得点（学力偏差値）の学級平均（M）の値が全国平均偏差値 50 と比べて高いか低いかで判断する。
- ② 学力偏差値の分布で、学力の個人差が大きく見られる学級かどうかを標準得点（学力偏差値）の 5 段階分布で表している。全国の分布と比較することで学級の傾向がわかる。
- ③ 大領域や中領域では、全国の正答率との比較で、低い領域を重点指導領域として、どの領域・どの単元に重点をおいて指導すべきかを判断する。
- ④ 小問通過率を全国と比較して指導の重点箇所を見い出すことができる。また、小問分析表で、学級の誤答傾向に特徴がある小問については、誤答内容を確認し、指導法の工夫改善に役立たせる。

(2) 全国標準教研式標準学力検査（NRT）の活用の仕方

- ① 全国基準に照らして相対的に学力の水準を確認し、指導方法の工夫改善に活用する。
- ② 指導内容（領域別）ごとに指導成果を確認し、重点計画を立てることに活用する。
- ③ 小問分析表において、1 問ごとに習得状況を確認し、全国の習得状況と比較しながら指導法の工夫改善に活用する。
- ④ 各教科の相対関係を知ること、その学年・個人の得意な教科、不得意な教科を把握する。
- ⑤ 知能検査との相関関係で、伸びる可能性が高いと考えられる児童・生徒（アンダーアチーバー）などの把握や指導に活用する。
- ⑥ 分析結果を基に、各学校、各学年、各教科の課題を把握し、校内研修の内容及び指導の実践に活用する。

川越市の学力の推移（標準学力検査）

（数値は偏差値平均）

教科	校種	学年	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
全教科平均	小学校	第4学年	50.6	50.2	49.9	50.3	50.5	50.9
		第5学年		50.3	50.6	50.4	50.8	50.6
		第6学年	50.4	49.9	50.0	50.6	50.5	51.1
	中学校	第1学年	51.0	51.1	51.2	50.9	51.7	51.2
		第2学年	51.6	50.4	49.7	49.6	49.9	50.4
		第3学年	51.5	50.3	50.7	49.8	49.7	49.7
国語	小学校	第4学年	50.0	51.0	50.9	51.3	51.3	52.2
		第5学年		51.5	52.2	51.9	52.4	52.4
		第6学年	50.6	51.3	52.5	53.0	52.6	53.3
	中学校	第1学年	52.6	52.2	52.5	53.0	53.4	52.6
		第2学年	51.2	52.5	51.3	51.2	51.9	52.1
		第3学年	51.3	51.8	51.9	51.3	51.5	51.7
社会	小学校	第4学年	49.0	50.3	50.0	50.5	50.6	50.8
		第5学年		51.7	52.0	51.6	52.3	52.1
		第6学年	49.5	49.1	49.8	50.1	49.6	50.2
	中学校	第1学年	47.6	49.9	49.6	49.8	51.1	50.9
		第2学年	47.5	49.0	48.3	48.8	48.9	49.5
		第3学年	48.7	49.0	49.6	48.7	48.5	48.3
算数・数学	小学校	第4学年	51.1	50.2	50.1	50.4	50.6	51.0
		第5学年		50.2	50.4	50.7	51.2	50.9
		第6学年	50.2	49.9	49.9	50.7	51.1	51.9
	中学校	第1学年	49.4	52.0	51.6	50.8	51.7	51.3
		第2学年	52.0	50.9	50.2	49.3	50.0	50.7
		第3学年	51.6	50.4	50.8	49.7	49.5	50.3
理科	小学校	第4学年	47.5	48.9	48.7	49.2	49.3	49.3
		第5学年		47.3	47.8	47.2	47.2	47.0
		第6学年	46.0	48.8	47.9	48.7	48.7	49.2
	中学校	第1学年	50.9	49.9	50.9	50.0	50.7	50.0
		第2学年	47.1	47.5	47.7	47.7	47.5	48.5
		第3学年	47.9	49.0	49.1	48.5	48.0	48.0
英語	中学校	第1学年						
		第2学年	51.3	52.2	51.3	50.9	51.2	51.9
		第3学年	51.6	51.8	52.7	51.1	51.3	50.7

平成14年度の小学校実施学年は2, 4, 6学年

平成15年度以降の小学校実施学年は4, 5, 6学年

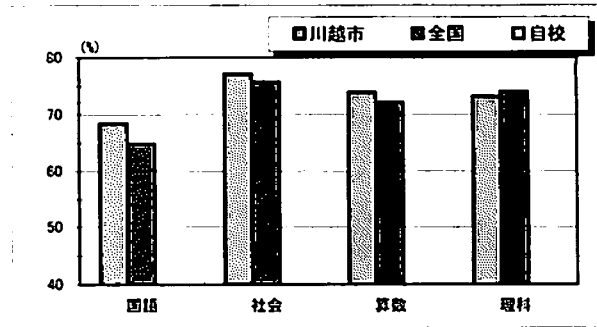
は同一集団を表す一例

II 各学年の状況

1 小学校第4学年

(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

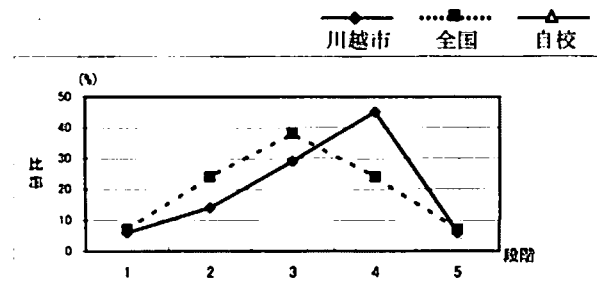
(%)				
教科	国語	社会	算数	理科
川越市	68.4	77.1	73.9	73.2
全国	64.8	75.7	72.2	74.0
自校				



(2) 各教科の5段階出現率

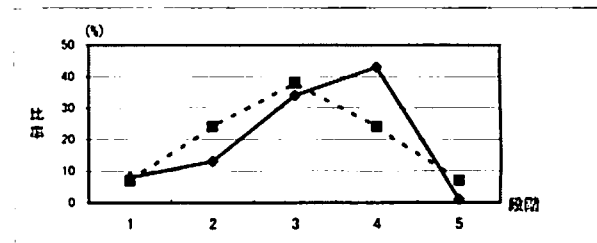
国語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	14	29	45	6
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



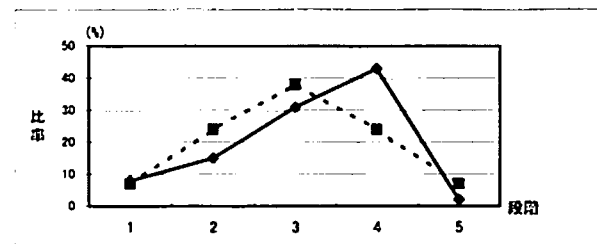
社会 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	13	34	43	1
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



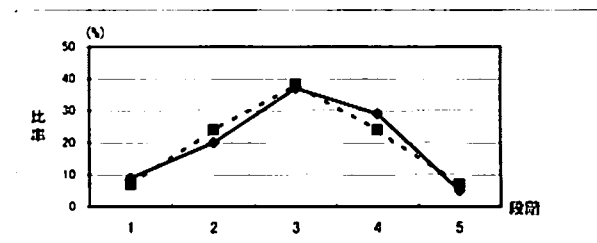
算数 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	15	31	43	2
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



理科 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	9	20	37	29	5
全国	7	24	38	24	7
自校					

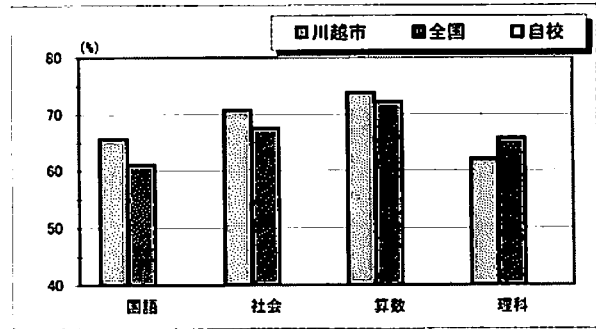
評定					
----	--	--	--	--	--



2 小学校第5学年

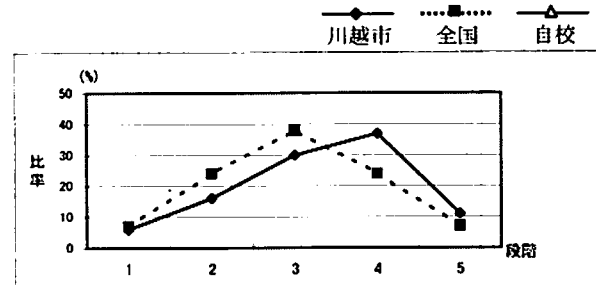
(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

(%)				
教科	国語	社会	算数	理科
川越市	65.7	70.8	73.8	62.0
全国	61.1	67.6	72.2	65.8
自校				

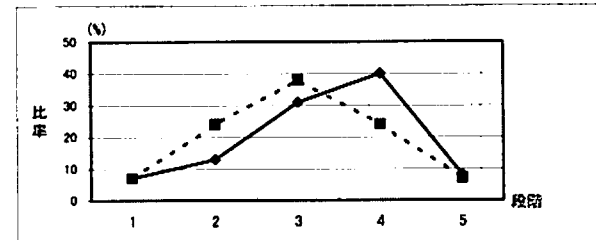


(2) 各教科の5段階出現率

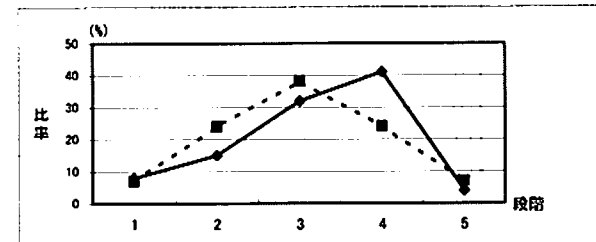
国語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	16	30	37	11
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



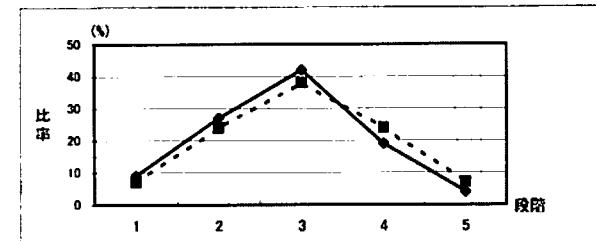
社会					
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	13	31	40	8
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



算数					
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	15	32	41	4
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



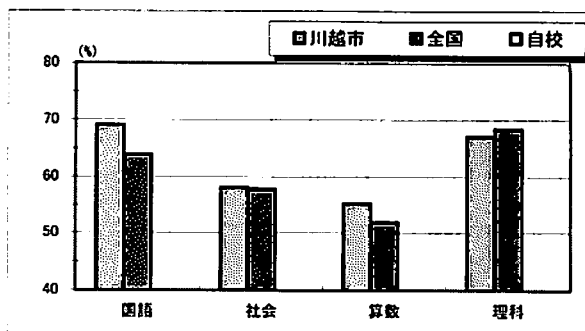
理科					
段階	1	2	3	4	5
川越市	9	27	42	19	4
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



3 小学校第6学年

(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

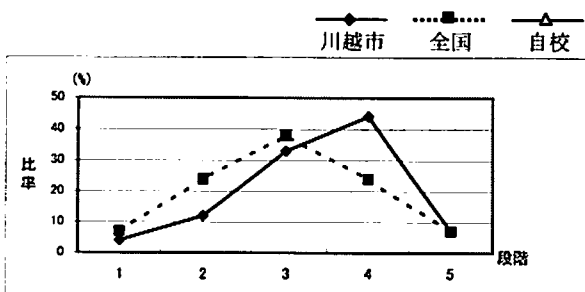
(%)				
教科	国語	社会	算数	理科
川越市	69.1	58.1	55.2	67.1
全国	63.9	57.8	51.9	68.4
自校				



(2) 各教科の5段階出現率

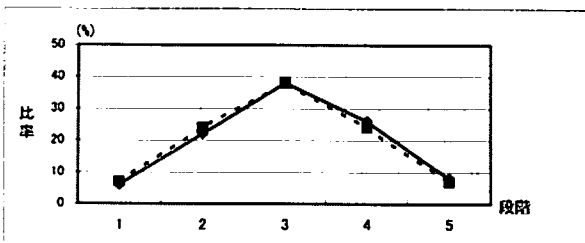
(%)					
国語					
段階	1	2	3	4	5
川越市	4	12	33	44	7
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



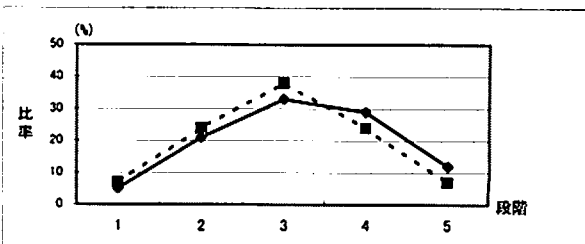
(%)					
社会					
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	22	38	26	8
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



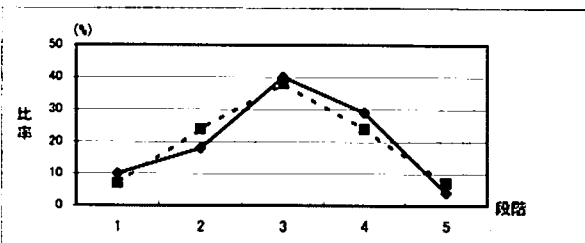
(%)					
算数					
段階	1	2	3	4	5
川越市	5	21	33	29	12
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



(%)					
理科					
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	18	40	29	4
全国	7	24	38	24	7
自校					

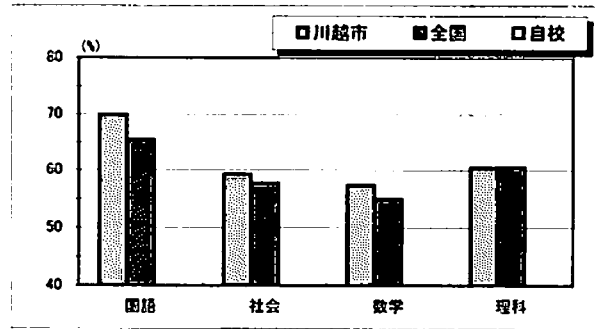
評定					
----	--	--	--	--	--



4 中学校第1学年

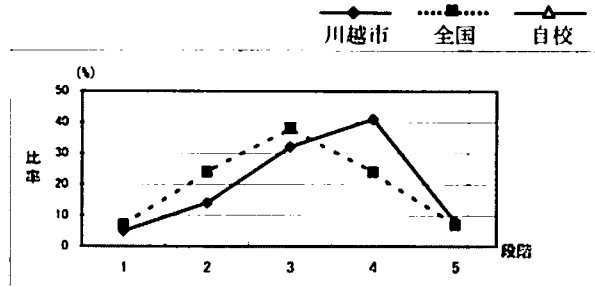
(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	数学	理科
川越市	69.9	59.3	57.3	60.4
全国	65.4	57.7	54.9	60.5
自校				

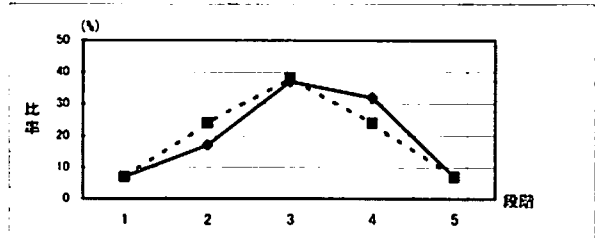


(2) 各教科の5段階出現率

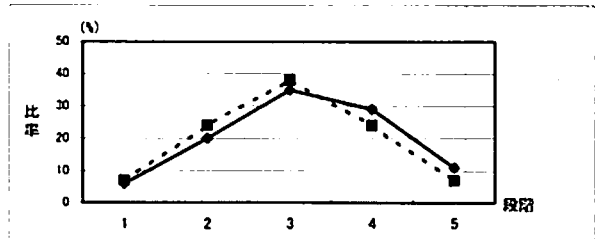
国語	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	5	14	32	41	8
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



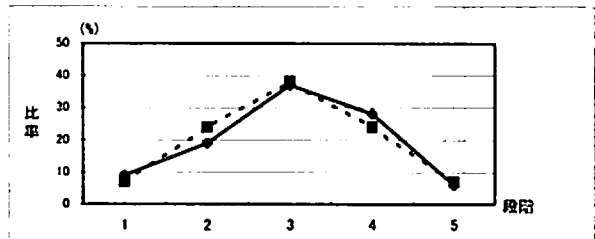
社会	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	17	37	32	7
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



数学	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	20	35	29	11
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



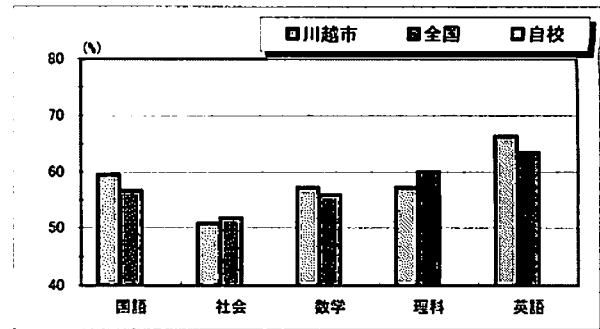
理科	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	9	19	37	28	6
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



5 中学校第2学年

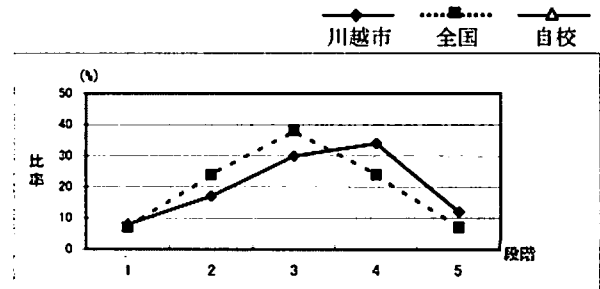
(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	数学	理科	英語
川越市	59.5	50.8	57.2	57.2	66.3
全国	56.7	51.8	55.9	60.0	63.4
自校					



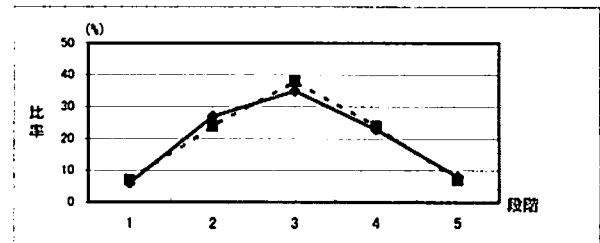
(2) 各教科の5段階出現率

国語	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	17	30	34	12
全国	7	24	38	24	7
自校					



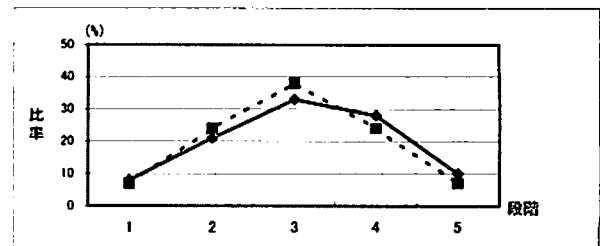
評定					
----	--	--	--	--	--

社会	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	27	35	23	8
全国	7	24	38	24	7
自校					



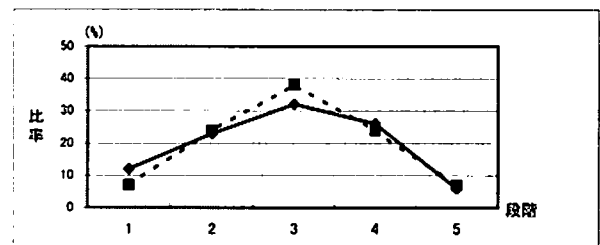
評定					
----	--	--	--	--	--

数学	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	21	33	28	10
全国	7	24	38	24	7
自校					



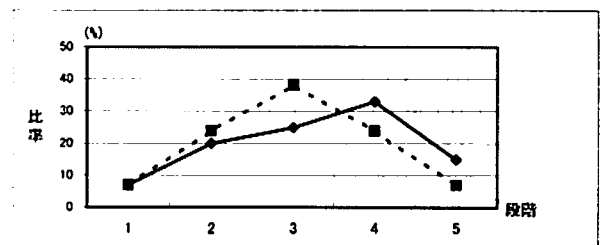
評定					
----	--	--	--	--	--

理科	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	12	23	32	26	6
全国	7	24	38	24	7
自校					



評定					
----	--	--	--	--	--

英語	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	20	25	33	15
全国	7	24	38	24	7
自校					

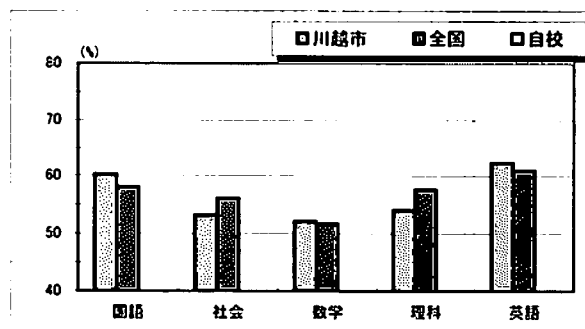


評定					
----	--	--	--	--	--

6 中学校第3学年

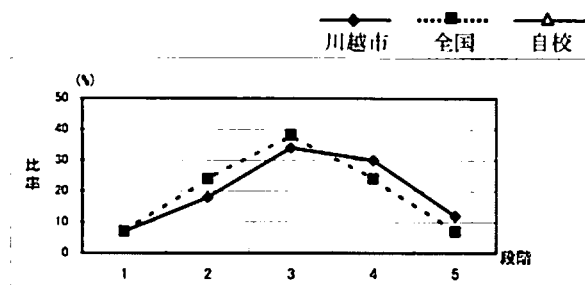
(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	数学	理科	英語
川越市	60.2	53.2	52.1	54.0	62.4
全国	58.0	56.1	51.7	57.6	61.0
自校					



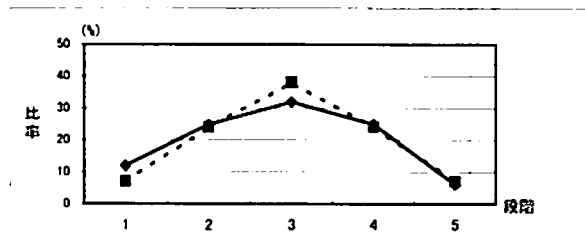
(2) 各教科の5段階出現率

国語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	18	34	30	12
全国	7	24	38	24	7
自校					



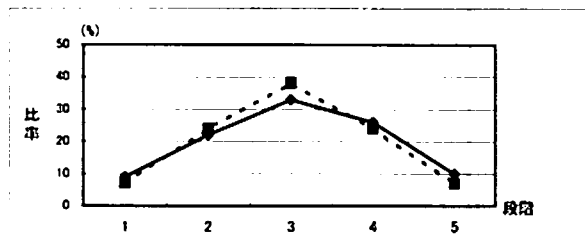
評定					
----	--	--	--	--	--

社会 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	12	25	32	25	6
全国	7	24	38	24	7
自校					



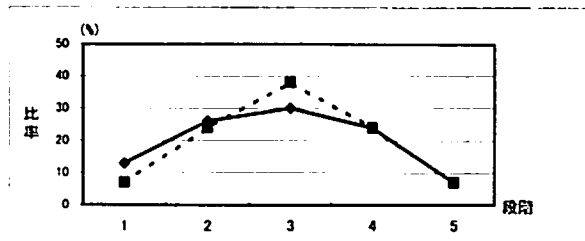
評定					
----	--	--	--	--	--

数学 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	9	22	33	26	10
全国	7	24	38	24	7
自校					



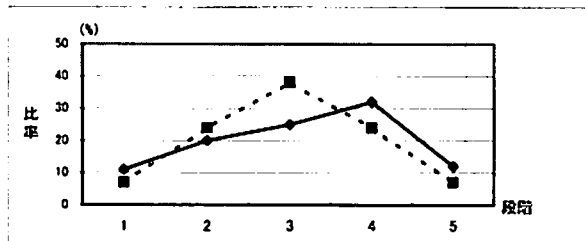
評定					
----	--	--	--	--	--

理科 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	13	26	30	24	7
全国	7	24	38	24	7
自校					



評定					
----	--	--	--	--	--

英語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	11	20	25	32	12
全国	7	24	38	24	7
自校					



評定					
----	--	--	--	--	--

各教科

I 国語

1 小学校第4学年（内容第3学年）

全体の傾向

偏差値平均は、昨年度に比べ0.9ポイント上がっている。大領域の正答率は、全領域ともに全国を上回っている。「言語事項」については、2年連続で全国を下回っていたが、今年度は0.4ポイントとわずかに上回っている。中領域では、12領域中11領域が全国を上回っているが、「修飾語・被修飾語の関係、接続語」が2.6ポイント下回っている。小問で見ると、3年連続で全国通過率を下回っている問題は6問で、全て言語事項である。また、全国・川越ともに通過率30%以下の小問も、修飾・被修飾の関係、漢字の書き・部首、読点を適切に使うこと等、5問ある。なお、「目的、段落に注意して書くこと」は、2年連続で5ポイント以上上回っているが、児童の作文を見ると、十分身に付いているとは言えず、具体的な指導の手立てを講じる必要がある。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成17年度平均	51.3	
										平成18年度平均	51.3	
										平成19年度平均	52.2	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 話すこと・聞くこと	80.3	79.7	81.9	77.3	77.3	77.3	3.0	2.4	4.6			
2 書くこと	66.5	66.6	68.1	61.3	61.3	61.3	5.2	5.3	6.8			
3 読むこと	61.0	60.9	62.7	58.6	58.6	58.6	2.4	2.3	4.1			
4 言語事項	61.6	61.9	62.8	62.4	62.4	62.4	-0.8	-0.5	0.4			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 伝えたい事を選び適切に話すこと	75.2	73.5	76.6	72.7	72.7	72.7	2.5	0.8	3.9			↑
1-2 話の中心に気をつけて聞くこと	88.3	88.7	89.0	86.2	86.2	86.2	2.1	2.5	2.8			
1-3 すずんで話し合うこと	74.7	74.6	78.2	70.3	70.3	70.3	4.4	4.3	7.9	↑	↑	△
2-4 書く材料を収集・選択すること	77.4	75.4	77.2	69.8	69.8	69.8	7.6	5.6	7.4	△	△	△
2-5 目的、段落に注意して書くこと	69.9	71.6	72.6	65.3	65.3	65.3	4.6	6.3	7.3	↑	△	△
2-6 文章などの間違いなどを直すこと	37.9	39.2	40.8	36.3	36.3	36.3	1.6	2.9	4.5			↑
3-7 叙述を基に場面を想像し読むこと	59.9	60.0	62.4	58.0	58.0	58.0	1.9	2.0	4.4			↑
3-8 中心をおさえて読むこと	64.3	64.1	65.1	60.8	60.8	60.8	3.5	3.3	4.3	↑	↑	↑
3-9 様子がわかるよう声に出して読む	57.0	55.5	57.4	55.0	55.0	55.0	2.0	0.5	2.4			
4-10 語句の類別	26.1	26.4	25.8	25.0	25.0	25.0	1.1	1.4	0.8			
4-11 修飾・被修飾の関係、接続語	48.4	47.1	48.6	51.2	51.2	51.2	-2.8	-4.1	-2.6		↓	
4-12 漢字の構成・筆順、読み・書き	71.4	72.3	73.3	71.5	71.5	71.5	-0.1	0.8	1.8			

(3) 平成17・18・19年度ともに 全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
4	11	修飾・被修飾の理解 (13-1)	19	25	-6	18	25	-7	19	25	-6
	11	修飾・被修飾の理解 (13-3)	35	41	-6	31	41	-10	35	41	-6
	11	接続語使い方・そこで (15-2)	83	85	-2	83	85	-2	82	85	-3
	12	漢字の書き・三角形 (18-3)	54	69	-15	52	69	-17	55	69	-14
	12	送り仮名・短い (19-2)	59	63	-4	59	63	-4	59	63	-4
	12	部首・くさかんむり (20-1)	79	82	-3	79	82	-3	80	82	-2

(4) 全国・川越ともに 通過率30%以下の小問

・読点を適切に使うこと	(8-1)
・読点を適切に使うこと	(8-2)
・修飾・被修飾の理解	(13-1)
・修飾・被修飾の理解	(13-2)
・語句の類別	(14-1)

()は問題番号

(5) 小問における課題と指導の手立て

課題 中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書くことのできる児童を育てるには、どのように指導したらよいか。

教科書第3学年上P. 40～P. 45「おもしろいもの、見つけた」

(指導の手立て)

中学年で求められている「書こうとする事を中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書くこと」のできる児童を育てるには、思考を整理し、何をどう書くか考えて文章の構成を工夫させることが大切である。ここでは、接続語を使って段落のはっきりした文章を書かせる指導(*1)、中心点を詳しく前後を簡単に書くことで文章構成を意識付けた指導(*2)、4コマ漫画の構成を生かした4コマ作文の指導(*3)を示す。

*1 接続語を使って段落のはっきりした文章を書かせる指導

はじめに
次に
それから
最後に

接続語を使うことによって、文章を意味のまとまりとしてとらえさせることで、段落のはっきりした文章を書くことができる。

- ①書こうとすることを、大きく4つのまとまりに分け、接続語を使って記述させる。
- ②まとまりごとに「改行すること」「改行した書き出しは一字下げること」を確認する。

*2 中心となる点を詳しく、前後を簡単に書くことで文章構成を意識させた指導

中心となる点を詳しく書くという文章構成を意識させることで、分かりやすい文章を書くことができる。

- ①文章全体を「はじめ・中・終わり」の3つのまとまりに考えさせる。
- ②「はじめ」と「終わり」は、簡単に書かせる。
- ③「中」は、様子がよく分かるように、会話や行動やその時の気持ちを詳しく書かせる。

【例】題材「サッカー大会に向けて」

- ・はじめ～サッカー大会に向けた練習
- ・中　～練習の様子、練習中に交わした言葉、その時の気持ち
- ・終わり～本番に向けて



*3 「4コマ漫画」の構成を生かした4コマ作文の指導

4コマ漫画の「起承転結」の構成を生かし4コマ作文を書く活動を通して、段落のはっきりした文章を書くことができる。

- ①登場人物の名前を決める。
- ②絵を見て、場面の様子を1～2文で書く。
- ③接続語を考え、まわりの様子や相手の言葉などを書き加える。
- ④段落を意識しながら清書し、書き残しや間違いがないかどうかを見直す。



2 小学校第5学年（内容第4学年）

全体の傾向

偏差値平均は、前年度と同じである。大領域・中領域における正答率は、3年連続で全領域ともに全国を上回っている。小問のうち「ローマ字の読み書き」は、3年連続で全国の正答率を下回り、全国との差も11%と年々広がってきている。昨年に引き続いて、「ローマ字の読み書き」は課題と言える。また、全国・川越ともに通過率が30%以下の小問は、「登場人物の心情を読む」「国語辞典の引き方」である。なお、「相手や目的に応じて話すこと」は、児童の実態を見ると、日常生活の中で生きてはたらく力になっているとは言えず、具体的な指導の手立てを講じる必要がある。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
					51.9			52.4			52.4		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	
1 話すこと・聞くこと	69.3	68.9	69.7	64.7	64.7	64.7	4.6	4.2	5.0				
2 書くこと	71.3	71.2	71.9	67.7	67.7	67.7	3.6	3.5	4.2				
3 読むこと	56.7	57.2	56.9	53.1	53.1	53.1	3.6	4.1	3.8				
4 言語事項	63.4	66.3	65.1	60.0	60.0	60.0	3.4	6.3	5.1				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
		H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19
1-1	相手や目的に応じて話すこと	62.1	60.9	61.6	57.4	57.4	57.4	4.7	3.5	4.2	↑	↑	↑
1-2	話の中心に気をつけて聞くこと	88.2	89.7	90.0	84.5	84.5	84.5	3.7	5.2	5.5	↑	△	△
1-3	すずんで話し合いに参加すること	66.1	65.5	66.9	60.4	60.4	60.4	5.7	5.1	6.5	△	△	△
2-4	書く材料を収集・選択すること	74.4	74.0	74.8	69.4	69.4	69.4	5.0	4.6	5.4	△	↑	△
2-5	段落などに注意して書くこと	69.2	69.3	70.5	69.0	69.0	69.0	0.2	0.3	1.5			
2-6	文章の間違いなどを正すこと	62.4	63.0	62.8	59.0	59.0	59.0	3.4	4.0	3.8	↑	↑	↑
3-7	段落の関係を考えながら読むこと	63.3	63.8	64.8	58.3	58.3	58.3	5.0	5.5	6.5	△	△	△
3-8	場面や情景を想像して読むこと	57.7	58.0	56.9	56.2	56.2	56.2	1.5	1.8	0.7			
3-9	まとめや細部に注意して読む	51.9	52.6	52.2	48.7	48.7	48.7	3.2	3.9	3.5	↑	↑	↑
4-10	辞書を活用すること	31.0	34.6	31.9	29.5	29.5	29.5	1.5	5.1	2.4		△	
4-11	修飾・被修飾の関係、指示語	54.1	56.2	55.1	53.6	53.6	53.6	0.5	2.6	1.5			
4-12	漢字やローマ字の読み書き	72.6	75.8	74.9	67.8	67.8	67.8	4.8	8.0	7.1	↑	△	△

(3) 平成17・18・19年度 ともに
全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
4	12	ローマ字の読み書き (11-2)	66	67	-1	58	67	-9	56	67	-11

(4) 全国・川越 ともに
通過率30%以下の小問

・登場人物の心情を読む	(8-5)
・国語辞典の引き方	(10-2)

()は問題番号

(5) 小問における課題と指導の手立て

課題 相手や目的に応じて話すことのできる児童を育てるには、どのように指導したらよいか。

教科書第4学年上P. 50～P. 51「伝言はまちがえずに」

〈指導の手立て〉

相手や目的に応じて話すことのできる児童を育てるには、日常生活の様々な場面を設定して指導にあたることが大切である。具体的な活動と合わせた指導を重ねる過程で、目的を自覚し、相手や目的に応じた話し方の工夫を身に付けていくことができる。そのためには、日常生活における具体的な場面を意図的に設定する指導が考えられる。

日常生活における具体的な場面を意図的に設定した指導

【学校案内をしよう】

ねらい：様々なことをたずねたり、たずねられたことに答えたりすることを通して、的確に説明する力を育てる。

- ① 4人で1チームとし、「たずねる人」(1人)、「案内する人」(1人)、「評価する人」(2人)を決める。「たずねる人」と「案内する人」が向かい合う。
- ② 「たずねる人」は、学校について、知りたいことや教えてほしいことをたずねる。
- ③ 「案内する人」は、質問されたことに的確に答えていく。
- ④ 質問と説明が終わったら、「評価する人」が、案内の仕方について評価する。
- ⑤ 順番に、案内する人を交代していく。

※ 「たずねる人」を、保護者や地域のお年寄りの設定にすると敬語の使い方意識するようになり、低学年の子どもの設定にすると分かりやすい説明の仕方を工夫するようになる。



【電話をかけよう】

ねらい：電話で話す練習をすることを通して、自分の意図を相手に伝えたり、相手からの情報を正確に聞き取ったりする力を育てる。

- ① 4人で1チームとし、「電話をかける人」(1人)、「電話を受ける人」(1人)、「評価する人」(2人)を決める。
- ② ついたてをはさんで二人が向かい合い、用件や条件を変えて、電話で話す練習をする。

《友達に電話をかける》

〔用件〕 これから遊びに行ってもいいか。

〔条件〕 ①本人が出た場合 ②父母が出た場合

《地域の方に電話をかける》

〔用件〕 インタビューの打ち合わせをする

〔条件〕 ①本人が出た場合 ②家族(大人)が出た場合



3 小学校第6学年（内容第5学年）

全体の傾向
 偏差値平均は、全国を3.3ポイント上回っている。大領域については、言語事項において6.7ポイント上回り、中領域では「組立を工夫して話すこと」「漢字の読み・書き」が9.7ポイント、「意図・立場を明確にして話し合う」が7.0ポイント全国を上回っている。小問別に見ると全国の通過率を1～4ポイント下回るものが見られる。「叙述に即して読む」「修飾語の理解」については、全国・川越ともに通過率30%を下回っており、生徒の意欲を引き出しながら定着を図るための指導の手立てを講じる必要がある。特に「言葉のきまり」の学習については、文学的文章や説明的文章の学習に関連付けた指導が効果的であろう。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	
1 話すこと・聞くこと	75.0	73.9	75.5	70.0	70.0	70.0	5.0	3.9	5.5				
2 書くこと	65.9	65.2	66.4	61.3	61.3	61.3	4.6	3.9	5.1				
3 読むこと	63.8	63.6	64.2	61.3	61.3	61.3	2.5	2.3	2.9				
4 言語事項	69.9	69.3	70.2	63.5	63.5	63.5	6.4	5.8	6.7				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
内 容	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	
	1-1 組み立てを工夫して話すこと	72.1	72.7	72.7	63.0	63.0	63.0	9.1	9.7	9.7	△	△	△
1-2 話し手の意図を考えて聞くこと	74.1	73.0	73.8	71.4	71.4	71.4	2.7	1.6	2.4				
1-3 意図・立場を明確にして話し合う	77.1	75.1	78.5	71.5	71.5	71.5	5.6	3.6	7.0	△	↑	△	
2-4 目的や意図に応じた書き方の工夫	70.1	70.1	71.7	67.2	67.2	67.2	2.9	2.9	4.5			↑	
2-5 書くことがらを整理して書くこと	74.0	72.7	72.5	63.0	68.0	68.0	6.0	4.7	4.5	△	↑	↑	
2-6 文章の組み立ての効果を考える	59.9	59.1	60.5	54.8	54.8	54.8	5.1	4.3	5.7	△	↑	△	
3-7 必要な図書資料を選んで読むこと	70.0	67.9	68.5	63.0	68.0	68.0	2.0	-0.1	0.5				
3-8 心情や場面描写を読み取ること	52.2	52.1	53.3	49.3	49.3	49.3	2.9	2.8	4.0			↑	
3-9 要旨や文章構成を読み取ること	74.0	74.4	74.3	70.8	70.8	70.8	3.2	3.6	3.5	↑	↑	↑	
4-10 語句の構成と類別の理解	38.3	40.6	41.5	40.0	40.0	40.0	-1.7	0.6	1.5				
4-11 辞書を活用すること	89.6	90.0	91.0	89.0	89.0	89.0	0.6	1.0	2.0				
4-12 漢字の読み・書き、送り仮名	78.1	76.1	77.0	67.3	67.3	67.3	10.8	8.8	9.7	△	△	△	

(3) 平成17・18・19年度ともに 全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川 越	全 国	全国との差	川 越	全 国	全国との差	川 越	全 国	全国との差
1	2	構成の聞き取り (1-1)	61	62	-1	60	62	-2	61	62	-1
2	6	表現の工夫・比喩 (8-1)	61	66	-5	59	66	-7	62	66	-4
3	7	図書館での資料の検索 (10-2-7)	85	86	-1	84	86	-2	84	86	-2
4	10	修飾語の理解 (14-3)	19	26	-7	21	26	-5	22	26	-4

(4) 全国・川越ともに 通過率30%以下の小問

・叙述に即して読む	(12-3)
・修飾語の理解	(14-1)
・修飾語の理解	(14-3)

()は問題番号

(5) 小問における課題と指導の手だて

課題 「言葉のきまり」の学習の定着を図るにはどのように指導したらよいか。

教科書第5学年下P. 4～P. 26「わらぐつの中の神様」

<指導の手だて>

小問の「修飾語の理解」の通過率は30%を下回っている。「言葉のきまり」の取り立て指導の際には理解できている、学習した内容を実際の文章の理解に関連付けることができないのではないだろうか。

ここでは、「言葉のきまり」の学習を実際の文章の読取に生かし、「叙述に即して読む力」の育成につなげる学習の一例を紹介する。

誰がどうしたの？

1 まず、主語と述語をとらえる。

内容を正確にとらえるために、主語と述語を明確にすることは、児童の理解を進める上で有効である。「誰がどうしたの？」と問うことで「言葉のきまり」の学習を想起させながら内容の理解を進めていきたい。

<例文>

A さて、このおみつさんが、ある秋の朝、町の朝市へ、野菜を売りにでかけました。
(9ページ)

主語 → 「おみつさんが」 述語 → 「でかけました」

B おみつさんは、真っ赤になって、口の中で何かもごもご言いながら、にげるように店の前をはなれました。
(10ページ)

主語 → 「おみつさんは」 述語 → 「はなれました」

5W1Hで内容をとらえよう！

2-1 続いて、場面の状況を叙述に即して読み取る。

「いつ」「どこで(に・へ)」「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」に該当するキーワードを基に内容をとらえる。修飾語にも注意させる。

<例文>

A さて、このおみつさんが、ある秋の朝、町の朝市へ、野菜を売りにでかけました。
(9ページ)

文学的文章においても、5W1Hを押さえることで、場面の状況を明確に理解できる。状況設定の共通理解を図ることで、叙述に即した読み取りがよりスムーズになっていくであろう。

行動の裏側にあるものは？

2-2 行動描写から心情を読み取る。

<例文>

B おみつさんは、真っ赤になって、口の中で何かもごもご言いながら、にげるように店の前をはなれました。

「真っ赤になって、口の中で何かもごもご言いながら」、「にげるように店の前をはなれ」たおみつさんの行動の描写は、心情を如実に表している。「にげるように」と「はなれました」の修飾・被修飾の関係を「言葉のきまり」の学習と結び付けるとともに、「にげるように」の表現が、おみつさんの「はずかしい」という気持ちより強く表していることに気付かせたい。

「にげるように」という言葉がない場合と「にげるように」という言葉がある場合の違いを話し合わせることで、心情を明確に理解できるであろう。

- ・おみつさんは、～店の前をはなれました。
- ・おみつさんは、～にげるように店の前をはなれました。

参考

- ・「にげるように」の部分に「急いで」、「あわてて」等の言葉を入れ、違いを話し合う。
- 修飾語の役割を身近な文や文章の中で理解させていくことが、「言葉のきまり」の学習を定着させることになる。



4 中学校第1学年 (内容第6学年)

全体の傾向

偏差値平均は全国を上回っているが、昨年度より0.8ポイント下回っている。大領域では、全領域で全国平均を上回っており、特に言語事項では7.3ポイント上回っている。中領域では「語句の類別」が14.2ポイント「文章の組み立ての効果を考える」が10.8ポイント上回っている。しかし、「語句の構成・由来の理解」が0.5ポイント全国平均を下回り、「事実と感想の関係を押さえて読む」は、全国平均は上回っているものの正答率は50%を下回っている。小問では「内容を正しく聞き取る」をはじめ全国平均の通過率に達しないものが5問ある。叙述に即して場面や内容を正確に読みとる方法を明確にした学習方法を工夫する必要がある。

(1) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)			偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校				
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19		
1 話すこと・聞くこと	86.2	87.9	87.1	86.0	86.0	86.0	0.2	1.9	1.1					
2 書くこと	68.7	70.1	69.0	63.8	63.8	63.8	4.9	6.3	5.2					
3 読むこと	59.7	59.5	58.0	55.3	55.3	55.3	4.4	4.2	2.7					
4 言語事項	68.8	68.7	67.3	60.0	60.0	60.0	8.8	8.7	7.3					

(2) 中領域の比較

中領域別集計 (正答率%)			川 越			全 国			全国との差			傾 向		
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向				
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19		
1-1 目的や場に応じて話すこと	83.2	85.2	84.5	82.8	82.8	82.8	0.4	2.4	1.7					
1-2 意図を考えながら聞くこと	92.4	93.3	92.4	91.6	91.6	91.6	0.8	1.7	0.8					
2-3 目的や意図に応じた書き方の工夫	70.3	71.3	69.5	66.5	66.5	66.5	3.8	4.8	3.0	↑	↑	↑		
2-4 書く材料を整理すること	69.4	70.0	69.1	64.4	64.4	64.4	5.0	5.6	4.7	△	△	↑		
2-5 文章の組み立ての効果を考える	69.8	70.4	70.8	60.0	60.0	60.0	9.8	10.4	10.8	△	△	△		
2-6 効果的な表現にすること	65.8	68.6	67.4	61.8	61.8	61.8	4.0	6.8	5.6	↑	△	△		
3-7 心情や場面描写を読み取ること	62.7	62.3	60.6	58.3	58.3	58.3	4.4	4.0	2.3	↑	↑			
3-8 要旨を読み取ること	69.5	69.3	67.6	66.0	66.0	66.0	3.5	3.3	1.6	↑	↑			
3-9 事実と感想の関係を押さえて読む	40.6	41.6	41.0	38.3	38.3	38.3	2.3	3.3	2.7		↑			
4-10 語句の類別	62.9	63.6	63.7	49.5	49.5	49.5	13.4	14.1	14.2	△	△	△		
4-11 語句の構成・由来の理解	72.4	69.7	69.3	69.8	69.8	69.8	2.6	-0.1	-0.5					
4-12 漢字の読み・書き・送り仮名	68.4	68.9	67.0	58.3	58.3	58.3	10.1	10.6	8.7	△	△	△		

(3) 平成17・18・19年度 ともに
全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差
1	2	内容を正しく聞き取る (1-2-9)	93	94	-1	93	94	-1	91	94	-3
	1	適切な話し方・確認 (2-1-3)	93	96	-3	93	96	-3	92	96	-4
3	7	場面を読み取る・汽車 (7-1)	80	84	-4	81	84	-3	78	84	-6
	7	内容を読み取る・それ (7-2)	73	75	-2	74	75	-1	72	75	-3
4	12	漢字読み・看読 (13-3)	90	91	-1	90	91	-1	89	91	-2

(4) 全国・川越 ともに
通過率30%以下の小問

・細部読み取り・原因	(8-2)
・文章表現・まるで	(9-1)
・漢字送りがな・新たに	(15-2)

()は問題番号

(5) 小問における課題と指導の手だて

課題 指示語の内容を正確に読みとらせるにはどのように指導したらよいか。

教科書第6学年上P. 24～P. 31「生き物はつながりの中に」

<指導の手だて>

指示する語の内容を明らかにする学習は、文章の内容を正確に読みとらせるために重要な活動である。ここでは、まず、指示する語が指す内容を読み取る。次に、指示する語を含む文に、内容を表す文を当てはめ、意味の通る文にする。この活動を通し、読む力を育成しながら書く力も高めていきたい。

指示する語を追求！

1 指示する言葉の内容の読みとり方を知る。

- ① 指示する言葉の内容を探す。
 - ・ 指示する言葉の内容は、通常その言葉の前にあることを確認させる。
- ② 書き出した内容を指示する言葉と置き換えて、意味が通る文章にする。
 - ・ 筆者の主張に合っているのか、他に必要な言葉はないのかを確認する。

あなたが昨日食べたカレーライスのお肉は、あなたの体を作るタンパク質に変わって、今あなたの一部として働いています。つまり、外から取り入れたものが自分の一部になるのが生き物なのです。ロボットの場合、電池がイヌの体に変わることは決してありません。電池は電池、ロボットはロボットです。外から取り入れたものが自分の一部になる、そのようなつながり方でつながっているのが、生き物の特徴です。

学習課題 傍線部「その」が指している内容を考えよう。

- ① 「その」より前の部分から探そう。
- ② 「その」が指していると思われる内容を書き出してみよう。

(例)「外から取り入れたものが自分の一部」

- ③ 書き出した内容を「その」に置き換えて文を書き換えてみよう。

(例)「外から取り入れたものが自分の一部」ようなつながり方でつながっているのが、生き物の特徴です。

↓
・ これでは文としてはおかしい。他に必要な言葉、または余計な言葉がついているのではないか確認する。

↓
・ 書き出した内容に「になる」を付け足す。

↓
「外から取り入れたものが自分の一部になる」ようなつながり方でつながっているのが、生き物の特徴です。

2 本文の中で、他の指示する言葉を見付け、上記の活動を繰り返す。

P 2 4 L 8 「 <u>その</u> ちがい」	P 2 6 L 9 「 <u>その</u> ような」
P 2 5 L 4 「 <u>この</u> ように」	P 2 7 L 6 「 <u>この</u> ような」
P 2 6 L 3 「 <u>そこ</u> で」	P 2 8 L 5 「 <u>この</u> ように」
P 2 6 L 3 「 <u>ここ</u> で」	P 2 8 L 1 3 「 <u>この</u> つながり」

3 2 で書いた文の適否をグループで話し合う。

4 内容の重複を避け、読みやすさや文としてのリズムを整えるために、指示する語が適切に使われていることに気付かせる。



5 中学校第2学年（内容第1学年）

全体の傾向
 偏差値平均は、前年から0.2ポイント上昇し、全国を2.1ポイント上回っている。大領域については、各内容で全国の正答率を上回っている。中領域では、「漢字を正しく読むこと・書くこと」など、ほとんどの領域が全国正答率を上回っているが、「文の構造について理解する」「文脈の中での語句の意味の理解」が全国を下回っている。小問では「叙述に即した読み取り」が全国を10ポイント下回っている点が目につく。また、通過率30%を下回るものもいくつか見られ、「読むこと」と言語事項の指導に課題があることがわかる。
 今後は、学習指導過程の改善など、より具体的な手立てにより、課題解決に向けた指導内容の重点化を工夫することも考慮したい。

(1)大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 話すこと・聞くこと	74.3	74.3	74.0	72.0	72.0	72.0	2.3	2.3	2.0			
2 書くこと	68.0	67.7	69.4	65.3	65.3	65.3	2.7	2.4	4.1			
3 読むこと	51.3	52.3	52.1	51.5	51.5	51.5	-0.2	0.8	0.6			
4 言語事項	44.2	46.8	47.0	42.0	42.0	42.0	2.2	4.8	5.0			

(2)中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 考えや意図、構成に注意すること	79.9	79.6	79.7	76.7	76.7	76.7	3.2	2.9	3.0	↑		↑
1-2 効果的な話題を選んで話すこと	76.1	76.0	73.8	74.4	74.4	74.4	1.7	1.6	-0.6			
1-3 意図を理解し合って話し合うこと	58.4	59.3	60.8	56.3	56.3	56.3	2.1	3.0	4.5		↑	↑
2-4 書く材料の収集、吟味、検討	72.7	72.6	75.1	73.4	73.4	73.4	-0.7	-0.8	1.7			
2-5 文章を推敲、批評すること	66.4	66.0	67.4	62.3	62.3	62.3	4.1	3.7	5.1	↑	↑	△
3-6 文脈の中での語句の意味の理解	54.1	54.2	52.0	55.6	55.6	55.6	-1.5	-1.4	-3.6			↓
3-7 文章の構成や展開を把握すること	31.4	31.8	32.6	32.5	32.5	32.5	-1.1	-0.7	0.1			
3-8 主題・要旨の把握、見方・考え方	51.6	53.8	53.9	51.6	51.6	51.6	0.0	2.2	2.3			
3-9 文章の内容把握や要約、情報収集	72.6	72.5	73.4	71.0	71.0	71.0	1.6	1.5	2.4			
4-10 文の構造について理解する	32.7	35.2	36.3	41.0	41.0	41.0	-8.3	-5.8	-4.7	▼	▼	↓
4-11 単語について理解する	37.1	39.2	36.3	33.4	33.4	33.4	3.7	5.8	2.9	↑	△	
4-12 漢字を正しく読むこと・書くこと	51.9	54.9	57.8	50.1	50.1	50.1	1.8	4.8	7.7		↑	△

(3)平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問
 (全国通過率との開きがある小問10問)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	スピーチへの質問意見 (1-3-エ)	64	68	-4	63	68	-5	64	68	-4
2	5	手紙の書き方・時候 (4-1)	84	88	-4	84	88	-4	83	88	-5
	5	手紙の批評 (4-3-ウ)	77	79	-2	74	79	-5	74	79	-5
3	6	叙述に即した読み取り (7-1)	25	30	-5	24	30	-6	20	30	-10
	6	語句の内容理解 (7-2)	69	72	-3	69	72	-3	70	72	-2
	6	語句・かくして (8-2)	65	69	-4	64	69	-5	63	69	-6
4	11	文の成分・主語 (11-1-1)	22	27	-5	25	27	-2	22	27	-5
	10	語句・負われて (11-1-2)	33	41	-8	35	41	-6	36	41	-5
	11	文の成分・述語 (11-3-B)	45	48	-3	47	48	-1	45	48	-3
	12	漢字の書き・専門 (13-2)	35	44	-9	41	44	-3	42	44	-2

(4)全国・川越 とともに
 通過率30%以下の小問

- ・語句の選び方 (3-2)
- ・叙述に即した読み取り (7-1)
- ・内容の読み取り (10-1)
- ・文の成分・主語 (11-1-1)
- ・単語・文節の理解 (11-2-3)
- ・文の成分・主語 (11-3-A)

()は問題番号

(5) 小問における課題と指導の手立て

課題 確かな漢字の力を身につけさせるためにはどのように指導したらよいか。

教科書第1学年 「漢字①～漢字⑥など」

〈指導の手立て〉

漢字を「読める・書ける」から「使える」ようにするためには、日頃から漢字の使い方の意識を持ち、調べ・考える取組が大切である。その場限りの暗記では、実の場で生きる漢字の力は身に付かない。必要な時に、必要な漢字を使えてこそ、「確かな漢字の力が身に付いた」と言えるのである。国語の授業における「漢字の指導」は、取り立て指導とともに文章の中で適切に使える力を身に付けさせたい。

「短文」をつくることで、漢字力を向上させる

教科書の「漢字」教材では、特に多くの新出漢字が提出されている。説明文や小説などでは、文脈から「意味」を考えることもできるが、「漢字」教材では、一度に数多くの漢字が示されている。そこで、「確かな漢字の力」を身に付けさせる方法として次のような取組が効果的である。

- ①教科書体で書かれた「形」を丁寧に押さえる。
※必要に応じて「書き順」や「誤字」の指導を行う。
- ②読みを確認する。
※複数の読み方（音読み・訓読み等）も確認させる。
- ③二字または三字の熟語等にする。
※教科書の付録などを参照させることも可能である。
- ④辞書を使い、意味を正確に理解する。
※国語辞典の使い方についても適宜指導する。
- ⑤短文をつくる。
※主語（主部）＋修飾語（修飾部）＋述語（述部）の形を基本とする。



【具体例】

- 形
- 読み
- 熟語
- 意味
- 短文

『床』 まだれ 7画

ショウ・とこ・ゆか

きしょう とこのま ゆかした
『起床』・『床の間』・『床下』

- 「起床」 …ねどこからおき出ること。
- 「床の間」 …ざしきの上座に、床を一段高くして、掛け軸などをかざる所。
- 「床下」 …床の下。縁の下。



	主語（主部）	修飾語（修飾部）	述語（述部）
起床	私は	八時に	起床した。
床の間	父が	床の間に掛け軸を	飾った。
床下	弟が	床下でお金を	拾った。

【活用例】

年間を通した取組として、ワークシート形式のプリントや漢字練習ノートを活用することも有効である。また、小テストや定期テストで、熟語を短文にする問題を出題する、習った漢字を使って日記や生活文を書くなど、あらゆる機会をとらえ、学習の定着を図りたい。

6 中学校第3学年（内容第2学年）

全体の傾向

偏差値平均は、全国を1.7ポイント上回っている。大領域については、各内容で全国の正答率を上回り、特に言語事項については全国を6ポイント上回っている。中領域においても、「漢字を正しく読むこと・書くこと」が全国を9.4ポイント上回るなど、安定した学力を示している。しかし、小問別に見ると全国の通過率を下回るもの、通過率30%以下のものもそれぞれ8問ある。

これまで課題としてあげられたものが、例年同じように指摘される現状を考えたとき、学習内容の定着を図るために、日常生活に結び付いた「言葉の力」を身に付けさせる指導方法等の改善が求められる。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
					51.3			51.5			51.7		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	
1 話すこと・聞くこと	85.2	86.0	85.3	84.7	84.7	84.7	0.5	1.3	0.6				
2 書くこと	71.4	70.9	70.8	70.0	70.0	70.0	1.4	0.9	0.8				
3 読むこと	50.1	49.4	49.7	48.5	48.5	48.5	1.6	0.9	1.2				
4 言語事項	40.1	41.7	43.0	37.0	37.0	37.0	3.1	4.7	6.0				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
		H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1	構成や展開を考えて聞き話す	84.5	85.5	84.1	84.7	84.7	84.7	-0.2	0.8	-0.6			
1-2	説得力のある表現の仕方	83.9	84.9	84.1	82.3	82.3	82.3	1.6	2.6	1.8			
1-3	話し合いを効果的に展開すること	87.2	87.7	87.7	86.8	86.8	86.8	0.4	0.9	0.9			
2-4	書く材料の収集・内容の明確化	76.3	77.2	76.3	73.3	73.3	73.3	3.0	3.9	3.0	↑	↑	↑
2-5	構成や論理の展開を工夫して書く	70.0	68.6	68.4	67.4	67.4	67.4	2.6	1.2	1.0			
2-6	文章を推敲、批評すること	70.6	70.2	70.4	69.9	69.9	69.9	0.7	0.3	0.5			
3-7	語句の効果的な用法の理解	55.9	54.5	56.1	54.4	54.4	54.4	1.5	0.1	1.7			
3-8	論理の展開や文章の特徴の把握	49.7	49.2	48.5	48.5	48.5	48.5	1.2	0.7	0.0			
3-9	叙述に即した思考・心情の理解	42.8	42.8	42.4	41.2	41.2	41.2	1.6	1.6	1.2			
4-10	文の成分や組み立ての理解	30.1	32.1	34.4	30.7	30.7	30.7	-0.6	1.4	3.7			↑
4-11	単語の活用についての理解	33.7	34.1	34.6	33.0	33.0	33.0	0.7	1.1	1.6			
4-12	漢字を正しく読むこと・書くこと	47.5	49.8	51.5	42.1	42.1	42.1	5.4	7.7	9.4	△	△	△

(3) 平成17・18・19年度 ともに
全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	細部の聞き取り (1-2)	69	72	-3	69	72	-3	68	72	-4
	2	インタビュー時の注意 (2-エ)	92	94	-2	93	94	-1	92	94	-2
2	6	推敲・主述の対応 (5-エ)	82	84	-2	82	84	-2	81	84	-3
3	7	語句・はつらつたる (8-1)	49	53	-4	50	53	-3	51	53	-2
	9	要点の読み取り (8-7)	79	82	-3	80	82	-2	79	82	-3
	7	語句・一服 (8-8)	78	81	-3	77	81	-4	79	81	-2
	9	主題の読み取り (8-10)	60	62	-2	60	62	-2	60	62	-2
4	11	活用形種類・誘い (11-3-E)	27	29	-2	26	29	-3	27	29	-2

(4) 全国・川越 ともに
通過率30%以下の小問

・叙述に即した読み取り	(9-2-2)
・要旨の読み取り	(9-3)
・内容の要約	(10-4)
・単語に分ける	(11-1-2)
・活用形種類・誘い	(11-3-E)
・漢字の書き・拾得	(13-1)
・漢字の書き・有頂天	(13-3)
・漢字の筆順	(14-1)

()は問題番号

(5) 小問における課題と指導の手立て

課題 古典教材の指導をどのように行うか。

教科書第2学年P. 105～P. 127「古典に親しむ」

(指導の手立て)

古典教材の指導に当たり、「音読・暗唱」を重点化する取組は、生徒の意欲を引き出し、表現力を高めることにもつながる。日本の文化として、これまで大切に継承されてきた古典の学習は、日本語の美しい表現やリズムを持ち、豊かな人間性を形成する上でも意義がある。教科書教材以外の資料集等を活用しながら、音読・暗唱の時間を確保した学習の指導過程を工夫することで、より効果的な学習が可能となる。

古典教材の音読・暗唱を工夫しよう

古典教材の音読・暗唱は、さまざまな工夫とともに取り組まれているが、3年間を系統的に指導することが大切である。生徒の意欲を喚起する、幅広い学習活動を展開しながら、古典学習の充実を図り、「言葉の力」を育成したい。

1 音読の工夫

(1) 基盤を築く

古典以外の教材（説明文・小説・詩等）でも、日常的に音読を行う機会を増やす。

※「微音読」「指名音読」「一斉音読」「範読」「群読」などさまざまな読みを、使い分け、活用する。

(2) 古典教材の音読・暗唱を行う

古典教材での音読は「微音読」と「一斉音読」を中心に行う。

特に「微音読」は、範読の後、繰り返し行わせる。「歴史的仮名づかい」や「リズムと間」を意識させることにより、暗唱への第1ステップとなる。

2 古典暗唱の具体例

(1) 「暗唱カード」を配り、暗唱の仕方や約束事を確認する。

※暗唱をする際には必ず持ってくる。

提出までは大切に保管する。練習は「微音読」で行う。など

(2) 授業後半10分間を「暗唱タイム」として設定する。古典学習が終わるまで、毎時行う。

「暗唱タイム」では、暗唱の練習を中心に古典学習プリント（冊子にして配布）への取組を行う時間とする。「暗唱チャレンジカード」と「古典学習プリント」を活用する。

(3) 「暗唱タイム」では、各自、教師の前で暗唱をし、合格できたら合格印を所定の場所に押す。教材の難易度を考慮し、中級・上級・特級などに分け、生徒の意欲化を図る。なお、必修課題を設定し、これに合格したら、各自で選んで暗唱をすることができる。

(4) 「暗唱カード」と「古典学習プリント」の提出の際には、認め印を押していただくなど保護者に協力を仰ぐ。

3 指導の工夫

(1) 「暗唱タイム」の約束事はしっかりと確認する。

(2) 放課後や休み時間等でも、暗唱を可とし、特に長い教材では積極的に活用させる。

(3) 取組の遅れている生徒や苦手とする生徒には、個別指導を行い、目標を明確にさせる。

(4) 提出後、評価をして返却する。



2学年国語「古典」暗唱チャレンジカード

※暗唱をする際には、必ずこのカードを持ってくる。
このカードは最終提出まで持たないよう、大切に保管してください。

必修課題 暗唱 11
平安物語巻頭 P:11

自分のペースで、目標達成にチャレンジしよう。

	中級	上級
枕草子(第1段) P106～P107		合格印
平家物語(扇の節) P113～P116 合格印は3つ	合格印	合格印
徒然草(冒頭) P118	合格印	
にわかにある恋紙 P119～P119		合格印
音読 P122	合格印	
絶句 P124	合格印	
異質筆にて…… P125	合格印	

II 社会

1 小学校第4学年（内容第3学年）

全体の傾向

平成17年、18年、19年と、各領域の正答率は徐々に上がってきている。しかし、「昔のくらしや道具」の中領域での正答率が、平成19年度も全国平均を下回る結果となった。絵や写真を通しての学習だけでなく、昔の道具に実際に触れたり、使ったりして体験的に学習することが必要とされる。また、「絵地図による移り変わりの理解」に関する小問の正答率が、全国・川越ともに他の問題に比べて低く、資料活用等の力を高める指導が必要であると考えられる。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	
1 身近な地域	80.2	80.9	80.8	78.3	78.3	78.3	1.9	2.6	2.5				
2 地域の人々の生産と販売	68.7	69.0	70.0	67.4	67.4	67.4	1.3	1.6	2.6				
3 昔のくらし (選択)	81.8	82.2	82.5	84.7	84.7	84.7	-2.9	-2.5	-2.2				
3 安全な生活 (選択)	74.2	75.0		72.0	72.0		2.2	3.0					

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向			
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	
1-1 公共施設の工夫と利用	84.4	85.4	86.1	82.6	82.6	82.6	1.8	2.8	3.5			↑	
1-2 町のような調べ方	85.3	85.7	84.6	84.5	84.5	84.5	0.8	1.2	0.1				
1-3 地図から土地のようすを知ること	73.9	74.7	75.0	70.9	70.9	70.9	3.0	3.8	4.1	↑	↑	↑	
2-4 店ではたらく人々の仕事や工夫	68.5	68.1	69.2	67.3	67.3	67.3	1.2	0.8	1.9				
2-5 農家ではたらく人々の仕事や工夫	71.5	72.1	72.1	68.0	68.0	68.0	3.5	4.1	4.1	↑	↑	↑	
2-6 工場ではたらく人々の仕事や工夫	67.4	68.8	69.9	66.0	66.0	66.0	1.4	2.8	3.9			↑	
3-7 昔のくらしや道具	86.0	86.4	86.5	89.8	89.8	89.8	-3.8	-3.4	-3.3	↓	↓	↓	
3-8 絵地図による移り変わりの理解	73.3	73.8	74.6	76.8	76.8	76.8	-3.5	-3.0	-2.2	↓	↓		
3-7 交通事故や警察の仕事	77.4	77.5		79.6	79.6		-2.2	-2.1					
3-8 消防の仕事と火事を防ぐ施設	70.5	72.2		64.4	64.4		6.1	7.8		△	△		

(3) 平成17・18・19年度 ともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
3	7	新旧の道具・そろばん (14-1)	92	97	-5	91	97	-6	91	97	-6
	7	新旧の道具・ランプ (14-2)	92	98	-6	92	98	-6	93	98	-5
	7	新旧の道具・井戸 (14-3)	92	96	-4	93	96	-3	92	96	-4
	7	新旧の道具・しちりん (14-4)	88	94	-6	89	94	-5	89	94	-5
	7	道具の移り変り・洗濯 (15-1-1)	92	95	-3	91	95	-4	90	95	-5
	7	道具の移り変り・暖房 (15-1-2)	90	91	-1	90	91	-1	88	91	-3
	7	道具と生活の変化 (15-2-1)	71	81	-10	70	81	-11	71	81	-10
	8	絵図・町の移り変り (16-1-1)	80	85	-5	80	85	-5	81	85	-4
	8	絵図・町の移り変り (16-1-2)	92	97	-5	93	97	-4	93	97	-4
	8	町の移り変わる理由 (16-2-7)	62	70	-8	63	70	-7	63	70	-7

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 「昔の暮らし」の学習において、道具や暮らしの移り変わりについての理解を深めるには、どのように指導したらよいか。

副読本「かわごえ上」P. 82～P. 107「川越市の人々の暮らしのうつりかわり」
〈指導の手立て〉

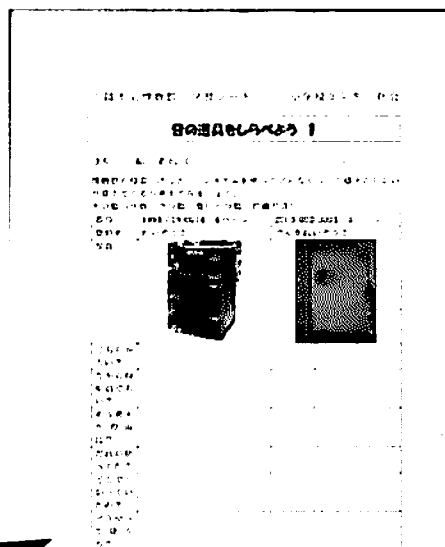
「昔の暮らし」の学習では、体験的な学習が重要となる。実際に昔の道具を見て・触れる活動やお年寄りや自分のお父さんお母さんに、昔の生活の話聞くなどの活動が考えられる。

① 昔の道具調べ

- ・各家庭にある昔の道具を持ち寄ったり、博物館で借りたりなどしてできるだけ多くの道具を集める。また、実際にそれらの道具をさわったり、使ったりする体験をする。
- ・今と昔の道具を比べながら、さわったり、使ったりしてみる。



博物館資料検索システムを利用し、コンピュータでの道具検索により、昔の道具への興味を広げ、今と昔の生活の変化を理解する。



② 暮らしのうつりかわり

今と昔の川越駅や学区周辺の写真を比べ、暮らしの変化を話し合う。



地域のお年寄りをゲストティーチャーとして招いたり、お父さんお母さんへインタビューしたりして、地域の人々の暮らしの変化を調べる。



暮らしの様子の違いを年表や絵地図にして表す。

★この学習は、特に正答率が低かった小問「町の移り変わる理由」に関わる学習活動となる。1学期の単元「わたしたちのまち」で学習する絵地図や地図記号の理解、川越市のマップ作りの活動との関連が深い。

2 小学校第5学年（内容第4学年）

全体の傾向

ほとんどの領域で全国平均を上回っているが、平成17年、18年と比べて正答率に大きな変化はない。全国平均を下回る領域は、「読図・ダム」「再利用の工夫」「事故・消防署」である。中でも「読図・ダム」「再利用の工夫」の小問の正答率は、全国との差が大きい。また、全国平均を上回っているが、正答率の低い領域に「地図から読み取る昔の開発」がある。

以上のことから、全国・川越ともに、地図、表、グラフを読み取る問題の正答率が低いことがわかり、資料活用等の力を高める指導が必要であると考えられる。

(1) 大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
	1 健康な生活と安全な生活	74.3	75.0	74.5	72.9	72.9	72.9	1.4	2.1	1.6		
2 地域の開発と人々の生活	73.4	73.8	73.4	70.6	70.6	70.6	2.8	3.2	2.8			
3 県のように人と人々の暮らし	59.4	62.0	62.0	56.7	56.7	56.7	2.7	5.3	5.3			

(2) 中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 水の利用と水源の確保	71.0	72.6	72.1	70.7	70.7	70.7	0.3	1.9	1.4			
1-2 ごみの処理とリサイクル	84.1	83.1	83.1	82.5	82.5	82.5	1.6	0.6	0.6			
1-3 安全を守る警察の仕事	75.6	76.2	75.2	72.7	72.7	72.7	2.9	3.5	2.5		↑	
1-4 消防の仕事や火事を防ぐ工夫	68.5	69.8	69.2	66.5	66.5	66.5	2.0	3.3	2.7		↑	
2-5 今に伝わる昔の暮らし	83.4	83.0	81.7	79.2	79.2	79.2	4.2	3.8	2.5	↑	↑	
2-6 地図から読み取る昔の開発	53.3	54.3	53.6	48.8	48.8	48.8	4.5	5.5	4.8	↑	△	↑
2-7 資料から考える昔の開発	79.7	80.3	80.6	78.1	78.1	78.1	1.6	2.2	2.5			
3-8 地図記号を通して町を知る	60.2	62.2	62.5	58.9	58.9	58.9	1.3	3.3	3.6		↑	↑
3-9 地図を見て土地の様子を知る	55.8	57.9	58.0	52.0	52.0	52.0	3.8	5.9	6.0	↑	△	△
3-10 県の産業やその特色	60.8	64.0	63.9	57.7	57.7	57.7	3.1	6.3	6.2	↑	△	△

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国平均を下回る問題

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	(%)								
			平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差
1	1	読図・ダム (1-3)	70	71	-1	70	71	-1	67	71	-4
	2	再利用の工夫 (5-1)	80	84	-4	80	84	-4	78	84	-6
	3	事故・消防署 (6-1-2)	32	34	-2	31	34	-3	31	34	-3

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 「地図から読み取る昔の開発」についての理解を深めるには、どのように指導したらよいか。

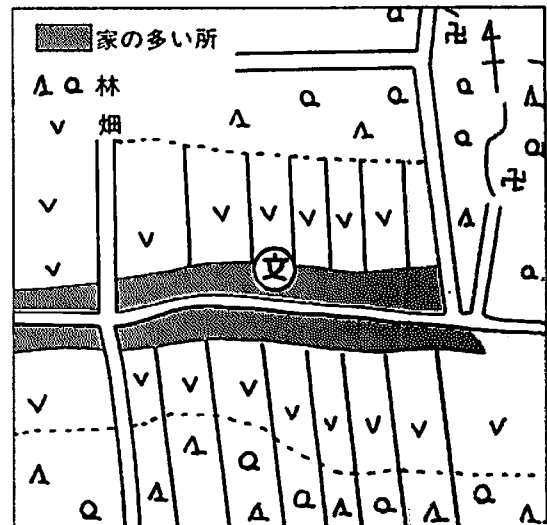
副読本「かわごえ下」P. 56～P. 69「先人のはたらき」

<指導の手立て>

地図を読み取る力を付けるためには、地図記号に親しむとともに、作業的な学習をおおして読図の視点に気づかせるなどの工夫が必要である。地図記号については、正しく読み取れない児童もいる。繰り返し指導する中で地図記号に慣れ、興味をもって地図を読む経験を重ねることが必要である。また、特定の地図記号や道路、河川、等高線に着目させるよう、着色する作業をおおして、読図のポイントをつかませたりする工夫も大切である。さらに、写真と地図を比較する作業から、分かったことを話し合う中で、地図を正しく読み取る力を育てていきたい。

- ①今と昔の三富の航空写真や地図を比較し、興味・関心を高める。
- ②開発後と開発前の様子を航空写真や地図から見て、分かったことを出し合う。
- ③白地図「三富の開たく」を使って、土地の利用の様子について調べる。
ここでは、地図記号に慣れるようにする。

この地図から読み取れることは、なんですか？
畑と林、それぞれの記号を違う色で囲んでみよう。



今の三富のようす

畑の後ろに林があるね。
道にそって、家がたくさんあるね。



地図からたくさんのが読み取れて、様子が分かって楽しいね。



★地図や資料を読み取る学習は、繰り返し行うことで、読み取り方が分かり、読み取る目が養われる。計画的にしていねいに扱いたい。

3 小学校第6学年（内容第5学年）

全体の傾向

大領域別に見ると「わが国の農業や水産業」「通信と国民生活」で、3年連続して全国平均を下回っているが、その差は小さくなってきている。「わが国の国土のようす」については、連続して全国平均を上回っており、理解が進んできている。中領域別で見ると「日本の農業」「日本の水産業」「工業生産の仕組と工業製品」「情報伝達手段の発達と情報の活用」が続けて平均を下回っている。さらに、農業や水産業に関する内容についての正答率もあまり高くない。そこで、農業や水産業は生活に関わりが深い身近な産業であることに気づかせながら、地図や資料等を積極的に活用し、児童の興味・関心を高め、理解を深めていくことが課題である。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
					50.1			49.6			50.2		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	
1 わが国の農業や水産業	52.9	52.2	54.6	55.3	55.3	55.3	-2.4	-3.1	-0.7				
2 わが国の工業生産	57.9	57.0	57.8	57.5	57.5	57.5	0.4	-0.5	0.3				
3 通信と国民生活	65.9	64.1	64.3	66.4	66.4	66.4	-0.5	-2.3	-2.1				
4 わが国の国土のようす	56.0	55.4	56.2	52.7	52.7	52.7	3.3	2.7	3.5				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
		H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1	日本の農業	45.9	45.0	47.7	49.1	49.1	49.1	-3.2	-4.1	-1.4	↓	↓	
1-2	農業生産を高める工夫と自給	53.7	51.2	52.7	51.5	51.5	51.5	2.2	-0.3	1.2			
1-3	日本の水産業	64.2	65.8	68.7	70.0	70.0	70.0	-5.8	-4.2	-1.3	▼	↓	
2-4	工業生産の仕組と工業製品	79.8	77.2	78.5	80.5	80.5	80.5	-0.7	-3.3	-2.0		↓	
2-5	資料から読み取る工業のようす	39.4	41.3	41.1	38.8	38.8	38.8	0.6	2.5	2.3			
2-6	日本の工業地帯の特色	53.5	50.8	52.2	53.2	53.2	53.2	0.3	-2.4	-1.0			
2-7	日本の工業と貿易の特色	64.0	64.0	64.7	63.0	63.0	63.0	1.0	1.0	1.7			
3-8	情報伝達手段の発達と情報の活用	74.1	72.1	71.9	75.4	75.4	75.4	-1.3	-3.3	-3.5		↓	↓
3-9	発達する情報機器とその利用	54.9	53.4	54.0	54.5	54.5	54.5	0.4	-1.1	-0.5			
4-10	日本の周りの国や海と気候の特色	47.1	48.3	48.3	44.4	44.4	44.4	2.7	3.9	3.9		↑	↑
4-11	日本の土地利用と地形の特色	72.8	69.1	70.9	69.5	69.5	69.5	3.3	-0.4	1.4	↑		
4-12	公害問題や環境を守る活動	55.0	54.1	55.5	50.3	50.3	50.3	4.7	3.8	5.2	↑	↑	△

(3) 平成17・18・19年度 ともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	米の生産量の多い県 (1-1)	42	58	-16	49	58	-9	52	58	-6
		米の生産調整 (1-3)	32	34	-2	30	34	-4	29	34	-5
		都市近郊の野菜作り (4-1)	48	58	-10	41	58	-17	47	58	-11
2	5	資料・1工場当生産額 (7-2)	51	52	-1	46	52	-6	46	52	-6
		資料・中小工場 (7-5)	43	45	-2	43	45	-2	42	45	-3
3	8	情報の発達・伝達手段 (12-1)	65	67	-2	60	67	-7	60	67	-7
		情報の発達・衛星中継 (12-2)	72	76	-4	72	76	-4	72	76	-4
		情報機器・ファックス (13-1)	64	65	-1	61	65	-4	58	65	-7
4	10	放送の工夫・文字放送 (13-2)	83	84	-1	79	84	-5	77	84	-7
		地図・東シナ海 (17-1)	39	43	-4	37	43	-6	39	43	-4

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 日本の水産業の学習の導入時をどのように展開していくか。

教科書「上」P22～P35「水産業のさかんな枕崎市」

〈指導の手だて〉

過去数年間、「漁業」に関する小問の正答率と全国平均との差は縮まりつつあるが、いまだ平均を下回る傾向にある。そこで、「海なし県」のため、接する機会が少ない「漁業」に関する学習について、子どもたちの興味・関心を高めるための工夫が大切である。

〈本学習を推進する上での課題〉

- ・川越市周辺では「漁業」に接する機会が少ない。(漁業を直接見る機会がほとんどない)
- ・海域の名称、漁港名などは、社会科の授業以外では日常接する機会が少ない。

そこで



自ら学習課題を設定し、調べ学習を通して、学習に対する意欲を高める。

学習課題 水産業で働く人々は魚をとるために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。

○自分なりの予想を立てる。

- ・時間や季節の工夫があるのか。
- ・道具や機械に工夫があるのか。
- ・大勢の人が一緒に働いているのか。
- ・獲った魚の保管や輸送はどうしているのか。

○調べる

- ・写真、地図、グラフ、インターネット等の資料を活用。
- ・かつお漁の方法について。
- ・かつおは、日本のどのあたりで獲れるのか。
- ・かつおはどこから、日本の近くにくるのか。
- ・獲ったかつおをどのように、どこからどこへ運ぶか。

○まとめる

- ・自分が立てた予想について、調べた内容をまとめる。

○教師のはたらきかけ

- ・どんな魚が好きですか。(おすし屋さんにはどんな魚があるかな。)
- ・かつお一本づり、まきあみ漁の写真を拡大して示す。
- ・どちらがたくさん獲れるかな。
- ・一本づりのつり針はどのくらい大きいのかな(一本づり用の針と通常の針を示し、児童の興味・関心を高める。)
- ・それぞれの漁法の良い点はどこかな。
- ・漁獲量は増えているのかな。
- ・水産業で働いている人は、増えているのかな。
- ・日本では、かつおをどのくらい食べるのかな。
- ・海はどこでもかつおが獲れるのかな。
- ・獲るだけでなく、ほかの方法もあるのかな。
- ・日本及び太平洋が含まれる地図に調べたことや分かったことをまとめて書き入れてみよう。
- ・水産業の抱える問題としては、何があるかな。

4 中学校第1学年 (内容第6学年)

全体の傾向

大領域別では、昨年に引き続いて全ての分野で全国平均を上回った。中領域では、「日本の工業地域とその特色」「日本の気候とくらし」の正答率が低い。これは、「知識・理解」の不足ではなく、地図や図表等の資料を適切に活用して、それらの意味することを正確に読み取る力が不足しているためと考えられる。ただし「寒冷地の住居の特色」は全国平均を下回っているものの、その差は前年度より大幅に縮まった。歴史的分野では、近代以降の時代的な特色の理解が十分でない。「明治時代から昭和時代の出来事と人物」では、「西郷隆盛と西南戦争」が全国平均を大幅に下回っている。公民的分野では、「日本国憲法についての基本的理解」が大きな課題となっている。三権の抑制と均衡については、その意味・意義を具体的に引き上げ、理解を図っていききたい。

(1)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値 平成17年度平均 49.8		
										平成18年度平均 51.1		
										平成19年度平均 50.9		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 地理的分野	57.9	59.8	60.5	58.2	58.2	58.2	-0.3	1.6	2.3			
2 歴史的分野	52.6	55.4	54.0	53.3	53.3	53.3	-0.7	2.1	0.7			
3 公民的分野	65.7	67.0	66.8	65.0	65.0	65.0	0.7	2.0	1.8			

(2)中領域の比較

中領域別集計 (正答率%)												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 日本の農業とその特色	63.3	66.3	67.1	60.7	60.7	60.7	2.6	5.6	6.4		△	△
1-2 日本の工業地帯とその特色	26.2	27.9	26.1	29.8	29.8	29.8	-3.6	-1.9	-3.7	↓		↓
1-3 日本の水産業	63.3	63.4	63.7	58.5	58.5	58.5	4.8	4.9	5.2	↑	↑	△
1-4 日本の気候とくらし	69.8	71.5	73.6	75.0	75.0	75.0	-5.2	-3.5	-1.4	▼	↓	
1-5 国土についての基礎的な知識	71.4	73.2	75.7	67.5	67.5	67.5	3.9	5.7	8.2	↑	△	△
2-6 縄文から古墳時代のように	62.9	64.3	65.0	61.3	61.3	61.3	1.6	3.0	3.7		↑	↑
2-7 貴族の世の中	49.6	51.9	50.8	50.0	50.0	50.0	-0.4	1.9	0.8			
2-8 武士の世の中	49.0	51.8	49.9	48.9	48.9	48.9	0.1	2.9	1.0			
2-9 明治時代から昭和時代の出来事と人物	56.3	60.2	58.4	59.0	59.0	59.0	-2.7	1.2	-0.6			
3-10 国民主権と政治のしくみ	62.8	64.3	64.5	62.7	62.7	62.7	0.1	1.6	1.8			
3-11 日本国憲法についての基本的理解	66.0	67.4	67.1	67.7	67.7	67.7	-1.7	-0.3	-0.6			
3-12 国際連合のしくみと働き	71.3	71.9	71.1	65.0	65.0	65.0	6.3	6.9	6.1	△	△	△

(3)平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	関東内陸工業地域位置 (2-1-2)	30	40	-10	29	40	-11	30	40	-10
	2	生産額グラフ・京浜 (2-2-B)	21	25	-4	22	25	-3	20	25	-5
	4	寒冷地の住居の特色 (5-2-A)	61	83	-22	62	83	-21	78	83	-5
2	9	西郷隆盛と西南戦争 (10-5)	48	61	-13	49	61	-12	48	61	-13
	8	年表完成・元の興来 (12-1)	40	44	-4	43	44	-1	40	44	-4
	8	年表完成・検地と刀狩 (12-2)	37	45	-8	41	45	-4	39	45	-6
	8	年表完成・禁教と鎖国 (12-3)	49	54	-5	51	54	-3	48	54	-6
	9	年表完成・日露戦争 (12-4)	51	56	-5	54	56	-2	50	56	-6
3	10	内閣の働き・行政 (13-2)	46	58	-12	50	58	-8	50	58	-8
	11	憲法と天皇の地位 (16-7)	58	64	-6	59	64	-5	60	64	-4

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 豊臣秀吉の「検地」と「刀狩」をどのように指導したらよいか

教科書P. 56～P. 57 単元名「3人の武将と全国統一」

〈指導の手立て〉

織豊政権下における「検地」と「刀狩」は、戦国時代を終息させ武家の覇権を継続するために不可欠な政策であった。また、その後の徳川氏による幕藩体制を考える上でも重要な内容である。これらの指導には、年表を活用した歴史的事象の時系列での理解とともに、資料（史料、地図、統計資料など）を活用した理解が大切である。ここでは、豊臣秀吉の「検地」と「刀狩」を中心に、織田信長の政策と関連させながら内容を整理し、児童の理解を図る手立てを提案したい。

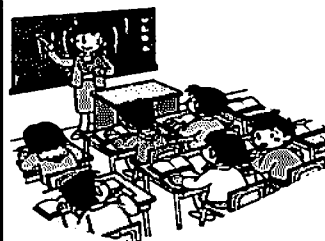
学習課題 「織田信長と豊臣秀吉を比べてみよう」

ねらい：織豊政権下の諸政策を分類し、その意味を考える。

◇学習活動例1 「信長と秀吉 その頃 どんなことがあったかな。」

項目やできごとは、各学校の指導計画、生徒の実態等に応じて、増減等を行う。
分類できたら、教科書等を活用し、年代順に並べかえる。

項目	①政治・経済のしくみについて ②宗教について ③外国とのかかわり
で	A 明智光秀におそわれ戦死する。 B 関白となり、豊臣をなめる。 C 長篠の戦いがおこる。 D 室町幕府をほろぼす。
き	E 平定した国々で検地を行う。 F 安土城を築き城下町で家来や商人を集めて保護する。
ご	G 大阪城を築く。
と	H 延暦寺を焼く。 I 安土城を築く。 J キリスト教が伝わり保護をする。 K 一向一揆を攻撃する。 L 刀狩を行う。 M 朝鮮半島を侵略する



〔活動方法〕各項目とできごとをカードにして黒板に貼り付けられるようにする。各自または学習班ごとに分類させ、結果を発表させる。

◇学習活動例2 あなたが選ぶ織田信長、豊臣秀吉の政治“ベスト3”を発表しよう。

〔活動方法〕学習活動1の成果をもとに、各自または学習班ごとに紙とマジックペンを配り、学習活動1の項目からそれぞれ3つを選び、その理由とともに記入する。記入された用紙を黒板に貼り付けながら、お互いの答えを比べ織豊政権の特色について考えさせる。さらに、2人の政治を受け継ぎ江戸幕府を開いた徳川家康だったらどのように考えるか、予想を立てさせる。

わたし（たち）が選んだ	理 由	徳川家康の「判定」
信長／秀吉の政治 ベスト3		
第1位 ()	1	
第2位 ()	2	
第3位 ()	3	

5 中学校第2学年（内容第1学年）

全体の傾向

大領域の正答率を見ると、平成18年度同様歴史的分野の「原始から古代」「封建の世の中」が全国平均を下回る結果となっている。「封建の世の中」は、1.5ポイント全国平均に近づいた。「原始から古代」では、中領域の「古代国家のあゆみと東アジアの情勢」では、大きく全校平均を下回っている。これらの領域では、小中の学習内容の関連を考慮することで、中学校で学習する内容が明確となり、授業の改善につなげることができる。小問の正答率を見ると、空間認識に関わる問いと、年表に関わる問いの正答率が低くなっている。地図・史料や年表などを多く使った授業の展開によって、これらに関わる基礎的な知識の定着が図れるのではないかと考える。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
					48.8			48.9			49.5		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	
1 世界と日本の地域構成	49.0	49.0	49.2	48.4	48.4	48.4	0.6	0.6	0.8				
2 身近な地域	56.3	56.8	57.4	55.7	55.7	55.7	0.6	1.1	1.7				
3 原始から古代	48.7	48.4	49.9	54.3	54.3	54.3	-5.6	-5.9	-4.4				
4 封建の世の中	46.2	46.6	48.1	50.0	50.0	50.0	-3.8	-3.4	-1.9				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
内 容													
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	
1-1 世界の地域構成	53.8	53.2	53.9	54.4	54.4	54.4	-0.6	-1.2	-0.5				
1-2 日本の地域構成	38.6	39.7	39.1	36.2	36.2	36.2	2.4	3.5	2.9		↑		
2-3 地図の見方と身近な地域	61.2	61.3	61.9	60.7	60.7	60.7	0.5	0.6	1.2				
2-4 都道府県とその調べ方	52.6	53.5	54.1	52.3	52.3	52.3	0.3	1.2	1.8				
3-5 歴史の流れと時代区分	66.2	66.2	67.1	68.3	68.3	68.3	-2.1	-2.1	-1.2				
3-6 古代国家の歩みと東アジアの情勢	43.9	43.5	45.1	50.2	50.2	50.2	-6.3	-6.7	-5.1	▼	▼	▼	
4-7 武家政治の展開とアジアの情勢	45.1	44.4	45.9	48.1	48.1	48.1	-3.0	-3.7	-2.2	↓	↓		
4-8 戦乱から天下統一	47.9	50.0	51.5	53.1	53.1	53.1	-5.2	-3.1	-1.6	▼	↓		

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	国の位置・仏と伊 (2-3)	63	70	-7	66	70	-4	62	70	-8
	2	地域区分・日本の気候 (4-3)	25	31	-6	27	31	-4	23	31	-8
3	6	古代文明の発祥や特徴 (8-1)	43	50	-7	41	50	-9	43	50	-7
	6	年表・大宝律令の制定 (9-1-7)	43	56	-13	43	56	-13	42	56	-14
	6	年表・遣唐使の廃止 (9-1-4)	23	30	-7	23	30	-7	22	30	-8
	6	年表・墨田永年私財法 (9-4-2)	47	55	-8	47	55	-8	49	55	-6
	6	仏教文化と法隆寺 (9-5)	50	60	-10	49	60	-11	52	60	-8
4	7	応仁の乱と戦国時代 (10-3-B)	41	49	-8	38	49	-11	40	49	-9
	7	北条氏・御成敗式目 (11-1-A)	37	44	-7	37	44	-7	36	44	-8
	8	ポルトガルの海外進出 (13-2)	33	36	-3	32	36	-4	30	36	-6

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 単元を再構成し、課題解決的な学習を行う場合、歴史の流れをつかませる手立てをどのようにするか。

教科書P. 32～古代国家の歩みと東アジア世界

<指導の手立て>

本単元は、大陸の文化や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられたこと。天皇の政治が展開されたことを理解させ、律令制度とその特色を考えさせることをねらっている。学習内容としては、東アジアの統一国家、聖徳太子の政治と大化の改新、白村江の戦い、平城京、遣隋使と遣唐使、飛鳥・天平文化、律令国家の確立などがある。これらの学習をとおして、律令制度とその特色を多面的・多角的につかませることで、天皇中心の中央集権国家づくりの背景を具体的にとらえさせる学習である。

単元を通した課題解決的な学習として再構成した場合、奈良時代の日本についてのあらましをつかませるために、ワークシートを活用する。このとは、時代の大きな移り変わりをつかむとともに、基礎・基本の定着を図ることにつながる。

①奈良時代における日本の歴史の流れを年表づくりの作業をとおしてつかませる。

略年表を完成させよう

↑	593年	□ が推古天皇の 摂政となる
(645年	□ → 中大兄皇子と 中臣鎌足
)	663年	□ → 唐と新羅の 連合軍に敗れる
)	672年	□ → 翌年 天武天皇が即位
) 時代 ↓	701年	□ の制定 → 唐のものを手本に
↑	710年	□ に都を移す
(723年	□ の制定 → 律令国家の基礎 が揺らぎ始める
)	743年	□ の制定 → 私有地が広がる
) 時代 ↓	794年	平安京に都を移す

改革の要点をまとめ
変化をとらえよう

593年	□
○ ()	才能で役人を採用
○ ()	役人の心得
○ ()	小野妹子らを派遣

645年	□
◎	方針
○ ()	は日本で初 めての元号

701年	□
○ ()	すべての土地人民は 天皇(国)のもの
○ ()	6歳以上に口分田
○ ()	農民が負担した税

6 中学校第3学年 (内容第2学年)

全体の傾向

平成19年度も大領域の3つとも全て全国の正答率を下回った。特に「二つの世界大戦」は、三年続けて正答率が低下し、全国平均との差が開いてしまった。中領域では、「近代日本の歩みと国際関係」「第一次世界大戦と日本」の正答率が50%を下回っている。その理由は、世界の動きと関連付けながら、時代の変化と特色について理解することが不十分なためと考えられる。年表を効果的に活用させながら、歴史的事実とその背景について、生徒の関心・意欲を喚起しつつ、しっかりと考えさせる授業の工夫が大切である。

(1) 大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 日本と世界の国々	55.7	55.1	56.0	56.8	56.8	56.8	-1.1	-1.7	-0.8			
2 近世から近代の日本	50.7	51.5	50.1	56.7	56.7	56.7	-6.0	-5.2	-6.6			
3 二つの世界大戦	54.3	52.8	51.8	54.0	54.0	54.0	0.3	-1.2	-2.2			

偏差値 平成17年度平均 48.7
平成18年度平均 48.5
平成19年度平均 48.3

(2) 中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 世界の国々とその調べ方	54.5	53.7	53.9	56.8	56.8	56.8	-2.3	-3.1	-2.9		↓	
1-2 自然環境から見た世界と日本の姿	57.7	56.4	58.1	59.0	59.0	59.0	-1.3	-2.6	-0.9			
1-3 人口や産業などから見た日本の姿	51.2	51.2	52.6	52.0	52.0	52.0	-0.8	-0.8	0.6			
1-4 世界とくらべてみた日本の特色	66.7	65.7	65.9	66.4	66.4	66.4	0.3	-0.7	-0.5			
2-5 近代の日本と世界の動き	51.4	52.2	51.1	57.7	57.7	57.7	-6.3	-5.5	-6.6	▼	▼	▼
2-6 近代日本の歩みと国際関係	49.9	50.8	49.0	55.2	55.2	55.2	-5.3	-4.4	-6.2	▼	↓	▼
3-7 第一次世界大戦と日本	49.9	47.8	47.2	49.7	49.7	49.7	0.2	-1.9	-2.5			
3-8 第二次世界大戦と日本	61.1	60.3	58.6	60.3	60.3	60.3	0.8	0.0	-1.7			

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問
(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	世界の気候帯の分布 (1-3)	65	72	-7	63	72	-9	62	72	-10
	2	冷帯の景観・タイガ (1-4)	64	67	-3	61	67	-6	60	67	-7
	3	太平洋ベルトの特色 (6-1)	34	39	-5	34	39	-5	32	39	-7
	3	資料読み取り・輸出先 (7-2-エ)	57	64	-7	57	64	-7	57	64	-7
	4	見出し・歴史と文化 (8-4-B)	70	75	-5	68	75	-7	68	75	-7
	1	選択問題・資料の読み (9-3)	37	41	-4	34	41	-7	33	41	-8
2	6	維新の政策・地租改正 (10-1)	50	56	-6	54	56	-2	47	56	-9
	5	天下の台所・大阪 (11-3)	73	91	-18	75	91	-16	74	91	-17
	5	東海道と伊勢の位置 (11-7)	33	42	-9	34	42	-8	34	42	-8
	5	イギリスの産業革命 (12-1)	39	48	-9	38	48	-10	36	48	-12
2	5	欧米の進出アヘン戦争 (12-2)	49	53	-4	49	53	-4	45	53	-8
2	5	大塩平八郎の乱・大阪 (13-2-0)	52	61	-9	52	61	-9	54	61	-7
2	6	西南戦争・鹿児島 (13-4-B)	42	52	-10	44	52	-8	42	52	-10

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 「第一次世界大戦と日本」をどのように指導したらよいか。

教科書P. 170～P. 175 単元名「第一次世界大戦とアジア・日本」

〈指導の手立て〉

第一次世界大戦に至るまでの経緯や国際関係を的確に理解するためには、歴史的事象の時間的・空間的把握が不可欠である。そのためには年表や世界地図の活用を通して、大戦の要因を具体的に理解させることが大切である。さらに日本と世界の国々との関わりについては、近代化を進め、国際社会での地位を確立しようとする日本の立場を踏まえ、各国との同盟もしくは対立の関係を明らかにする手立てを提案したい。

学習課題「第一次世界大戦とはどのようなできごとだったのか」

ねらい：第一次世界大戦に至るまでの国際関係と日本について理解する。

◇学習活動例1 第一次世界大戦とはどのようなできごとだったのかを考えよう。

[活動方法] 第一次世界大戦当時の記録写真を提示し、従来の戦争とは、その規模や犠牲、関係する国々等が格段に大きいことに気付かせる。

[提示資料例] 写真A：近代兵器の発達（潜水艦、飛行機、戦車、毒ガスなど）

写真B：動員される人々（工場で働く女性、植民地の兵士など）

資料表：第一次世界大戦の規模と被害（兵力、犠牲者、戦費、参加国など）

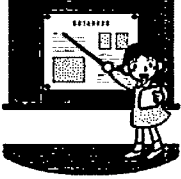
資料図：第一次世界大戦当時の世界（連合国、同盟国、中立国）

写真資料をもとに、そこに撮影されているものを確認させながら、それらの意味について考えさせ、これまでの戦争と比べて、規模の大きさや参加国の範囲の広さに気付かせる。

また、資料図・表と比べながら、当時の複雑な国際関係を整理させる。各国が自国の権益や思惑に基づき他国と同盟関係を結んでいることを理解させたい。

◇学習活動例2 第一次世界大戦前後の各国の動きを年表と地図に整理しよう。

[活動方法] 世界各国の対立・同盟関係を基軸に、第一次世界大戦前後のあらましを調べ、年表と世界地図を用いて整理させる。

西 暦	元 号	連合国の動き	中立国の動き	同盟国の動き
		* 三国協商 []		* 三国同盟 [] 
<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ー 国際関係地図 ー </div>				

上記の例のように、世界地図と年表を組み合わせ、国際関係を整理させる。三国協商・三国同盟・中立国の位置と動きをまとめさせ、相互の関係を理解させたい。

Ⅲ 算数・数学

1 小学校第4学年（内容第3学年）

全体の傾向

大領域では、全領域において全国正答率以上という好結果であった。過去には全国正答率を下回っていた「数と計算」も指導の成果が見られる。小問で全国通過率を下回っている問題数は、「数と計算」領域で25問中14問、「量と測定」領域で15問中7問、「図形」領域で13問中2問、「数量関係」領域で12問中1問である。内容としては、特に「乗法（計算技能）」「そろばん（読み）」「秤のよみ」については、3年連続して全国通過率を下回っており、従来の指導の見直しが必要である。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率％）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
					50.4			50.6			51.0		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	
1 数と計算	72.9	72.4	73.2	73.2	73.2	73.2	-0.3	-0.8	0.0				
2 量と測定	65.8	66.5	66.4	64.7	64.7	64.7	1.1	1.8	1.7				
3 図形	76.5	77.1	78.4	74.6	74.6	74.6	1.9	2.5	3.8				
4 数量関係	78.4	79.5	79.9	77.5	77.5	77.5	0.9	2.0	2.4				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率％）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
		H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19
1-1	数の表し方と、その扱い	77.8	77.5	79.0	79.0	79.0	79.0	-1.2	-1.5	0.0			
1-2	たし算とひき算	85.7	85.9	85.6	86.8	86.8	86.8	-1.1	-0.9	-1.2			
1-3	かけ算	58.1	57.0	58.2	58.4	58.4	58.4	-0.3	-1.4	-0.2			
1-4	わり算	79.5	80.1	80.4	77.5	77.5	77.5	2.0	2.6	2.9			
1-5	そろばん	70.0	65.8	65.5	76.0	76.0	76.0	-6.0	-10.2	-10.5	▼	▼	▼
2-6	長さ、かさ、重さ	64.5	64.8	64.3	62.3	62.3	62.3	2.2	2.5	2.0			
2-7	適切なのはかり方や単位	70.4	71.5	72.9	71.0	71.0	71.0	-0.6	0.5	1.9			
2-8	時刻や時間	67.3	68.9	69.1	68.0	68.0	68.0	-0.7	0.9	1.1			
3-9	箱の形、長方形、直角三角形など	76.4	77.0	78.3	74.6	74.6	74.6	1.8	2.4	3.7			↑
4-10	表やぼうグラフ	78.3	79.4	79.8	77.5	77.5	77.5	0.8	1.9	2.3			

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	万の単位と数の表し方 (1-1)	84	86	-2	85	86	-1	84	86	-2
	2	減法・3位数-3位数 (4-1)	81	83	-2	81	83	-2	80	83	-3
	3	乗法・2位数×1位数 (5-1)	67	74	-7	67	74	-7	69	74	-5
	3	乗法・3位数×1位数 (5-2)	68	72	-4	66	72	-6	69	72	-3
	3	乗法・2位数×2位数 (5-3)	57	60	-3	54	60	-6	54	60	-6
	3	乗法・2位数×2位数 (5-4)	56	59	-3	55	59	-4	55	59	-4
	3	乗法についての性質 (7-1)	89	91	-2	87	91	-4	88	91	-3
	5	そろばん・数の表示 (13)	70	76	-6	66	76	-10	66	76	-10
2	6	秤のよみ・100gめもり (14-3)	46	47	-1	44	47	-3	44	47	-3
	6	秤のよみ・20gめもり (14-4)	21	24	-3	22	24	-2	20	24	-4

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 はかりの目盛りのよみとりを正確に行うとともに重さに対する量感を育てるには、どのように指導したらよいか。

<指導の手立て>

教科書第3学年(下) P.44~P.49 「はかり」

はかりの目盛りをよみとる問題は、入間地区算数数学科学力調査でも毎年低い正答率である。原因としては以下の点が考えられる。

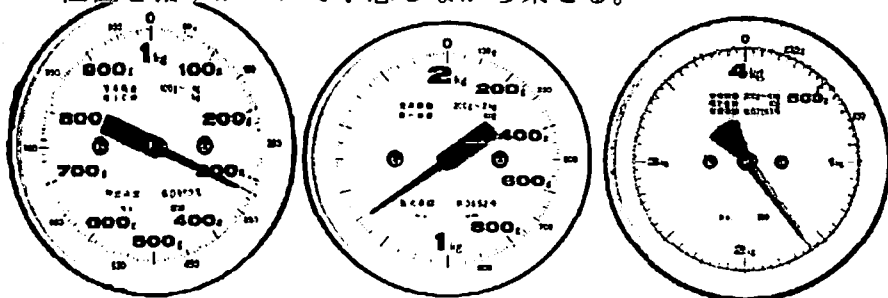
- 原因1：学校には、様々な秤量（そのはかりで測れる重さの限度、使用範囲）のはかりがあり、メーカーによる表記の違いもある。
- 原因2：教科書では、最小目盛りが10g（使用範囲が2kgと4kgのはかり）と5g（使用範囲が1kgのはかり）とがあり、最小目盛りの異なる2種類のはかりのよみとりを混同してしまう。
- 原因3：1kg=1000gという単位の換算に基づいた目盛りのよみとりができず、「1kg100g」を「1kg10g」とよみとってしまう。

以上の原因を踏まえ、はかりの使い方と併せて目盛りをよむ力や量感を育てていきたい。

ア いろいろなはかりで針の動きの違いを確かめる

5g、10g、50g、500g、1kgのおもりを持ち、重さの感じをつかむ。

次に、それぞれのおもりを使用範囲が異なるはかりに乗せると、針がどれくらい動き、どの位置を指すかペアで予想しながら乗せる。



はかりにもいろいろあるんだね。

一目盛りの大きさもはかりによって違うんだ。

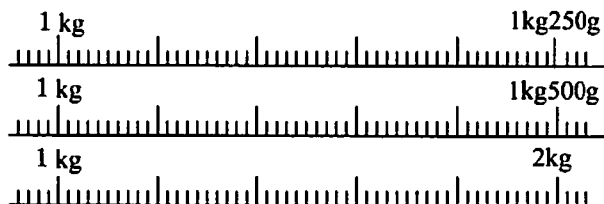


イ 重さの見当をつけた上でよみとる経験をする

測定するものの重さの見当をつける際、100g単位まで見当をつける（1kg~2kgのものが適当）。「だいたい1kg500g」といったように見当をつけた上で、適切なはかりを選択し、針が目盛りのどのあたりを指すか（1kgと2kgの間）を予想した上で乗せる。このときペアでどちらが予想に近いかを競い合うのも意欲化を図る方法の一つである。

ウ いろいろなはかりの目盛りをよみとる経験をする

教科書に載っているはかりは100g単位、200g単位、500g単位まで表示されているため（上の写真参照）、最小目盛りがよみやすい。まずはこれらのはかりで目盛りのよみ方に習熟する。さらに発展として下図のような目盛りでよみとりの練習をしたい。



大きな目盛りから順序よくよんでいけばいいのね。

2 小学校第5学年（内容第4学年）

全体の傾向

全領域において、川越市の昨年度の正答率を下回っている。大領域では、全国正答率と比較しても「量と測定」「図形」領域が3年連続して下回っている。一方、「数と計算」「数量関係」領域では、相変わらず全国正答率を大きく上回っている。小問で全国正答率を下回っている問題数は、「量と測定」領域で15問中10問、「図形」領域で16問中8問、「数量関係」領域で16問中2問であり、「数と計算」領域は16問全て全国正答率を上回っている。内容としては、「単位換算」「面積」「円と球」の多くの設問において3年連続して全国通過率を下回っている。知識の獲得の仕方を丁寧に指導する必要がある。

(1) 大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
	1 数と計算	74.3	75.6	75.2	68.8	68.8	68.8	5.5	6.8	6.4		
2 量と測定	66.4	66.8	66.4	69.3	69.3	69.3	-2.9	-2.5	-2.9			
3 図形	79.0	79.7	78.7	80.0	80.0	80.0	-1.0	-0.3	-1.3			
4 数量関係	74.2	75.3	75.1	70.6	70.6	70.6	3.6	4.7	4.5			

偏差値 平成17年度平均 50.7
平成18年度平均 51.2
平成19年度平均 50.9

(2) 中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 億・兆、整数を表すしくみ	72.6	73.3	73.6	70.3	70.3	70.3	2.3	3.0	3.3		↑	↑
1-2 がい数、四捨五入	21.0	26.3	26.1	21.0	21.0	21.0	0.0	5.3	5.1		△	△
1-3 わり算	72.2	72.8	71.8	67.0	67.0	67.0	5.2	5.8	4.8	△	△	↑
1-4 小数の意味、表し方、計算	87.5	88.1	88.4	79.6	79.6	79.6	7.9	8.5	8.8	△	△	△
1-5 分数	73.6	75.6	73.9	68.3	68.3	68.3	5.3	7.3	5.6	△	△	△
2-6 面積	61.0	60.5	60.6	64.4	64.4	64.4	-3.4	-3.9	-3.8	↓	↓	↓
2-7 角	74.4	76.2	75.2	76.2	76.2	76.2	-1.8	0.0	-1.0			
3-8 二等辺三角形、正三角形、円など	78.9	79.6	78.6	80.0	80.0	80.0	-1.1	-0.4	-1.4			
4-9 2つの量の関係、折れ線グラフ	79.0	82.1	81.3	74.6	74.6	74.6	4.4	7.5	6.7	↑	△	△
4-10 公式などのいろいろな式	74.3	76.4	75.9	75.0	75.0	75.0	-0.7	1.4	0.9			
4-11 分類整理、折れ線グラフ	65.2	61.5	62.7	57.3	57.3	57.3	7.9	4.2	5.4	△	↑	△

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
2	6	単位換算・㎡→cm (10-1)	19	32	-13	23	32	-9	20	32	-12
	6	単位換算・km→㎡ (10-2)	15	28	-13	18	28	-10	17	28	-11
	6	正方形の面積 (11-1)	41	51	-10	40	51	-11	41	51	-10
	6	長方形の面積 (11-2)	83	87	-4	80	87	-7	82	87	-5
3	8	円の理解・半径 (18-1)	89	93	-4	89	93	-4	86	93	-7
	8	円の理解・直径 (18-2)	84	88	-4	85	88	-3	83	88	-5
	8	球の切り口の形 (19)	62	72	-10	60	72	-12	59	72	-13
	8	正三角形の意味 (23-2)	81	90	-9	80	90	-10	79	90	-11
	8	二等辺三角形の理解 (25-㉑)	88	90	-2	87	90	-3	85	90	-5
4	10	四則の混じった計算 (27-1)	67	72	-5	66	72	-6	67	72	-5

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 円の性質についての理解を確かなものにするためには、どのような算数的活動をすればよいか。

<指導の手立て>

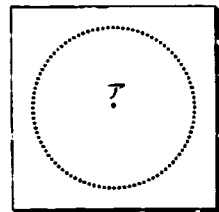
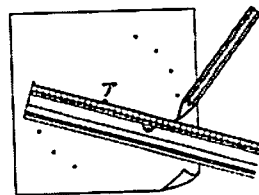
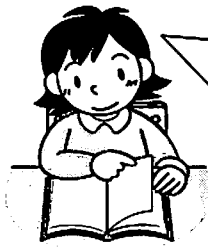
教科書第4学年(上) P.13~P.17 「円」

円の中心や半径、直径を指摘する問題の通過率は概ね85%だが、どの設問も全国通過率を下回っている。また、2円と外接する長方形の問題は25%という低い通過率であった。原因としては、円の中心や半径、直径の存在を発見したり、円の中心や半径、直径の関係について考えたりする活動が不足していると考えられる。

そこで、以下のように作図を通して円の性質についての理解を深めていきたい。

ア 「円」の存在を発見する

教科書にある宝探しの絵を用いて、基点から等距離の点をたくさん打つことにより、円らしきものが見えてくる。しかしそれでは不十分であり、隙間を埋めていこうという発想から点のつながり(線)を導き、円の存在を発見する。

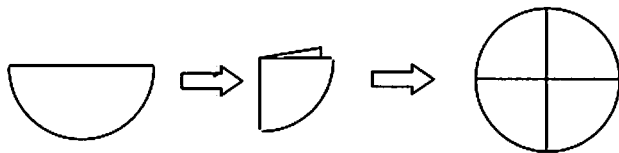
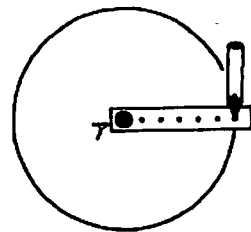


イ 「中心」「半径」の存在を発見する

基点から等距離の線のかき方を考え、各自用意した道具を使って、円をかく。この際に「円」「中心」「半径」を発見するとともに、それぞれの意味について理解する。

ウ 「直径」の存在を発見し、半径との関係に気付く

円に切り取った色紙を使って「中心を発見しよう」という課題のもとに、色紙を1/4に折り、開いた折り目を観察することで、交点が中心になっていることや4本の半径の存在に気付く。また、円を半分に折ったときの折り目に目を向け、「直径」の存在を発見するとともに、半径の2倍になっていることに気付く。



折り目が直径になっているんだ。半径の2つ分が直径になっているよ。

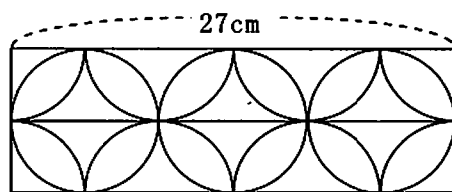
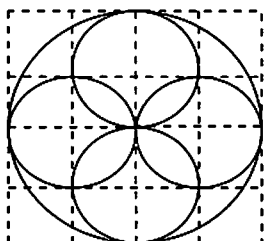


エ いろいろな大きさの円をかく

いろいろな長さの半径(直径)の円をコンパスを使ってかく活動を通して、コンパスは半径の長さを開くことを理解する。

オ コンパスを使って指定された模様をかく

下図のように、円だけを組み合わせた模様や円と長方形を組み合わせた模様をかく活動を通して、半径、直径の長さや中心の位置をよみとる力を育てる。



コンパスの針はどこに刺すのだろう。直径が0cmだから半径はΔcmだ。



3 小学校第6学年（内容第5学年）

全体の傾向

大領域の比較では、今年度も「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべてにおいて全国正答率を上回っている。特に「数量関係」については、昨年度からの伸びが大きい。小問では、全国通過率より下回っている問題数は、66問中9問である。特に「直線の平行」「直線の垂直」については、四角形の性質や面積の学習につながる内容であるから、平行や垂直の意味は確実に理解させたい。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
					50.7			51.1			51.9		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	
1 数と計算	62.4	63.5	65.1	62.2	62.2	62.2	0.2	1.3	2.9				
2 量と測定	41.8	42.4	44.4	40.7	40.7	40.7	1.1	1.7	3.7				
3 図形	56.6	57.2	57.8	55.6	55.6	55.6	1.0	1.6	2.2				
4 数量関係	49.6	50.4	52.0	47.1	47.1	47.1	2.5	3.3	4.9				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
		H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1	整数についての見方	50.4	49.6	48.6	47.7	47.7	47.7	2.7	1.9	0.9			
1-2	整数と小数のしくみ	75.0	75.6	76.4	77.5	77.5	77.5	-2.5	-1.9	-1.1			
1-3	小数のかけ算とわり算	57.7	60.4	62.1	58.7	58.7	58.7	-1.0	1.7	3.4			↑
1-4	分数と、そのたし算・ひき算	70.4	70.7	73.9	68.8	68.8	68.8	1.6	1.9	5.1			△
1-5	がい数	43.7	46.0	52.0	44.0	44.0	44.0	-0.3	2.0	8.0			△
2-6	面積	41.8	42.4	44.4	40.7	40.7	40.7	1.1	1.7	3.7			↑
3-7	いろいろな図形、平行・垂直	56.5	57.1	57.7	55.6	55.6	55.6	0.9	1.5	2.1			
4-8	計算のきまり	35.2	38.9	40.3	29.0	29.0	29.0	6.2	9.9	11.3	△	△	△
4-9	百分率	49.3	49.4	50.5	48.8	48.8	48.8	0.5	0.6	1.7			
4-10	円グラフ、帯グラフ	62.1	61.9	62.8	58.3	58.3	58.3	3.8	3.6	4.5	↑	↑	↑
4-11	2つの量の関係の見方や調べ方	48.8	49.6	51.8	46.7	46.7	46.7	2.1	2.9	5.1			△

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	小数の位取り・百倍 (1-1)	81	87	-6	82	87	-5	83	87	-4
	2	小数の位取り百分の一 (1-2)	85	89	-4	86	89	-3	86	89	-3
	2	十進位取り記数法 (1-4)	87	91	-4	88	91	-3	89	91	-2
2	6	三角形の面積 (12-1)	51	55	-4	49	55	-6	52	55	-3
3	7	直線の平行 (18-1)	76	82	-6	68	82	-14	70	82	-12
	7	直線の垂直 (18-2)	72	78	-6	67	78	-11	68	78	-10
	7	対角線が垂直な四角形 (19-3)	31	35	-4	32	35	-3	33	35	-2
4	9	割合の百分率への換算 (25)	82	84	-2	80	84	-4	80	84	-4

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 算数的な活動を通して、垂直・平行の理解を深めるにはどのように指導したらよいか。

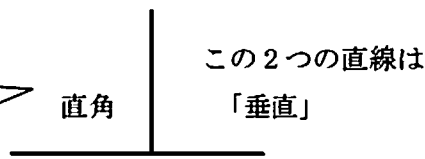
<指導の手立て>

教科書第5学年(上) P. 34~P. 42 「垂直・平行」

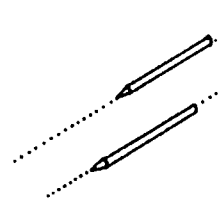
垂直と平行の直線をかき活動では、基本的な作図技能を身に付けていることに加え、垂直や平行についての意味を正しく理解していることが重要である。しかし、意味の理解が曖昧であったり、平行と垂直を逆に覚えてしまったりしたまま作図について学習をした児童は、三角定規をどう動かすかということばかり意識してしまい、作図技能も身に付かないことになる。平行や垂直の線をかき活動の前に、意味を十分感覚的に理解できるようにしたい。

ア 2本の鉛筆やひごなどを使って垂直や平行の意味を感覚的に理解させる

2本の棒が直角に開いているとき、その2本の位置関係を「垂直」という。

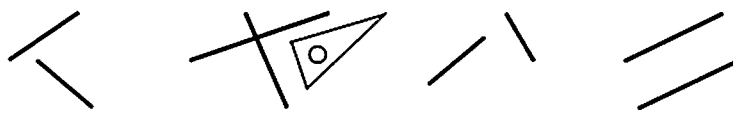


2本の棒の幅がどこまでも同じであるとき、その2本の位置関係を「平行」という。



イ いろいろな位置で垂直や平行を理解させる

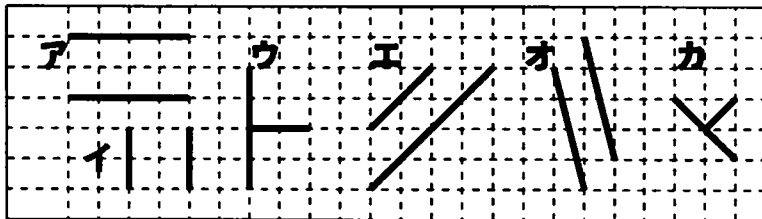
任意の位置の2本の直線の関係を、三角定規などで調べる。



平行なら、直線をのばしても交わらない。

ウ 平行や垂直をかき活動では段階的に指導し、三角定規の使い方に意味があることを感じさせる

(ア) 方眼紙を使って、垂直や平行な直線をかく。

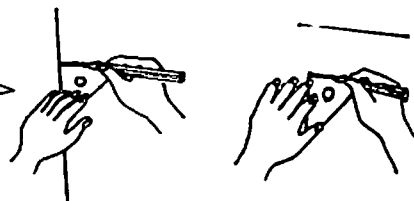


斜めだけれど、かたむきが同じ2本の直線は平行になっているね。カのような場合も垂直なのね。

(イ) 白紙にひかれた直線に対して、垂直や平行な直線をかく。

まず、三角定規1つを使ってかいてみる。

垂直は、かきにくいなあ。



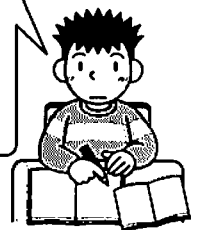
平行は、三角定規をずらしても正確に平行にならないなあ。

次に、三角定規を2つ使ったかき方を確かめる。

いろいろな向きの垂直や平行な直線をかき練習をする。



もう1枚の三角定規をおさえに使うといいんだ。



4 中学校第1学年（内容第6学年）

全体の傾向

大領域ではすべての内容において全国正答率を上回っている。中領域ではほとんどの内容が、全国と同程度または少し上回っているが、「整数の性質」で3.8ポイント下回っており、「概数、四捨五入」「2つの量の関係の見方や調べ方」も若干下回っている。小問では、62問中13問が全国通過率を下回っている。「概数での積の見積り」「2量の関係式」などについて、毎年課題となっている。それらはこの先の学習において重要な部分であるから、基礎基本の内容を確実に身に付けさせたい。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値										
		平成17年度平均									50.8	
		平成18年度平均									51.7	
		平成19年度平均									51.3	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 数と式	56.5	58.9	58.4	55.9	55.9	55.9	0.6	3.0	2.5			
2 図形	54.6	56.3	55.0	51.2	51.2	51.2	3.4	5.1	3.8			
3 数量関係	57.5	58.2	57.7	56.7	56.7	56.7	0.8	1.5	1.0			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		偏差値										
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 がい数、四捨五入	39.4	41.7	40.7	41.5	41.5	41.5	-2.1	0.2	-0.8			
1-2 整数と小数のしくみ	69.9	71.8	72.2	70.0	70.0	70.0	-0.1	1.8	2.2			
1-3 小数のかけ算とわり算	62.2	63.2	63.5	57.0	57.0	57.0	5.2	6.2	6.5	△	△	△
1-4 整数の性質	57.5	64.8	61.7	65.5	65.5	65.5	-8.0	-0.7	-3.8	▼		↓
1-5 分数の計算	55.8	58.1	57.5	54.3	54.3	54.3	1.5	3.8	3.2		↑	↑
2-6 平面図形	36.8	38.0	38.0	33.5	33.5	33.5	3.3	4.5	4.5	↑	↑	↑
2-7 立体図形	70.4	72.6	70.0	67.3	67.3	67.3	3.1	5.3	2.7	↑	△	
3-8 百分率、円グラフ、帯グラフ	51.9	52.9	52.6	50.0	50.0	50.0	1.9	2.9	2.6			
3-9 2つの量の関係の見方や調べ方	50.7	52.2	51.5	52.3	52.3	52.3	-1.6	-0.1	-0.8			
3-10 比、比例	71.9	72.3	71.0	70.0	70.0	70.0	1.9	2.3	1.0			
3-11 平均、単位量あたり、速さ	42.9	43.4	44.4	42.8	42.8	42.8	0.1	0.6	1.6			

(3) 平成17・18・19年度 ともに全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	概数での積の見積り (5-1)	57	59	-2	57	59	-2	58	63	-5
	5	分数の乗法・立式 (10-1)	21	28	-7	20	28	-8	24	28	-4
2	6	三角定規と角の大きさ (11-2)	53	55	-2	53	55	-2	54	55	-1
3	9	2量の関係式 (22-1)	60	66	-6	63	66	-3	62	66	-4
	9	2量の関係式 (22-2)	52	56	-4	51	56	-5	52	56	-4
	10	比例関係の適用 (23-1)	39	43	-4	41	43	-2	38	43	-5

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 概数の計算（積、商の見積り）の学習では、どのように個に応じた指導を行えばよいか。

<指導の手立て>

教科書第6学年（上）P. 14、P. 15「がい数で計算しよう」

概数の計算については、教科書では4時間程度の扱いであり、指導時数は多くない。しかし、日常生活においてよく使われる考えであり大切な内容である。ここでの問題を解決するには、四捨五入のしかたや計算のきまりなどを正しく理解していることが必要である。これらの学習の理解が不十分な児童には、ここで確実に理解できるようにしたい。

ア 児童がどこにつまずいているのか把握し、

次の計算の積や商を見積りましょう。

$$51763 \times 38$$

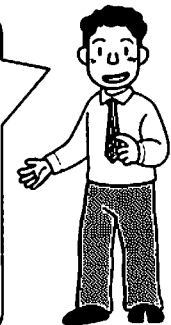
$$93147 \div 31$$



つまずきに応じた指導をする

どこにつまずいているのかな？

- ①四捨五入ができない。
- ②四捨五入すべき数からわからない。
- ③四捨五入した後のかけ算やわり算の計算のしかたがわからない。



(ア) ①②のつまずき

どこの位を四捨五入するか考えるようにする。

大きな数を上から2けたの概数にして計算しよう

概数のしかたを4年生の学習どおり
ていねいに書く。

$$52000$$

$$51\cancel{7}63$$



上から2けたまで残すには
3けた目の数を四捨五入して・・・

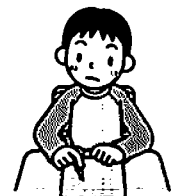
四捨五入や計算のきまりを使えるようになると便利だね。

(イ) ③のつまずき

計算のきまりを使うと、大きな数でも簡単に計算できることに気付くようにする。

52000×38は、52×1000×38だから、52×38を1000倍すればいいね。

90000÷30は、わる数わられる数を両方10でわっても商は変わらないから、9000÷3=3000でいいね。



イ 日常生活の場面に応じて、どのように見積もるのが適しているか考えさせる

遠足の費用が1人分198円の時、97人分で何円でしょう。

およそいくら知りたいときは・・・
上から1けた？2けた？どちらで計算する？

集金したお金を確かめるには、概数ではなく正確な計算結果が必要だね。

上から2けたで四捨五入して計算する。

$$198 \rightarrow 200$$

$$97 \rightarrow 100$$

$$200 \times 100 = 20000 \text{ (円)}$$



$$197 \times 97 = 19206 \text{ (円)}$$

およそ20000円だったね。
見積もっておくと、大きな計算の間違いをしないですね。

5 中学校第2学年（内容第1学年）

全体の傾向

大領域では、「数と式」で全国正答率を4.1ポイント上回っているが、「図形」では0.3ポイント、「数量関係」では1.7ポイント下回っている。また、小問において全国通過率を下回っている問題数は、「数と式」で32問中7問、「図形」で17問中9問、「数量関係」で16問中11問である。特に「文字式の表し方」「立体と展開図」「 x の変域」の問題は3年連続して10ポイント前後低く、指導の工夫・改善が必要である。

(1) 大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 数と式	61.2	62.9	64.7	60.6	60.6	60.6	0.6	2.3	4.1			
2 図形	45.8	45.6	46.8	47.1	47.1	47.1	-1.3	-1.5	-0.3			
3 数量関係	50.5	53.1	53.9	55.6	55.6	55.6	-5.1	-2.5	-1.7			

偏差値 平成17年度平均 49.3
平成18年度平均 50.0
平成19年度平均 50.7

(2) 中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 正の数・負の数	71.6	73.0	74.1	73.1	73.1	73.1	-1.5	-0.1	1.0			
1-2 文字を使った式と、その計算	64.1	65.9	68.0	61.6	61.6	61.6	2.5	4.3	6.4		↑	△
1-3 一次方程式	48.7	50.4	52.4	49.1	49.1	49.1	-0.4	1.3	3.3			↑
2-4 作図、平面図形の理解	50.0	49.9	49.4	51.0	51.0	51.0	-1.0	-1.1	-1.6			
2-5 空間図形と図形の面積・体積など	42.0	41.7	44.4	43.9	43.9	43.9	-1.9	-2.2	0.5			
3-6 比例、反比例、座標	50.4	53.0	53.7	55.6	55.6	55.6	-5.2	-2.6	-1.9	▼		

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	数直線・負数の意味 (2-2)	76	81	-5	75	81	-6	76	81	-5
	2	文字式の表し方 (4-2)	64	74	-10	65	74	-9	66	74	-8
2	4	基本的な作図の手順 (15-4)	43	46	-3	39	46	-7	41	46	-5
	5	立体と展開図 (17-1)	51	64	-13	47	64	-17	52	64	-12
	5	条件に合う立体を選ぶ (18-2)	43	45	-2	42	45	-3	40	45	-5
3	6	y が x に比例 (23-1オ)	57	63	-6	59	63	-4	57	63	-6
	6	x の変域 (24-3)	44	52	-8	44	52	-8	44	52	-8
	6	比例定数 (25-1)	36	43	-7	38	43	-5	39	43	-4
	6	比例のグラフが通る点 (28-1)	36	46	-10	41	46	-5	42	46	-4
	6	反比例グラフが通る点 (28-2)	31	40	-9	37	40	-3	36	40	-4

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 「立体の名称とその展開図の関係」及び「面や線を動かしてできる立体」の理解を確かなものにするには、どのように指導したらよいか。

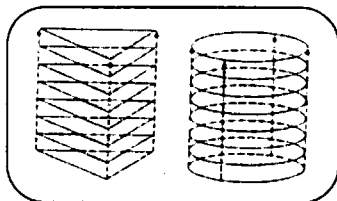
<指導の手立て>

教科書第1学年P.144～「立体と空間図形」

条件にあう立体を選ぶ問題が全国通過率より下回っている原因は、立体の名称やその構成要素が正しく理解されていないためと考えられる。また、面や線を動かしてできる立体の問題が全国通過率より下回っている原因は、「平面に垂直な方向に一定の距離だけ移動させてできた立体」「ある平面図形を直線を軸にして1回転させてできた立体」という意味が理解できていないためと考えられる。そこで、以下のようにコンピュータグラフィックス(CG)を利用した授業を展開し、立体の見方、考え方を広げる活動を通して理解が深められるようにしたい。

ア 底面と側面に分けて、立体の名称との関係について考える

平面図形の運動によって立体ができる様子をCGで見せ、立体の名称について考えさせる。例えば、底面である多角形や円を一定の方向に平行移動させてできる立体の名称には、底面の形の名称が使われていることに気付かせる。



立体の名称→〔底面の形〕〔錐または柱〕

(例) 三角柱 → 三角 柱

「底面の形は何か?」「柱状か錐状か?」

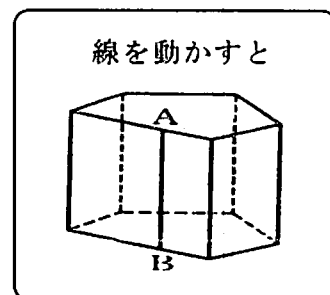
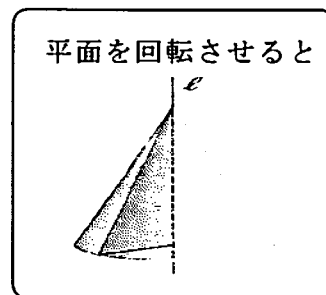
*正角柱・正角錐の場合、側面は合同な図形になっているが、名称には関係ないことを確認する。

イ 平面や線を動かしてできる立体を考える

CGを見せたり、実際に一人一人にコンピュータを操作させたりして理解させる。

【指導過程】

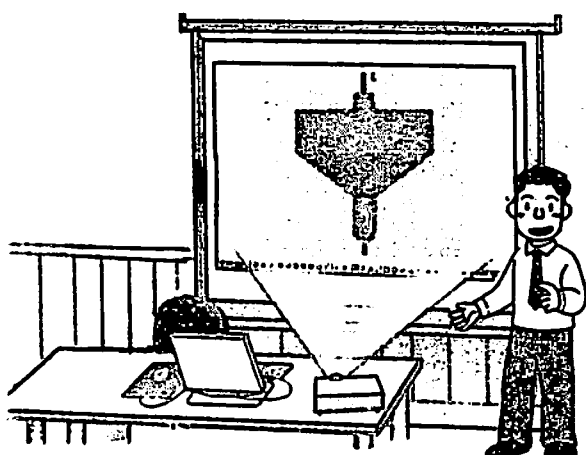
- ①立体の見取り図を予想させる。
- ②コンピュータを操作させる。
- ③予想との相違を考えさせる。
- ④発展として、自由にいろいろな平面を考えさせ、①～③と同様の操作を行う。



★教室で授業を行う場合

【準備】・プロジェクタ1台・ノートパソコン1台・CGソフト等

・電子黒板またはスクリーン(模造紙の白などでも可)1台



【使用ソフトの例】・市販の図形ソフト

- ・文部科学省『教育用コンテンツ開発事業』
「算数・数学の思考過程をイメージ化する動画素材集」*インターネットでダウンロード
<http://www.dainippon-tosho.co.jp/mext/nhk/index.html>
(埼玉県立総合教育センター「デジタルコンテンツ」などにも、デジタル教材あり)
- ・教科書(啓林館)の指導書 付属 CD-ROM
電子教科書「ますなび先生」

★コンピュータ教室を使う場合

L A N (SKYMENU Pro Ver.7) を活用すると教材を一斉配信でき便利である。

6 中学校第3学年（内容第2学年）

全体の傾向

大領域では、「数と式」で全国正答率を4.4ポイント上回っているが、「図形」では2.9ポイント下回り、「数量関係」は全国正答率とほぼ同じである。ここ3年間において、「数と式」の正答率はいずれの年も全国正答率を上回っているのに対し、「図形」の正答率はいずれの年も下回っている。小問においても、「数と式」では20問中14問で全国通過率を上回り、「数量関係」では19問中10問で全国通過率を上回っているのに対し、「図形」では22問中20問で全国通過率を下回っている。「図形」領域での指導法の工夫や改善が望まれる。

(1) 大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
	1 数と式	52.5	53.8	54.9	50.5	50.5	50.5	2.0	3.3	4.4		
2 図形	65.6	64.1	65.3	68.2	68.2	68.2	-2.6	-4.1	-2.9			
3 数量関係	33.1	32.0	34.0	33.7	33.7	33.7	-0.6	-1.7	0.3			

(2) 中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 文字式の計算と利用	53.5	55.2	55.9	51.9	51.9	51.9	1.6	3.3	4.0		↑	↑
1-2 (連立) 二元一次方程式	48.0	48.4	50.9	45.3	45.3	45.3	2.7	3.1	5.6		↑	△
2-3 平面図形、平行線、角の性質	71.7	70.3	71.0	73.9	73.9	73.9	-2.2	-3.6	-2.9		↓	
2-4 図形の性質、三角形の合同、証明	62.2	60.7	62.0	64.6	64.6	64.6	-2.4	-3.9	-2.6		↓	
3-5 一次関数	37.1	36.2	37.8	38.4	38.4	38.4	-1.3	-2.2	-0.6			
3-6 場合の数、確率	21.6	20.1	23.3	21.2	21.2	21.2	0.4	-1.1	2.1			

(3) 平成17・18・19年度 ともに全国通過率を下回る小問
(全国通過率との開きがある小問10問)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
2	3	角の大きさ・錯角 (12-2)	72	74	-2	68	74	-6	70	74	-4
	3	正五角形の外角 (12-4)	62	66	-4	60	66	-6	61	66	-5
	4	三角形の合同の利用 (15-1)	64	68	-4	60	68	-8	60	68	-8
	4	直角三角形合同の利用 (17)	62	68	-6	58	68	-10	63	68	-5
	4	平行四辺形の性質 (18-2)	64	69	-5	61	69	-8	63	69	-6
	4	証明・錯角の利用 (19-1)	52	54	-2	50	54	-4	50	54	-4
3	5	一次関数・yの値 (22-1-A)	46	53	-7	43	53	-10	44	53	-9
	5	一次関数・xの値 (22-1-B)	50	54	-4	46	54	-8	49	54	-5
	5	一次関数・変化の割合 (23-1)	26	32	-6	26	32	-6	27	32	-5
	5	一次関数・yの増加量 (23-2-1)	45	48	-3	44	48	-4	44	48	-4

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 平行四辺形の性質を利用した証明の学習では、個に応じた指導をどのようにしたらよいか。

<指導の手立て>

教科書第2学年P. 96～「証明」

証明を指導する場合、形式的な書き方を指導しがちで、生徒も形式のみ覚えようとする傾向がある。根拠を明らかにしながら証明を進める態度と論理的な思考を養うためには、「証明とは『仮定』から出発して、すでに正しいと認められていることがらを根拠にして、『結論』を導くことである」ということを十分に理解させることが大切である。また、平行四辺形の性質を曖昧に覚えたり、混同したりしている生徒には、確実に理解させ、使いこなせるようにしておく必要がある。

ア 命題の「仮定」と「結論」を明確にする

(ア) 問題文をよく読ませる。

問題文の一部分しか読まずに問題を解こうとする生徒には、授業において、日頃から問題文を理解できるまで読むことを身に付けさせる。

(イ) 問題文と図に同じ色で印を付けさせる。

仮定には青、結論には赤のアンダーラインを引き、図にも同じ色で印を付ける等の約束を決め、仮定と結論を明確にできるようにする。

1つの図に仮定と結論を記入すると色分けしても混同してしまう生徒には、仮定を記入する図と結論を記入する図を配布し、それぞれに分けて記入させる。

(ウ) 平行の記号と長さが等しいことの記号を区別できるようにする。

平行であることを表す記号と長さが等しいことを表す記号を混同する生徒がいる。平行線の場合、図に「平行」とかき込ませてもよい。

平行線があるときは、注意してね。



イ 根拠を明らかにしながら証明を進める態度を養う

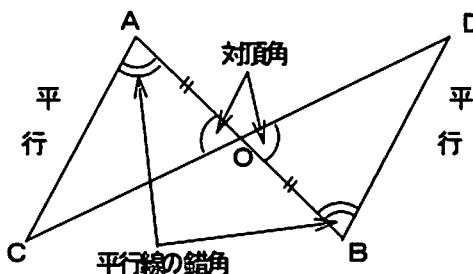
(ア) 図形の性質カードを作成、活用させる。

仮定から、今まで学習してきた基本的な性質や定理を根拠としてさらにいえることは何かを考えさせるために、すでに正しいと認められたことがらをまとめたカードを作って、活用できるようにする。使えるような性質等を図にかき込ませる。

(イ) 同位角や錯角を図にかき込ませる。

平行線がある場合、同位角や錯角を使うことが多いので、図にかき込ませ、証明を考えさせる。

例「線分 AB と線分 CD の交点を O とする。OA=OB、AC//DB のとき、 $\triangle ACO \equiv \triangle BDO$ であることを証明しなさい」



ウ 個に応じるための指導上のポイント

(ア) なかなか証明が進まない生徒

ヒントカードや証明用の穴埋めプリントを配布し、利用できるようにする。

(イ) 学習が進んでいる生徒

証明を結論から逆に考えを進めていく指導を行い、さらに複雑な証明にも対応できるようにする。

練習問題として、発展的な問題を解かせるようにする。

(ウ) 生徒同士が互いに学習を補充し合う学習形態の工夫

自分の証明を隣の生徒に説明する、同じ考えや違う考えをしている生徒に考え方を聴く等により、自分だけでなく他の人を納得させられるような筋道の通った論理的な証明ができるようになる。

IV 理科

1 小学校第4学年（内容第3学年）

全体の傾向

大領域別に見ると前年度に比べ、どの領域でも、全国平均との差がそれぞれ0.1ポイントずつ縮まっている。しかし、中領域で見ると、「昆虫のそだち型や体のつくり」「植物のそだち型や体のつくり」「光の進み方や明るさ・あたたかさ」「じしゃくの磁石」「日なたとひかげの太陽の位置」が全国通過率を下回る結果となった。小問題ごとに見ていくと、どれも学んだことを応用する問題でつまずきが多く見られた。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成17年度平均	49.2	
										平成18年度平均	49.3	
										平成19年度平均	49.3	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 生物とその環境	75.3	76.0	76.1	77.0	77.0	77.0	-1.7	-1.0	-0.9			
2 物質とエネルギー	70.3	70.3	70.4	71.7	71.7	71.7	-1.4	-1.4	-1.3			
3 地球と宇宙	74.1	73.4	73.3	73.1	73.1	73.1	1.0	0.3	0.2			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 こん虫の育ち方やからだのつくり	73.9	74.6	74.8	75.5	75.5	75.5	-1.6	-0.9	-0.7			
1-2 植物の育ち方やからだのつくり	78.4	78.2	78.6	79.6	79.6	79.6	-1.2	-1.4	-1.0			
1-3 こん虫の食べ物やすみか	76.7	78.9	78.1	78.0	78.0	78.0	-1.3	0.9	0.1			
2-4 光の進み方や明るさ・あたたかさ	67.1	66.5	67.8	70.3	70.3	70.3	-3.2	-3.8	-2.5	↓	↓	
2-5 かん電池とまめでんきゅう	83.0	82.3	82.2	81.7	81.7	81.7	1.3	0.6	0.5			
2-6 じしゃくの性質	64.9	65.8	65.2	67.1	67.1	67.1	-2.2	-1.3	-1.9			
3-7 日なたとひかげの太陽の位置	66.6	65.5	64.6	65.9	65.9	65.9	0.7	-0.4	-1.3			
3-8 日なたとひかげの地面のようす	82.7	82.4	83.4	81.5	81.5	81.5	1.2	0.9	1.9			

(3) 平成17・18・19年度 ともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度				
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差		
1	1	トンボの足のつき方 (2-3)	56	68	-12	61	68	-7	63	68	-5		
		昆虫を選び出す・アリ (3-エ)	71	73	-2	67	73	-6	65	73	-8		
		完全変態・カブトムシ (4-2-エ)	57	70	-13	66	70	-4	62	70	-8		
		すみか・カブトムシ (6-2)	50	56	-6	55	56	-1	52	56	-4		
		2種の観察・アサガオ (7-3)	78	84	-6	77	84	-7	77	84	-7		
		2	4	光を重ねて明るくする (12)	60	65	-5	58	65	-7	58	65	-7
				光と温まりやすい条件 (13)	41	49	-8	39	49	-10	44	49	-5
				6 磁石につく条件 (19)	46	62	-16	50	62	-12	51	62	-11
				6 磁石の実験・繋がる釘 (21-4)	91	92	-1	88	92	-4	86	92	-6
		3	7	校舎の影の様子・2時 (23-1-3)	72	75	-3	70	75	-5	70	75	-5

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 磁石に付くものや磁石の性質の理解を深めるにはどのような工夫をしたらよいか。

教科書第3学年 7P. 2 「じしゃくのふしぎをさぐろう」

〈指導の手だて〉

ここで考えられる課題は、磁石の極（S極とN極）の性質は理解しているが、磁石に付く条件や磁石と物との間を空けても引きつける力が働いているということを理解していないことである。また、3年生で学習する「電気を通すもの・通さないもの」との理解が混ざってしまっていると考えられる。

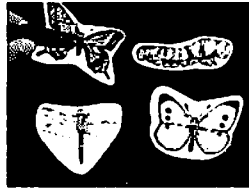


そこで・・・

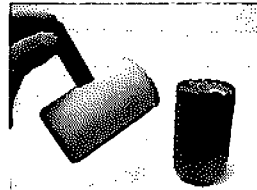
STEP 1

磁石に付く条件を理解する。・磁石には付くものと付かないものがある
・磁石の力は間に紙や空間があっても働く。

「磁石の力で宝探しゲーム！」



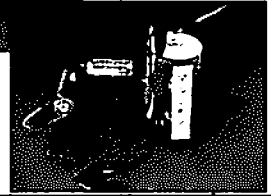
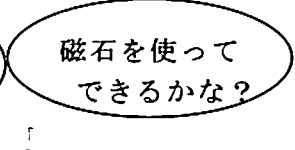
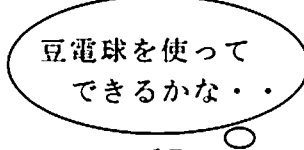
100円は付かないね



電気は通らなかったね。

STEP 2

磁石の性質と電気の性質を、日常的なものを使って理解する。
「アルミ缶とスチール缶を分別しよう！」



STEP 3

身近なもので、磁石の性質をより理解する。

・磁石に付く条件への興味関心を高め、理解を深める。

「家でも探そう！磁石で探検隊！」



磁石につく？つかない？			
・はさみ	○	・鉛筆の芯	×
・水筒	×	・チャック	○
・手すり	△	・ヘアピン	○
・流し台	×	・スプーン	○
・水道	×	・クリップ	○
・100円玉	×	・釘	○
・10円玉	×	・1円玉	×

※ステンレスは、鉄にクロムを10.5%以上混ぜたものは磁石に付きますが、クロム18%とニッケル8%を混ぜた物は付きません。 (注) 銅(10円玉)は半磁性体なので強力な磁石だと付くこともあります

2 小学校第5学年（内容第4学年）

全体の傾向

大領域別に正答率を見ると昨年度より若干下回っている。中領域別では、「動物の活動と季節」「植物の成長と季節」「乾電池や光電池のはたらき」では、全国正答率を5ポイント以上下回っている。小問では、「テントウムシの冬の姿」「圧したときの水と空気」「直列つなぎの特徴」「乾電池の直列つなぎ」については全国と20ポイント程度下回っている。実験や観察に取り組む課題意識をはっきりと持たせ、何が分かったのかを自分の言葉でまとめことのできる学習計画や、個に応じた理解を促す手立てが大切である。

(1) 大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19
	1 生物とその環境	68.2	68.1	67.4	72.6	72.6	72.6	-4.4	-4.5	-5.2		
2 物質とエネルギー	61.6	61.6	61.5	65.4	65.4	65.4	-3.8	-3.8	-3.9			
3 地球と宇宙	55.8	55.6	55.5	57.9	57.9	57.9	-2.1	-2.3	-2.4			

(2) 中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19
	1-1 動物の活動と季節	65.8	66.6	65.7	70.9	70.9	70.9	-5.1	-4.3	-5.2	▼	↓
1-2 植物の成長と季節	73.4	71.4	71.3	76.3	76.3	76.3	-2.9	-4.9	-5.0		↓	▼
2-3 空気や水のかさとおし返す力	71.1	70.6	70.9	72.7	72.7	72.7	-1.6	-2.1	-1.8			
2-4 ものの湿まり方やかさの変化	62.3	62.4	63.0	65.7	65.7	65.7	-3.4	-3.3	-2.7	↓	↓	
2-5 乾電池や光電池のはたらき	55.0	55.3	54.2	60.7	60.7	60.7	-5.7	-5.4	-6.5	▼	▼	▼
3-6 月の動き方	35.0	34.0	34.9	36.5	36.5	36.5	-1.5	-2.5	-1.6			
3-7 星の明るさや動き方	70.5	69.6	69.8	70.0	70.0	70.0	0.5	-0.4	-0.2			
3-8 水のすがたとゆくえ	61.5	62.0	61.4	64.1	64.1	64.1	-2.6	-2.1	-2.7			

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	春のイチョウの様子 (1-1-1)	60	67	-7	57	67	-10	56	67	-11
	2	実ができた後のヘチマ (3-1)	57	63	-6	50	63	-13	50	63	-13
	1	テントウムシの冬の姿 (5-2)	53	70	-17	54	70	-16	50	70	-20
	1	コオロギの冬の姿 (5-3)	29	44	-15	33	44	-11	32	44	-12
2	3	圧したときの水と空気 (6-4)	70	85	-15	64	85	-21	64	85	-21
	4	鉄の熱の伝え方 (8)	44	56	-12	43	56	-13	42	56	-14
	5	直列つなぎの特徴 (12-3)	45	61	-16	45	61	-16	42	61	-19
	5	乾電池の直列つなぎ (12-4)	42	61	-19	41	61	-20	40	61	-21
	5	電流の強さ・直列 (18-1)	60	71	-11	60	71	-11	59	71	-12
3	7	星座の観察・日印 (23-1)	56	63	-7	53	63	-10	50	63	-13

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 直列つなぎや並列つなぎの理解を深めるにはどのような工夫をしたらよいか。

教科書第4学年 P. 16 「電気のはたらき」

〈指導の手だて〉


ここで考えられる課題は、直列つなぎと並列つなぎの特徴は理解しているが、いろいろな回路や回路図を何つなぎか判別する力が不足していることである。電池と導線を使って、自分で回路をつないで確認したり、つないだ回路を図に表したりする学習が必要である。

そこで・・・

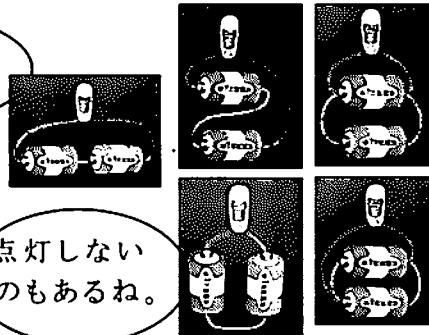
STEP 1

電池シートやライトシートを使って、黒板上で線をつなぎ、
直列つなぎと並列つなぎを理解する。

これは直列つなぎだね。並列は・・・




点灯しないものもあるね。



どんなつなぎ方ができるかな？

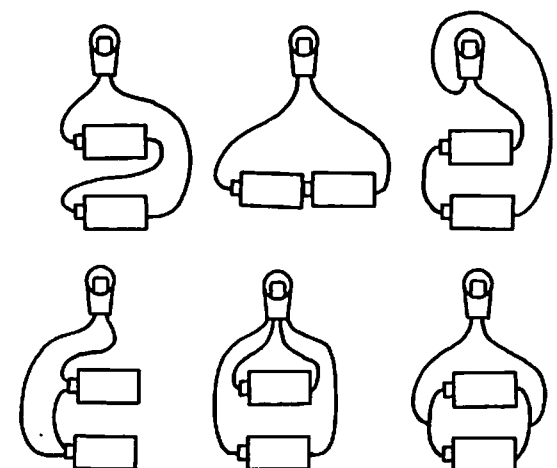
板書用に、マグネットを付けた、電池シートやライトシートを作成するとわかりやすい。



STEP 2

配線図カードから実際の回路を結び、直列つなぎと並列つなぎを見分けられるようにする。
(発展・補充の時間を使って)

配線図カードを見て回路をむすんでみよう



一つ一つの導線をしっかりとどってみよう。

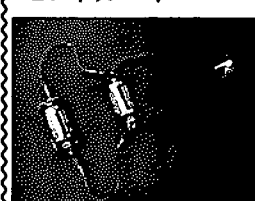
これは直列つなぎかな？
並列つなぎかな？

支援が必要な児童への手立では・・・


STEP 3

配線ヒントカード
(実際に配線モデルを写真に撮ったもの)

ヒントカード



ヒントカード



これがあれば、回路が自分でつなげそうだよ！

明るさでつなぎ方が見分けられるね

見かけは違って見えても、明るく点灯する直列つなぎか、点灯する並列つなぎか、点灯しないつなぎ方に分けられるね。

3 小学校第6学年（内容第5学年）

全体の傾向

大領域では、どの領域も全国正答率を下回っている。しかし、前年度と比較すると全ての領域において正答率は上がっている。中領域でみると、特に「植物の発芽・生長、結実」が2.3ポイントと下回っている。小問で見るとの花のつくりや食塩を溶かす方法に対する正答率が10ポイント以上下回っている。実際に触れたり試したりと体験的に学ぶことで、知識の定着をはかる必要がある。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成17年度平均	48.7	
										平成18年度平均	48.7	
										平成19年度平均	49.2	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 生物とその環境	71.7	72.1	72.8	75.5	75.5	75.5	-3.8	-3.4	-2.7			
2 物質とエネルギー	60.1	59.5	60.3	60.5	60.5	60.5	-0.4	-1.0	-0.2			
3 地球と宇宙	67.4	67.5	68.4	69.2	69.2	69.2	-1.8	-1.7	-0.8			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 植物の発芽・成長・結実	71.7	72.2	72.7	75.5	75.5	75.5	-3.8	-3.3	-2.8	↓	↓	
1-2 動物のたんじょうと成長のようす	71.9	72.0	73.5	75.0	75.0	75.0	-3.1	-3.0	-1.5	↓	↓	
2-3 もののとけ方	52.8	51.4	52.0	53.2	53.2	53.2	-0.4	1.8	-1.2			
2-4 てこのしくみやはたらき	64.2	63.7	65.2	64.8	64.8	64.8	-0.6	1.1	0.4			
2-5 ふりこの動きやおもりのはたらき	73.6	75.4	75.2	73.3	73.3	73.3	0.3	2.1	1.9			
3-6 天気の変化	72.9	72.7	73.1	74.5	74.5	74.5	-1.6	-1.8	-1.4			
3-7 流れる水のはたらきと土地の変化	56.3	57.1	58.9	59.5	59.5	59.5	-3.2	-2.4	-0.6	↓		

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	種子の養分のある部位 (1-1)	60	61	-1	56	61	-5	53	61	-8
		花のつくり・おしべ (3-1-1)	54	69	-15	56	69	-13	55	69	-14
		花のつくり・柱頭 (3-1-2)	52	66	-14	53	66	-13	53	66	-13
		花のつくり・子房 (3-1-3)	54	73	-19	52	73	-21	55	73	-18
		アサガオのおしべ (3-2)	49	60	-11	54	60	-6	53	60	-7
2	3	食塩を多く溶かす方法 (10-3)	44	51	-7	34	51	-17	40	51	-11
		グラフ読み・溶ける量 (11-1)	38	43	-5	37	43	-6	39	43	-4
		てこ・作用点の位置 (15-1)	57	69	-12	58	69	-11	64	69	-5
3	6	気象写真・雲の動き (18-3)	64	66	-2	63	66	-3	62	66	-4
		百葉箱・光の反射 (20-3-7)	73	78	-5	70	78	-8	72	78	-6

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 食塩を多く溶かす方法の理解を深めるには、どのように工夫したらよいか

理科5下 P.20 「ものが水にとける量」

<指導の手立て>

ここで考えられる課題は、食塩とミョウバンの違いがはっきり理解していないことが考えられる。食塩は、温度を上げて溶ける量はあまり変わらないので、水の量を増やすことにより多く溶かすことができる。それに対し、ミョウバンは温度を上げるにつれ、溶ける量がどんどん増える。溶け方はものによって違うことをはっきり理解させることが必要である。



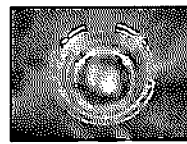
ものによって溶け方がちがうことをはっきり定義する
★ものの溶け方は、溶かすものによって違いがある。
★ものにとける量には限界がある。水の量を増やせば溶ける量も増える。
★通常、水の温度を上げると溶ける量は増える。例外として、食塩は温度での変化は、ほとんどない。

ミョウバン

食塩

15度 → 30度

15度 → 30度



溶けてない

溶けている

溶けていない

溶けていない

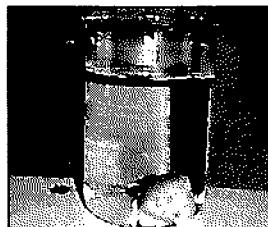
先生も
しっかり理解
いることが
大切なんだ。



トピックス！

溶ける現象を目で確認する！

食塩水に浮くものを生かし、
視覚的に食塩が溶けていうることを理解させる。



食塩水の濃度が薄いとは沈む 食塩水の濃度が濃いと浮く
他にも、ゆで卵、にんじん、大根などでも浮くので
いろんなものを挑戦してみよう。



とける現象を目で確認
できると楽しいわ。

4 中学校第1学年（内容第6学年）

全体の傾向
 大領域でみると、地学が全国正答率を2.9ポイント上回っている。それに対し、化学が4.1ポイント下回っている。中領域で見ると「水溶液の性質」と「物の燃え方」が7ポイント以上下回っている。小問では、「酸素を作る薬品」「金属を溶かす水溶液」「水溶液の気体発生」「ろうそくの燃え方」10ポイント以上下回っている。実験を実施するにあたっては、課題意識をはっきり持たせて自ら解決できる授業の展開や工夫が必要である。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
					50.0			50.7			50.0		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	
1 物 理	61.5	63.0	61.3	60.6	60.6	60.6	0.9	2.4	0.7				
2 化 学	57.3	59.0	57.9	62.0	62.0	62.0	-4.7	-3.0	-4.1				
3 生 物	70.2	71.0	69.5	69.4	69.4	69.4	0.8	1.6	0.1				
4 地 学	52.2	52.4	52.2	49.3	49.3	49.3	2.9	3.1	2.9				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
		H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 1	電流のはたらき	61.5	62.9	61.5	61.3	61.3	61.3	0.2	1.6	0.2			
1 2	てこのはたらき	75.5	78.0	74.6	72.5	72.5	72.5	3.0	5.5	2.1	↑	△	
1-3	物のあたためり方や体積	42.9	43.7	43.2	43.7	43.7	43.7	-0.8	0.0	-0.5			
2-4	物の溶け方	61.8	63.3	62.7	59.4	59.4	59.4	2.4	3.9	3.3		↑	↑
2-5	水溶液の性質	43.0	45.5	45.1	52.8	52.8	52.8	-9.8	-7.3	-7.7	▼	▼	▼
2-6	物の燃え方	67.2	68.1	65.8	72.8	72.8	72.8	-5.6	-4.7	-7.0	▼	↓	▼
3-7	人のからだのつくりとはたらき	53.3	54.2	52.9	56.4	56.4	56.4	-3.1	-2.2	-3.5	↓		↓
3-8	植物の成長としくみ	82.2	82.9	81.0	79.3	79.3	79.3	2.9	3.6	1.7		↑	
3-9	動物の成長とくらし	65.9	66.6	66.0	66.0	66.0	66.0	-0.1	0.6	0.0			
4-10	星や月の動き	48.6	48.6	48.5	42.0	42.0	42.0	6.6	6.6	6.5	△	△	△
4-11	土地のようすやでき方	49.0	49.9	50.0	47.3	47.3	47.3	1.7	2.6	2.7			
4-12	天気の変化や大気中の水蒸気	61.5	60.5	59.8	60.3	60.3	60.3	1.2	0.2	-0.5			

(3) 平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	電磁石の極 (1-1)	54	59	-5	55	59	-4	53	59	-6
	1	強い電磁石・電流 (1-2-7)	88	91	-3	89	91	-2	87	91	-4
	3	熱の伝わり方・伝導 (6)	59	62	-3	59	62	-3	58	62	-4
2	6	酸素を作る薬品 (10-1)	36	53	-17	34	53	-19	35	53	-18
	5	金属を溶かす水溶液 (13-1)	39	53	-14	42	53	-11	42	53	-11
	5	水溶液・気体の発生 (13-2)	14	37	-23	10	37	-27	11	29	-18
	5	蒸発後残る物質 (13-3)	72	83	-11	80	83	-3	79	83	-4
	6	ろうそくの燃え方 (15-1)	61	72	-11	63	72	-9	59	72	-13
3	7	大腸のはたらき (16-3)	41	43	-2	42	43	-1	40	48	-8
	8	でんぷんを調べる薬品 (18-1)	94	97	-3	94	97	-3	92	97	-5

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 ろうそくの燃え方を理解させるには、どのように指導したらよいか。

理科6上 P.8 「ものの燃え方と空気」

<指導の手立て>

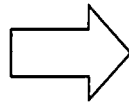
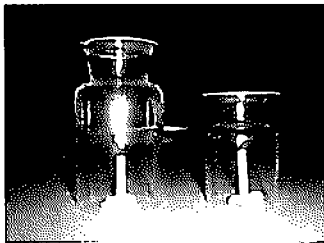
ここで考えられる課題と考えられる主な要因は、びんの中でろうそくを燃やし、ふたをすると火が消えるということは理解しているが、その火がどのように消えていくかという消える過程を理解していないと考えられる。その変化の過程もきちんと理解できるよう指導していくことが必要である。



そこで

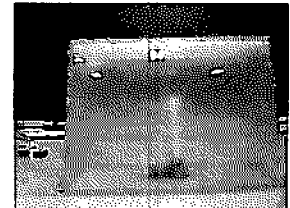
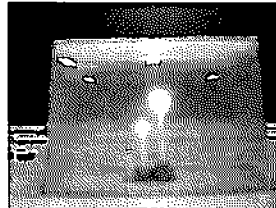
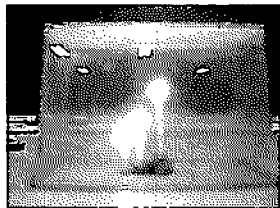
ろうそくの消える過程がしっかりと見られるような実験を行う

ビンのサイズを変えて、消えるまでの時間の違いを確認する



- ☆ビンの中の酸素を使い切ると、消える。
- ☆しだいにほのおが小さくなり、消える様子が理解できる。

ろうそくの長さを低・中・高と3種類用意し、3本同時に水そうなどの大きなケースに入れ、消化の様子を見る。



- 3本とも燃えている → 低い方から消えていく
- ☆ しだいにほのおが小さくなり、消える様子が理解できる。
- ☆ 酸素を消費し、空気より重い二酸化炭素になるため、ろうそくは低い方から消えていく。
- ☆ プラスチック製のケースで行うとケースが溶けるので注意。



このように見て確認できるとわかりやすいね。

5 中学校第2学年（内容第1学年）

全体の傾向

大領域では全国平均を下回っているが、昨8年度と比べと改善が見られた。小領域でも全国正答率の差が全ての領域で全国との差が縮まってきていることがわかる。中領域では「身近な生物の観察」が全国と比べ10ポイント以上下回っているのが大きな課題である。また、小問の「気体に溶けた水溶液」や「用語の意味・蒸留」等の部分で低い傾向が見られる。ねらいを明確にした実験・観察を通して、適切な結果が見いだせるような工夫が必要である。

(1)大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成17年度平均			平成18年度平均			平成19年度平均		
					47.7			47.5			48.5		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	
1 身近な物理現象	50.6	49.9	52.5	52.9	52.9	52.9	-2.3	-3.0	-0.4				
2 身の回りの物質	61.9	62.5	63.3	65.0	65.0	65.0	-3.1	-2.5	-1.7				
3 植物の生活と種類	56.0	55.0	56.5	62.5	62.5	62.5	-6.5	-7.5	-6.0				
4 大地の変化	53.9	53.5	55.0	55.7	55.7	55.7	-1.8	-2.2	-0.7				

(2)中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
		H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19
1-1 光の性質		50.1	49.7	52.7	55.0	55.0	55.0	-4.9	-5.3	-2.3	↓	▼	
1-2 音の性質		46.6	46.0	48.4	48.7	48.7	48.7	-2.1	-2.7	-0.3			
1-3 力と圧力		53.5	52.4	54.6	54.2	54.2	54.2	-0.7	-1.8	0.4			
2-4 物質のすがた		59.9	62.0	63.1	65.2	65.2	65.2	-5.3	-3.2	-2.1	▼	↓	
2-5 水溶液の性質		64.4	63.2	63.6	65.0	65.0	65.0	-0.6	-1.8	-1.4			
3-6 身近な生物の観察		61.2	60.3	60.7	72.0	72.0	72.0	-10.8	-11.7	-11.3	▼	▼	▼
3-7 植物のからだのつくりと働き		52.2	51.4	52.9	57.2	57.2	57.2	-5.0	-5.8	-4.3	▼	▼	↓
3-8 植物のなかま		57.6	55.9	59.0	62.3	62.3	62.3	-4.7	-6.4	-3.3	↓	▼	↓
4-9 地層と化石		47.1	46.9	48.2	48.6	48.6	48.6	-1.5	-1.7	-0.4			
4-10 火山と地震		60.8	60.2	61.9	63.7	63.7	63.7	-2.9	-3.5	-1.8		↓	

(3)平成17・18・19年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
	1	1 凸レンズの像・虚像 (2-3)	35	42	-7	33	42	-9	33	42	-9
	3	3 圧力の計算 (5-1)	8	17	-9	8	17	-9	8	17	-9
	2	5 気体の溶けた水溶液 (7-3-イ)	47	58	-11	46	58	-12	45	58	-13
		5 気体の溶けた水溶液 (7-3-エ)	75	85	-10	74	85	-11	74	85	-11
	4	4 用語の意味・蒸留 (12-3)	61	77	-16	67	77	-10	66	77	-11
	3	6 顕微鏡の倍率と見え方 (15-3)	38	52	-14	38	52	-14	40	52	-12
		6 微生物・ゾウリムシ (16-1)	59	84	-25	59	84	-25	57	84	-27
		6 運動性のある微生物 (16-2)	63	76	-13	62	76	-14	62	76	-14
	7	7 植物の道管 (19-1)	48	55	-7	46	55	-9	46	55	-9
	7	7 双子葉類の茎の特徴 (19-3)	44	54	-10	45	54	-9	38	54	-16

(4) 小間における課題と指導の手立て

課題 植物の双子葉類と単子葉類のつくりの違いについて理解を深めるためには、どのような工夫をしたらよいか。

教科書第2分野 上 P. 38 「単子葉類と双子葉類」

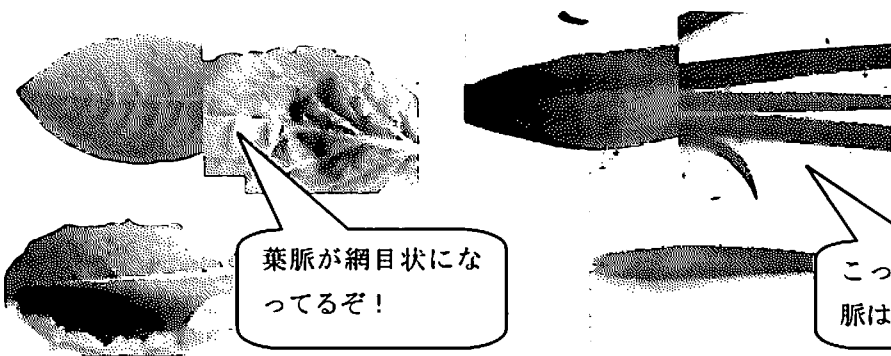
<指導の手立て>

校庭に生えている草花は、どれも同じように見えるが、共通した特徴によってなかまに分けることができる。共通した特徴を見つけ出すためには、植物の葉や根などを観察してスケッチすることが重要な手段である。そこで、生徒が興味を持って取り組めるようにさらに工夫し、理解を深めさせたい。

デジタルカメラで標本集め!

「葉脈の違いに気づく」・・・デジタルカメラの写真を葉脈の違いによってグループに分ける。
 ※観察した葉も標本として採取する。
 ※共通した葉脈のつくりをスケッチする。


そこで・・・



葉脈が網目状になっているぞ!

こっこの葉の葉脈は、平行だ!

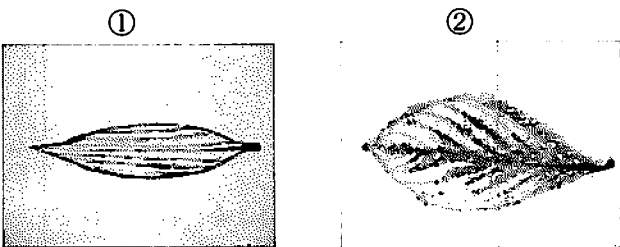
「葉脈と根の関係に気づく」
 * 網目状の葉脈のとき、根の様子はどっちかな?



ひげ根になっている!

こっちは、主根と側根でできている!

※ スケッチの悪い例





① ②

↑ 葉脈をもう一度よく観察してみよう!

影は付けないぞ!

さあ わかったかな!
 校庭に生えている草花のほとんどは葉脈が網目状で根が主根・側根の植物と葉脈が平行で根がひげ根の植物の2つのなかまに分類できるんだ。

これらの 種を蒔いてみると

葉脈が網目状で根が主根・側根になっているなかまは		葉脈が平行根がひげ根になっているなかまは	
子葉が2枚なんだ!		子葉が1枚なんだ!	
植物って不思議だね・・・		実に面白い!	

6 中学校第3学年（内容第2学年）

全体の傾向

大領域では全ての領域で、全国と比較して下回っている。特に、「化学変化と原子、分子」と「動物の生活と種類」では4ポイント以上の差が見られる。中領域では「動物のなかま」「気象の観測」では全国との差が4ポイント以上あり、3年間の経過を見ると「化学変化と物質の質量」で全国との差が大きくなっている。小問においても「銅の酸化・原子」と「化合後の質量の計算」で差が大きくなっており、結びつく物質の質量を計算で求めることができるような手立てが必要である。

(1) 大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19
1 電流とその利用	51.2	49.6	49.2	51.3	51.3	51.3	-0.1	-1.7	-2.1			
2 化学変化と原子、分子	53.0	52.2	51.8	56.0	56.0	56.0	-3.0	-3.8	-4.2			
3 動物の生活と種類	59.9	59.4	59.0	64.3	64.3	64.3	-4.4	-4.9	-5.3			
4 天気とその変化	53.7	52.6	54.0	55.6	55.6	55.6	-1.9	-3.0	-1.6			

偏差値 平成17年度平均 48.5
平成18年度平均 48.0
平成19年度平均 48.0

(2) 中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19	H. 17	H. 18	H. 19
1-1 電流の性質とはたらき	50.1	48.0	47.6	49.3	49.3	49.3	0.8	-1.3	-1.7			
1-2 電気の利用	52.5	51.3	51.1	54.3	54.3	54.3	-1.8	-3.0	-3.2		↓	↓
2-3 物質のなりたち	21.4	23.1	22.6	27.5	27.5	27.5	-6.1	-4.4	-4.9	▼	↓	↓
2-4 化学変化と物質の質量	57.9	56.7	56.3	60.7	60.7	60.7	-2.8	-4.0	-4.4		↓	↓
3-5 動物の体のつくりと働き	60.3	60.2	60.3	63.9	63.9	63.9	-3.6	-3.7	-3.6	↓	↓	↓
3-6 動物のなかま	58.8	56.7	55.2	65.8	65.8	65.8	-7.0	-9.1	-10.6	▼	▼	▼
4-7 気象の観測	59.3	58.1	59.8	64.6	64.6	64.6	-5.3	-6.5	-4.8	▼	▼	↓
4-8 前線と天気の変化	49.1	48.1	49.2	48.6	48.6	48.6	0.5	-0.5	0.6			

(3) 平成17・18・19年度 ともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差
1	1	オームの法則・抵抗 (3-2)	32	44	-12	30	44	-14	29	44	-15
2	4	質量保存の法則の理解 (9-3)	63	71	-8	61	71	-10	63	71	-8
	4	銅の酸化・原子 (10-1)	74	81	-7	72	81	-9	69	81	-12
	4	化合後の質量の計算 (11-1)	60	63	-3	58	63	-5	55	63	-8
3	5	血液の循環・肺 (13-2)	43	52	-9	43	52	-9	42	52	-10
	6	脊椎動物の分類・恒温 (16-1-1)	50	57	-7	49	57	-8	47	57	-10
	6	鳥類の仲間 (16-2-B)	64	72	-8	63	72	-9	58	72	-14
	6	両生類の仲間 (16-2-D)	62	70	-8	59	70	-11	57	70	-13
	6	脊椎動物の特徴 (16-3)	78	86	-8	75	86	-11	76	86	-10
4	7	雨の日のデータの推測 (18-2)	66	75	-9	63	75	-12	65	75	-10

(4) 小問における課題と指導の手立て

課題 銅に酸素が化合する変化で、「銅の質量を増やしたときに化合する酸素の重さはどうに変化するか」について理解させるにはどのような工夫をしたらよいか。

教科書 第1分野 下 P. 37 「化学変化が起こるときの物質の割合」

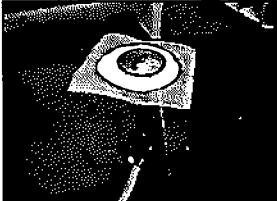
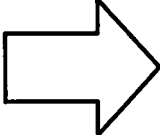
<指導の手立て>

銅の酸化では、銅に酸素が結びついて質量が増えると生徒は実験結果から理解できている。しかし、生徒は、銅と酸素がなぜ常に質量比で4 : 1で結びつくのか理解することが難しい。具体的な方法を用いて理解を深めさせることが大切である。

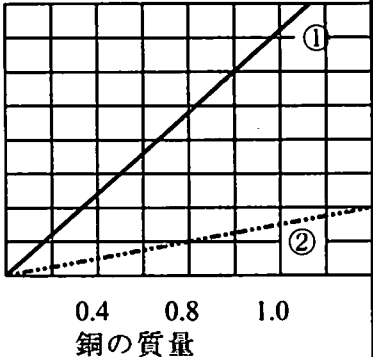


そこで
原子を具体的な粒として表現する。

最初に実験で確かめてみる。
結果をグラフで表す。





① 酸化銅の質量 1.4
② 化合した酸素の質量 0.2

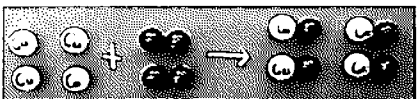


*なるべく大きいステンレス皿で銅の粉を薄く広げるといいよ。
実験結果から考えてみよう!

(1) 比例のグラフになったぞ!
ボールを原子だと考えて説明しよう。
銅の原子が2つ(質量が2倍)だと



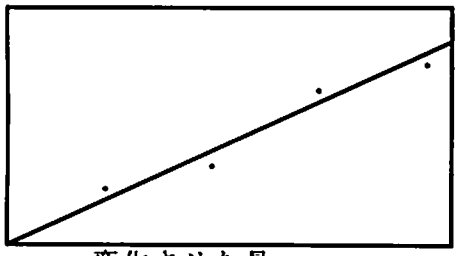
結びつく酸素の原子の数も2倍になります。
銅の原子が4つ(質量が4倍)だと



結びつく酸素の原子の数も4倍になります。
このように、銅の原子の数が2倍、3倍、4倍・・・となると結びつく酸素の原子の数も2倍、3倍、4倍・・・と増える。
ということでグラフのように結びつく酸素の質量が比例して増えるのです。
銅の原子1つと酸素の原子1つが結びついて酸化銅ができます。

(2) 0.8 gの銅と結びつく酸素の質量は、0.2 gになったぞ!
銅の質量 : 結びつく酸素の質量は 約 **4:1** になっている。
なぜ 4:1で結びつくのだろうか?
銅と酸素の質量比が4:1とはどのように考えたらよいか。
銅の原子は、水素原子の重さが1とすると64の重さです。
酸素の原子は、水素原子の重さが1とすると16の重さです。
つまり銅原子(64) : 酸素原子(16)で、簡単に表すと銅 : 酸素 = 4 : 1となります。
銅の原子も酸素の原子も同じ数増えているので常に4:1となるのです。
銅 : 酸素 : 酸化銅の質量比を同様に考えると4 : 1 : 5 になります。

グラフのかき方の注意



*縦軸は変化した量、横軸は変化させた量をとる。
*全ての測定値の近くを通るように線を引く(教科書第1分野上P151参照)

V 英語

1 中学校第2学年（内容第1学年）

全体の傾向

平成17・18年度とも全国の正答率と比較し、大領域（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）のすべての領域で全国を上回り、また、平成19年度においても同様にすべての領域で上回っている。また、平成19年度は中領域においても、12項目のすべての項目で全国を上回っている。しかしながら、「全国通過率を下回る小問」の結果を見ると、徐々に改善は図られているものの「書くこと」については、まだ課題が残る。

(1) 大領域の比較

内 容	偏差値											
	平成17年度平均 50.9											
	平成18年度平均 51.2											
平成19年度平均 51.9												
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 聞くこと	82.4	82.1	83.8	81.0	81.0	81.0	1.4	1.1	2.8			
2 話すこと	63.8	65.6	66.1	61.9	61.9	61.9	1.9	3.7	4.2			
3 読むこと	60.4	60.9	61.9	59.3	59.3	59.3	1.1	1.6	2.6			
4 書くこと	48.2	47.8	48.8	46.9	46.9	46.9	1.3	0.9	1.9			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 基本的な英語を聞き取ること	88.8	88.7	87.9	85.8	85.8	85.8	3.0	2.9	2.1	↑		
1-2 具体的な内容を聞き取ること	78.8	78.0	81.0	78.0	78.0	78.0	0.8	0.0	3.0			↑
1-3 質問や依頼に適切に応じること	82.8	82.8	84.6	81.1	81.1	81.1	1.7	1.7	3.5			↑
2-4 強勢や区切りに注意して話すこと	54.7	56.1	55.9	53.6	53.6	53.6	1.1	2.5	2.3			
2-5 簡単な受け答えをすること	67.4	70.5	71.3	65.4	65.4	65.4	2.0	5.1	5.9		△	△
2-6 積極的に会話をすること	70.8	70.5	71.0	68.0	68.0	68.0	2.8	2.5	3.0			↑
3-7 英文を正しく読み取ること	67.3	67.3	68.9	66.4	66.4	66.4	0.9	0.9	2.5			
3-8 長文の大切な部分を読み取ること	65.5	66.6	67.3	64.2	64.2	64.2	1.3	2.4	3.1			↑
3-9 手紙の内容を理解し応じること	48.4	48.6	49.4	48.0	48.0	48.0	0.4	0.6	1.4			
4-10 基本的な単語や英文を書くこと	55.3	53.9	56.0	55.1	55.1	55.1	0.2	-1.2	0.9			
4-11 適切な語句を使って書くこと	37.6	38.2	36.2	36.0	36.0	36.0	1.6	2.2	0.2			
4-12 伝える内容を整理して書くこと	40.2	41.6	43.3	38.0	38.0	38.0	2.2	3.6	5.3		↑	△

(3) 平成17・18・19年度 ともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	放送対話・11時12分 (3-1)	55	57	-2	54	57	-3	56	57	-1
	3	放送質問・進行形 (4-3)	79	82	-3	78	82	-4	79	82	-3
2	4	強調して話す・兄弟 (6-3)	54	56	-2	55	56	-1	53	56	-3
	6	会話・野球に誘う (9-1)	85	88	-3	85	88	-3	85	88	-3
3	7	文の意味の理解 (11-1)	90	92	-2	91	92	-1	90	92	-2
	9	手紙の内容理解 (13-1)	80	83	-3	80	83	-3	79	83	-4
4	9	手紙の内容理解 (13-2)	25	28	-3	25	28	-3	26	28	-2
	10	単語の綴り・20 (14-1)	62	69	-7	62	69	-7	64	69	-5
	10	単語の綴り・2月 (14-3)	37	40	-3	36	40	-4	39	40	-1
10		適語選択・三単現 (16-4)	67	69	-2	67	69	-2	67	69	-2

(4) <小問における課題と指導の手だて>

課題 身近なところに題材を求め、ゲーム形式でコミュニケーションを図ることにより、表現する力・書く力を伸ばすためには、どのように指導したらよいか。

主に1年生から2年生まで

<指導の手だて>

Class Survey

- ・既習の文を使って、インタビュー活動を行う。(用いる文を自分で考える。)
- ・結果をまとめた英文で表現し、発表する。

- ① 一人一人に、既習の英文を使って質問する指令を割り振り、各自、どんな英語が必要かを考えさせる。

例 クラスメイトの兄弟の数を調査せよ。(時間に余裕があれば、兄(弟)が2人以上いる人を3人探せなど指示することもできる。)
誕生日、昨夜8時にしていたこと、好きな色、血液型、ペット、起床(就寝)時間、好きなアニメ……

- ②インタビュー活動を行い、調査する。
③調べた結果を、英文で表す。
④それぞれの調査活動についての結果を、英文で発表する。

課題 生徒の「書く力」を伸ばすためには、どのように指導したらよいか。

主に1年生

<指導の手だて>

「書く作業」に抵抗感を示すことなく取り組める生徒の育成を目指すためには、英語学習の初期段階から生徒への賞賛の言葉と生徒の発達段階に応じた無理のない訓練が不可欠である。

- ①ペンマンシップ等により、きちんときれいに書く習慣を付ける。また、きれいに書けた場合には「きれいに書けています。」と褒めてあげる。なお、大文字・小文字の区別や文末のピリオド等、基本的な部分が不完全な生徒については個別指導により徹底する。また、生徒が使用するノートについて、4本罫線ノートから大学ノートに移行する前に2本罫線ノートを作成し、大文字・小文字等の区別の徹底を図る。

Wednesday Wednesday Wednesday

- ②授業では、時間節約等のため語句や英文を予め紙に書いたものを黒板に貼ることはよくあるが、時には教師が黒板にきれいに書いているところを見せてあげることも、書くことを疎かにしない生徒を育成するためには必要である。
- ③黒板にある文等をノートに書き写させる場合、アルファベットを1字ずつ書き写すのではなく、意味のまとまり毎(単語、句、節、1文等)に覚えてから黒板を見ずに書く訓練を日頃から行う。
- ④生徒の発達段階に応じた dictation を定期的に行う。その際、CDやAETなど native の音源の活用を図る。また、書き取らせる英文のヒントとして単語の数に一致する下線を設けたり、また、発達段階に応じ、難しい単語が使われている場合には聞き取れた音をカタカナ書きすることも可としたりするなど、途中で諦めずに最後まで書かせることを習慣づける。

※生徒に「書くこと」を嫌がらずに行わせるためには、まず単語や文を正確に「読めること」が重要なポイントである。

2 中学校第3学年（内容第2学年）

全体の傾向

平成17・18年度ともに全国の正答率と比較し、大領域（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）のすべての領域で全国を上回っている。また、平成19年度においても同様にすべての領域で上回っている。しかしながら、上回る率は過去3年間で最も少なく、「書くこと」については高い水準を維持しているものの、「聞くこと・話すこと」の領域では平成19年度には全国を上回る率の鈍化が目立つ。

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成17年度平均	50.9	
										平成18年度平均	51.3	
										平成19年度平均	50.7	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1 聞くこと	64.5	65.1	63.1	62.5	62.5	62.5	2.0	2.6	0.6			
2 話すこと	65.5	65.0	62.5	61.5	61.5	61.5	4.0	3.5	1.0			
3 読むこと	66.7	66.8	66.9	66.7	66.7	66.7	0.0	0.1	0.2			
4 書くこと	55.5	57.4	57.3	53.1	53.1	53.1	2.4	4.3	4.2			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19	H.17	H.18	H.19
1-1 文や文章の内容を開き取ること	66.4	67.0	65.9	62.1	62.1	62.1	4.3	4.9	3.8	↑	↑	↑
1-2 質問や依頼に適切に応じること	58.5	59.0	58.0	57.9	57.9	57.9	0.6	1.1	0.1			
1-3 聞き返し正しく理解すること	83.3	84.1	73.5	83.0	83.0	83.0	0.3	1.1	-9.5			▼
2-4 強勢や区切りに注意して話すこと	59.6	58.9	57.7	57.3	57.3	57.3	2.3	1.6	0.4			
2-5 伝えたいことを正しく話すこと	70.4	70.0	66.2	67.8	67.8	67.8	2.6	2.2	-1.6			
2-6 つなぎ言葉を使い話を続けること	67.2	67.1	64.6	58.5	58.5	58.5	8.7	8.6	6.1	△	△	△
3-7 語句や文の内容を考えて読むこと	62.4	62.4	62.5	62.1	62.1	62.1	0.3	0.3	0.4			
3-8 長文の大切な部分を読み取ること	72.8	73.9	74.2	75.0	75.0	75.0	-2.2	-1.1	-0.8			
3-9 伝言や手紙に適切に応じること	66.4	65.1	64.7	64.7	64.7	64.7	1.7	0.4	0.0			
4-10 基本的な単語を正しく書くこと	69.1	70.9	69.5	65.8	65.8	65.8	3.3	5.1	3.7	↑	△	↑
4-11 適切な表現を用いて書くこと	53.7	55.0	55.1	51.1	51.1	51.1	2.6	3.9	4.0		↑	↑
4-12 伝える内容を整理して書くこと	45.0	48.2	49.2	44.0	44.0	44.0	1.0	4.2	5.2		↑	△

(3) 課題解決の視点・指導の手立て

平成17・18・19年度 ともに全国通過率を下回る小問

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	放送質問・一番速い人 (2-1)	47	52	-5	48	52	-4	47	52	-5
		放送質問・背の高さ (2-5)	81	83	-2	82	83	-1	81	83	-2
	2	放送依頼・若い女性 (4-1-2)	70	73	-3	71	73	-2	68	73	-5
2	5	店での会話・声かけ (8-1)	87	90	-3	87	90	-3	84	90	-6
		店での会話・値段聞く (8-3)	88	89	-1	88	89	-1	87	89	-2
	5	店での会話・購入希望 (8-4)	56	63	-7	56	63	-7	55	63	-8
3	8	文章理解・きっかけ (13-2)	79	84	-5	79	84	-5	77	84	-7
4	11	適語補充・一番速い (16-3)	33	34	-1	33	34	-1	32	34	-2
		適語選択・劇詞 (17-2-3)	42	48	-6	43	48	-5	46	48	-2

(4) <小問における課題と指導の手だて>

課題 生徒に、自らの英語で書く力・表現する力を付けさせるためには、どのように指導したらよいか。

2年生から3年生まで

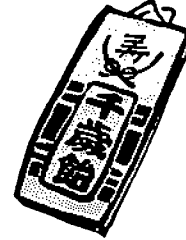
<指導の手だて>

Japanese Culture

- ・日本の文化について、説明する文を英語で書く。
- ・AETの先生に、英語で説明する。

①実態に応じて、班または個人に、題材を割り振る。

例 七五三、お正月、ひな祭り、風呂敷、着物
伝説、迷信、日本神話、日本の中学生の生活、
日本の学校制度、・・・



- ②題材について、そのものを知らない人でも想像できるように、わかりやすく説明する英文をつくる。
- ③AETの先生に、英語で説明する。なるべく原稿を見ないで話すようにする。
- ④全員の前で、発表する。(③を全員の前でやってもよい。) または、作品をプリントし読解の材料にする。

課題 生徒に「(創造的に)書く力」を伸ばすためには、どのように指導したらよいか。

2年生から3年生まで

<指導の手だて>

生徒に「(創造的に)書く力」を付けさせるためには、英語で書こうとする意欲と表現しようとする自分自身の思いや考えがあること、である。そこで、

①題材とするテーマが、生徒の生活と密接に関わっていることが大切である。

例えば、“be interested in”の定着を図る場合、クラスメイトへのインタビューにより得た情報から“～ is interested in movies.”と書かせたり、ある一人の生徒についてインタビューによりその生徒が興味を持っている様々な事を聞き出し、“be interested in”を使って複数の英文を書かせたりして、その情報を基にゲーム形式で生徒を特定させる。

②既習の表現を使い、近い内容の文(類推も含めて)で自由に書き換えをさせる。

例えば、“She is good at playing soccer.”は、“She is a good soccer player.” “She likes soccer very much.” “She can play soccer very well.” “She likes soccer much better than basketball.”等。

③教科書にある「物語」をテーマにしている Program (あるページ、ある段落でも可)を、自分で考えた英文で要約させる。その際、なるべく教科書にある本文をそのまま引用させないようにする。

④語彙力や英語での表現力を伸ばすため、3 Hints クイズを作らせる。Internet や辞書(英英辞典等)を活用し、できるだけ自分の力で作らせるようにする。

例えば、“I'm a famous man from Japan. I'm a professional baseball player. I live in Seattle.”

⇒ Answer : Ichiro

⑤英文の日記(フィクションでも可)、3年生の3学期末には架空の人物を想定した英文による love letter、自分の将来を予測した“Ten Years Later”等を書かせる。その際、良くできている作品を生徒全員にコピー(本人の了解を得た後)し、他の生徒への励み(刺激)とする。

資料編

I 実践資料（社会）

実践事例 1

小学校 3 年 「川越市の人々のくらしのうつりかわり」

1 単元のねらいと評価規準

身近な人々のくらしの移り変わりに関心を持ち、道具やその使い方の違いを知り、今と昔では、人々のくらしの様子が変化してきていることや過去の生活における人々の生活の知恵を考えられるようにする。

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的な事象につい ての知識・理解
昔の道具の使い方や、 当時の人々の生活の 様子を進んで調べよ うとする。	昔と今の道具の違い から、当時の人々の生 活の様子や当時の 人々の願いについて 具体的に考える。	昔の道具を調べてわ かったことや考えた ことを絵カード等に 工夫して表現してい る。	人々の生活の様子が 変化してきているこ と、変わらぬ願いがあ り、行事などにその思 いが込められて大切 にされていることを 理解している。

2 指導計画（20時間扱い）

	時	学習活動・学習内容	具体的な評価規準・評価
(1) 昔の 道具 調べ ⑦	1	学校の中の古い物さがし（導入） 写真を見たり、校内の古い物をさがしたりし、 気づいたことを発表し、昔の道具を集める計画 を立てる。	(関) 関心を持って写真を見たり、 校内の古い物を探したり している。
	2	火のし・炭火アイロン体験（視点作り） 博物館の先生と共に、2つの道具を比べてじっ くり観察し、どのように使うか想像し、実際に 使ったりして、当時の生活の様子を考えること ができる。【共通体験】	(思) 昔の道具に意欲的に触れ、 じっくり観察して比べたり、 どのように使うかを想像し ている。
	3	体験してわかったことを表そう 体験学習から、当時のくらしの様子を想像して 自分なりに表す。	(表) 昔の道具を調べてわかった ことや考えたことを表現す ることができる。
	4	昔の道具を使ってみよう 昔の道具から2つ選び、比べながらさわったり 使ったりしてみる。	(思) 自分の関心のある道具を、 これまでの視点を生かして 観察し、考えることができ る。
	5	昔の道具アルバムを作ろう コンピュータ検索	(知) これまでの学習を生かしな がら、昔の道具への興味を広 げ、今と昔の生活の変化を理 解することができる。
	6	コンピュータ検索（シート1）	
	7	コンピュータ検索（シート2）	

(2) 暮らしのうつりかわり⑦	1	2枚の写真をくらべる 川越駅の現在の様子と昔の様子を比べながら、 生活の変化を話し合う。	(関) これまでの学習を生かし、 昔の道具が使われていた頃 のくらしの様子について、調 べたことを話し合う。	
	2	おじいさん、おばあさんが子どものころ 話を聞いたり、写真を見たりして調べる。	(思) 地域の人々のくらしの変化 を年表にまとめたりして表 現している。	
	3			
	4	お父さん、お母さんが子どものころ 話を聞いたり、写真を見たりして調べる。	(思) 地域の人々のくらしの変化 を年表にまとめたりして表 現している。	
	5			
	6	くらしのようすのちがいをまとめる 年表を整理し、くらしの移り変わりに気づく。	(思) 地域の人々のくらしの変化 を年表にまとめたりして表 現している。	
	7	百年くらい前の川越 ビデオを見たり、写真を見たりして調べる。	(関) コンピュータ検索などで見 つけたもっと古い道具が使 われていた頃の様子に関心 をもつ。	
(3) 川越市に古くから伝わるもの⑥	1	市内や地区にのこる古いものをさがそう 市や地区に昔からあるものを整理して、調べカ ードなどにまとめる。	(思) 地域に伝わる古い物や行事 を調べ、これらのものに込め られた人々の願いを考える ことができる。	
	2			
	3	川越市立博物館の見学計画 コンピュータ検索 (シート3, 4)		(思) 川越市に古くからあるもの を調べ、川越市の人々のくらし の様子や願いについて考 えることができる。
	4	博物館の見学の計画を立てる。		
	5	博物館見学をする。 博物館見学で、疑問に思うことを確かめる。		
	6	川越市の人々のくらしの移り変わりの学習を振 り返り、まとめる。 (博物館ホームページ: 学習の扉)		

3 資料検索システムを使つての学習

コンピュータで、昔のくらしに使われた道具について調べ、今と昔のくらしの様子の違いを考えていく。自分なりに考えた根拠を示しながら、2つの道具の写真を比べる活動を繰り返していくことで、道具への興味を広げ、今と昔の生活の違いや変化を理解させたい。また、観察する力を養いたい。

(学習シートは、博物館ホームページから得られるので活用する。)

実践事例 2

中学校 1 年 地理的分野 「日本の位置と領域」

1 単元の目標

- ・地球儀や世界地図を使って、日本の位置や領域の特色を意欲的に調べる学習を通して、地球儀や世界地図を使う事への関心を高める。
- ・日本の位置と領域について、世界的な視野から多面的・多角的に考察する。
- ・地球儀や地図を活用して、日本を絶対的位置（数理的な位置）と相対的位置（関係的位置）の両面から考察し、領域の特色をとらえる。
- ・日本の絶対的位置（数理的な位置）と相対的位置（関係的位置）の特色と、領域をめぐる問題をつかむ。

2 単元について

標準学力検査を小問の正答率を見ると、どの学年も地理的分野の空間認識の力が弱いことがうかがわれる。中学校第 2 学年（内容第 1 学年）では、中領域 1 - 2 「日本の地域構成」は川崎市は全国平均を上回るものの 39.1% と中領域の中では一番低い結果となっている。

地理的な学習の基本となる空間認識の概念を、地理学習のスタートである前単元の「世界の地域構成」と本単元「日本の地域構成」でつかませることが大切である。「位置」を理解することは地理学習の基本で、空間認識という概念を、絶対的位置（数理的な位置）と相対的位置（関係的位置）の両面から考えさせる必要がある。絶対的位置は、緯度・経度や海拔高度など数理的なとらえ方である。「位置」により、気候や政治的な環境が変化することで、産業や人々の生活に大きな影響を与える。世界や日本のおおまかな地図を描き、学習する地理的事象の分布する「位置」を踏まえた学習が行われることで、空間認識という概念が形成されていくと考える。

3 単元の指導計画

- ・地球儀や地図を使って日本を見てみよう。……………1 時間
- ・日本の国境と周りの国々との関係について調べてみよう。……………1 時間
- ・日本の広さを調べてみよう。……………1 時間

4 第 1 時の展開

(1) 目標 地球儀や世界地図を使って多面的・多角的に日本の位置をとらえる。さらに、位置には絶対的位置と相対的位置があることを理解できる。

(2) 第 1 時の指導について

本時では、日本の位置を相対的に考察するため、地図帳 P. 25 「東アジアと日本」を活用する。この地図を使うことで、日本を見る視点が変わると日本のイメージが変わることが実感できる。また、絶対的位置と相対的位置については、教室の座席を例にし、絶対的位置は、「前から 4 番目廊下側から 2 列目」、相対的位置は、「○□さんの隣」などと表現されることから理解できるようにする。

(3) 展開

学習内容と学習活動	指導上の留意点	資料
1 大陸から見た日本 ・日本の位置について、見慣れている地図との違いに気づく。	・視点がかわることでイメージかわることをつかませる。	地図帳 P. 25
日本の位置を色々な国から見て、どのように表せるか考えよう		
2 各国から見た日本の位置 ・オーストラリアとイギリスそれぞれの国から見た日本の位置について表	・世界地図だけでなく地球儀を使うとわかりやすいことに気づかせる。	世界地図 地球儀

<p>してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ、中国、ブラジル、ケニアのそれぞれの国から見た日本の位置について①緯度や経度に着目して、②方位や距離に着目して、③隣接する国や大陸、海洋の名称などを使って説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緯度や経度の共通点や「極東」の意味をとらえられるように支援する。 ・二人で話し合いながら、作業を進めさせる。 	<p>世界地図 地球儀</p>
<p>3 絶対的位置と相対的位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位置の表現方法の共通点を考える。 ・標準時を決める子午線を調べる。 ・周辺の国名・海洋名を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対的位置による表現に注目させる。 	<p>日本周辺の地図</p>

5 第2時の展開

(1) 目標 地球儀や世界地図を使って、日本の位置や領域の広がりについて理解し、日本と周辺諸国との領域を巡る問題に関心を持って考えることができる。

(2) 第2時の指導について

生徒は、今までの体験や知識から「日本は南北に細長い国」という認識はあるが、東西の広がりにはあまり気づいていない。そこで、東西の広がりにつづかせることで、学習への意欲を刺激し、日本の領域について積極的に考えられるようにする。また、地図帳には未確定・係争中の国の国境が他の国境とは異なる記号で示されていることにふれ、さらに、千島列島や樺太南部が無色で表されていることを気づかせるなかで、日本の国境問題について理解できるようにする。

(3) 展開

学習内容と学習活動	指導上の留意点	資料
<p>1 日本の領域の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域による日の出、日の入り時刻の違いを発表する。 ・札幌と福岡の経度差を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日の出、日の入り時刻の違いが、緯度の違いだけではないことに着目させ、東西方向にも領域が広がっていることに気づかせる。 	<p>教科書 P. 32 写真</p>
<p>どこからどこまでが日本なのだろう。日本の領域を調べてみよう。</p>		
<p>2 日本の国境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球儀や、世界地図には国境がどのように表されているか調べる。 ・日本とロシアの国境が2本あることに気づき、理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海上にも国境線が描かれていることに気づかせ関心を持たせる。 ・樺太南部、千島列島の色の塗られていない地域に着目させる。 	<p>地球儀 世界地図</p>
<p>3 北方領土</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳で北方領土の位置や広さなどを確認する。 ・北方領土問題の歴史的な経緯を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンフランシスコ講和会議について補足し日本が占領していた地域を放棄したことを知らせる。 ・択捉島の面積に着目させ、沖縄や四国などと比較させる。 	<p>国境の変化 日本の主な島の面積</p>
<p>5 そのほかの領土をめぐる問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹島、尖閣諸島をめぐる領域問題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本政府の見解や、島根県条例「竹島の日」などを補足し概略をつかませる。 	
<p>6 日本の領土の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本列島の東西南北端の緯度経度を調べ、発表する。 		<p>地図帳 (日本付近)</p>

<p>7 日本と同緯度・同経度の国々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と同緯度、同経度の国を調べワークシートを完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地中海沿岸地域やアメリカ合衆国に注目させる。 	<p>地球儀 地図帳</p>
--	---	--------------------

6 第3時の展開

(1) 目標 地球儀や世界地図、統計資料を使って日本の国土面積を世界の国々と比較しながら理解する。また、経済水域の広がりに着目し、日本の領域の広がりをつかむ。

(2) 第3時の指導について

生徒は、日本やアフリカの国々を小さな国とイメージしている。また、先進国は大きく、発展途上国は小さくイメージしていることが多い。これらのことから、生徒の予想と実際の順位が異なることから、学習への興味を高めたい。さらに、地球儀を使うなど実際の大きさを体験的に学習できるように工夫する。

(3) 展開

学習内容と学習活動	指導上の留意点	資料
<p>1 日本は小さな国？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とフィンランド、ケニアを面積の大きい順に並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの国の順を予想し、関心を高めさせる。 	<p>地球儀 地図帳</p>
<p>地球儀で日本と他の国の面積を比べよう。 日本とほぼ面積が同じ国を見つけよう。</p>		
<p>2 日本と他の国々との面積の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球儀にトレーシングペーパーに書いた日本列島を重ねて日本と面積の比較し記録する ・統計資料で結果を確認する。 ・わかったこと、気付いたことを発表する。 <p>3 日本とほぼ面積が同じ国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計資料を使って、日本と面積がほぼ同じ国を調べ、ワークシートに記録する。 ・州別に国の面積の特徴をつかみ、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択する国が、高緯度地域から低緯度地域に広がるよう指示する。 ・緯度（図法）による違いに気づけるよう助言する。 ・生徒の様々な意見、発見をを引き出す。 ・日本が世界の50番目ぐらいにあることを補足する。 	<p>地球儀 地図帳</p>
<p>4 国の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領土、領海、領空の定義について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパは小さい国が、中南米諸国は大きな国が多いことに気づかせる。 	<p>地図帳</p>
<p>5 排他的経済水域の確保「沖ノ鳥島」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多額の費用をかける理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳で島の位置を確認し、理由を考える参考とする。 	<p>地図帳</p>
<p>6 排他的経済水域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200海里は東京からどこまでの距離に当たるか調べ、沖の鳥島の周囲の経済水域を計算して、護岸工事の意義をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排他的経水域にふれこの面積を含めるの日本が面積では大きな国の仲間入りをすることに気づかせる。 	

実践事例 3

校内研修・社会科教科部会と授業実践

本校では、学校教育目標「学びあい 豊かな心で 未来をひらく生徒」の育成を目指し教育活動に取り組んでいる。本年度は校内研修を通して指導法の工夫・改善を図ることとした。また、教科部会や日常の授業についても、同様に取り組んできた。以下に本年度の実践を示す。

1 校内研修（全体）の取組

(1) 研修の区分

- ① 共通研修 公教育の維持及び本校教育の充実を図るための研修
- ② 課題研修 本校の教育課題を解決し、教育活動の充実を図るための研修
- ③ 個人研修 各教職員が自己の目標達成、教育活動の充実を図るための研修

(2) 研修テーマ「わかる・できる・おもしろい -授業改善の研究-」

① テーマ設定の理由 全教職員が、共通の課題に基づき教育活動の充実に努め、その成果を共有することで、生徒の学力向上を図る。

* 「教育に関する3つの達成目標」、標準学力検査の活用に留意した取組

② 研修のポイント

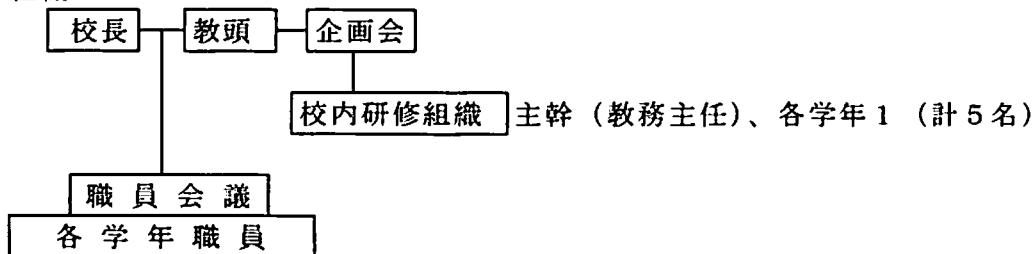
(ア) 全教科領域で、基礎基本の確実な定着を図る指導法の工夫及び実践を進め、その成果を全職員が共有する。

(イ) 生徒の達成感が得られる教育活動を工夫し、生徒の学力向上を図る。

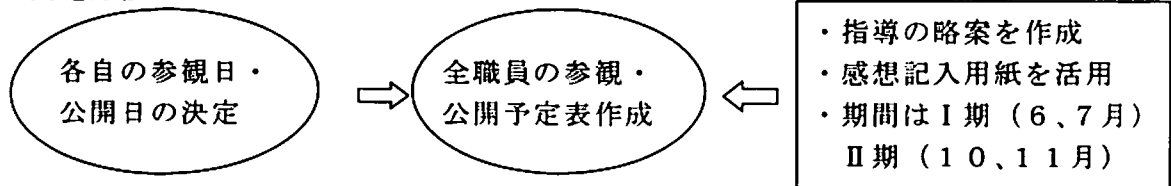
(ウ) 教員同士が互いの授業を参観し、自らの授業改善に役立てるとともに、授業者にアイデアを提供することで、本校教育活動の充実を図る。

(3) 研修推進組織と実施方法

組織



実施方法



(4) 成果と課題

(ア) 全職員が、教科を超えて互いの授業参観・公開したことでそれぞれの授業の工夫や生徒の実態について具体的に知ることができた。

(イ) 授業内容の改善とともに、授業規律の確保についても研修するよい機会となった。

(ウ) 学校行事や出張等により、当初の計画変更や変更後の日程確保が難しかった。

(エ) 今後は、教科部会単位での相互参観・公開も検討していきたい。

2 社会科教科部会の取組

(1) 指導計画の作成

① 本年度の指導の重点・努力点

本年度の本校指導の重点・努力点は次のとおりである。

- ・基礎・基本の定着をはかるため、学習指導の工夫・改善をする。
- ・学び方や調べ方を身に付けさせ、生徒の主体的な学習を促す。
- ・多様な評価活動を通して一人一人のよさや可能性を生かす評価を工夫する。

② 年間指導計画・シラバスの作成

基礎基本や観点別評価規準と具体的な指導内容に配慮しながら、指導計画を作成した。また、生徒・保護者に対しては、シラバスを作成・配布し、各教科で身に付けたい力や評価規準を示した。

社会科年間指導計画 [中世の日本] の例

月	大単元	中単元・時間	中単元の目標	基礎基本	観点別学習状況と具体的な指導内容	基礎・基本を身に付けるための工夫（地域教材の活用） ・資料 ○留意点
10	(3) 中世の日本	○武家政権の成立と発展 【5時間】	○武家政権の成立とその後の武家社会の展開を理解させ、その間の日本と東アジアとのかかわりに気付かせる。	・鎌倉幕府の成立 ・南北朝争乱と室町幕府 ・応仁の乱後の社会的な変動と東アジア	◎武蔵武士の活躍に着目し、身近な地域の歴史に対する関心を高め（河越氏など身近な地域の歴史を調べようとし）ている。 ○鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して、歴史の流れと時代の特色を（多面的・多角的に）考察している。 △武家政治の展開について調べたことを年表（や歴史地図、図表などを活用して）にまとめている。 ☆武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を、我が国の歴史に関わる東アジアの歴史を背景を理解するとともに、（その間の東アジア世界とのかかわりに気づき、）その知識を身に付けている。	・武蔵武士 ・鎌倉街道 ・軍記物 ・戦国武将 ・河越館跡 ・川越城跡 ○河越氏のおこりや滅亡を通して鎌倉時代を学習する。

(2) 標準学力検査の分析

標準学力検査の分析をとおして、本校生徒の課題を明らかにし、改善の手立てを検討した。その結果地理的分野では、世界地図や日本地図による地域区分の他、地図・地名の把握が弱い。歴史的分野も関連して、国際関係の設問の考察が十分でなかった。また、各時代の資料の基本的な資料の読み取りや分析する力が不足していた。そこで日常の授業では、確認テストの継続的な実施や、教科書の内容をしっかりと理解できるようにするため、生徒が主体的に疑問点を見付けそれを解決しようとする姿勢を大切に指導していくこと等の方策が出された。

3 授業での取組

(1) 授業プリントの工夫

（授業プリント例） /今を考える歴史/ プリント番号

今日の学習 /本時と関係の動き/

テーマ	武士や民衆は、どのような生活をしていたのでしょうか。	
目標	【目標設定】 ○「武士の世」の歴史を学ぶ。資料から ○武士の生活の様子を調べる。（目標「①の達成」） ○武士の生活の様子を調べる。	
1 見聞	○武士の生活の様子を調べる。	○武士の生活の様子を調べる。
2 つまみ	○武士の生活の様子を調べる。	○武士の生活の様子を調べる。
3 読み	○武士の生活の様子を調べる。	○武士の生活の様子を調べる。
4 書き	○武士の生活の様子を調べる。	○武士の生活の様子を調べる。
確認テスト	○武士の生活の様子を調べる。	
振り返り	○武士の生活の様子を調べる。	
まとめ	○武士の生活の様子を調べる。	

上記の分析を踏まえて、ねらいの明確化や学習の視点の具体化が特に重要と考えた。生徒自身が日々の授業で何をどのように学ぶのか明示するために、学習プリントの書式を工夫した。プリントの名称を「今を考える歴史」としたのは、歴史的な事象を単に過去のもの、古いものとして受け止めるのではなく、現代社会の様々な課題の解決を図るためのヒントと考えて欲しいからである。教科書の見開き1～2頁分の内容をプリント1枚にまとめ、学習課題を4観点別に配列した。日々の授業では何を学ぶのか、課題を通して何を明らかにするのかを示すためである。大きさはB5判とし、生徒の学習ノートの左半分には貼り、右半分を板書欄に割り当てる。これによりノート見開きで学習内容がわかるようにした。資料の読み取りやその意味を考えることを重視するとともに、知識・理解についても重要語句を明示するようにした。（授業プリント例）

(2) 自己評価カード

毎時間ごとの自己評価カードをとおして、その日の学習を生徒一人一人がどう受け止めたかを把握し、コメントをつけて返している。生徒から出された質問に答えるとともに、次の授業に生かすための大切な資料ともなっている。

(3) 選択教科

3年生において、地理・歴史・公民の分野から重要な事項を選び、その意味を調べる「トリアルシート」を実施した。B4判横のシート1枚につき重要語句を15個ほど選び出す。生徒はそれらの語句の「よみ」を調べ、5回書いたのち意味を調べる。終わったら教師に提出し、次のシートに取りかかるシステムである。自分のペースでシートに取り組めるようにするとともに、様々な生徒の実態に対応できるように配慮した。

1年生では、教科書の内容をもとに、基礎的・基本的な事項（歴史上の人物・できごと）の理解を深められるよう配慮している。2年生でも、授業の進度に合わせて復習を行っている。

4 まとめ

生徒一人一人の学習状況を踏まえ、教育活動を積み重ねる中で本校の課題が見えてきた。その解決を図るために、標準学力検査の活用が重要である。今後も、生徒の実態を具体的に把握するとともに、様々な学習活動を通して生徒の基礎的・基本的な力の育成に取り組みたい。

II バックナンバーと掲載ページ

1 国語

学年	内容	年度	頁	備考	
小学校	漢字の指導	15	11		
	修飾・被修飾の指導	15	11		
	読点の打ち方の指導	15	11		
	第3学年	漢字を書く力の定着	16	12	
		修飾・被修飾の理解	16	13	
		漢字の部首の理解	16	14	
		話の中心に気をつけ聞く力を伸ばす	17	12	
	修飾語の理解	18	12		
	第4学年	漢字の指導	15	13	
		ローマ字の指導	15	13	
		登場人物の心情の読み取り	15	13	
		修飾・被修飾の指導	15	13	
		漢字やローマ字の読み書きの能力を高める	16	16	
		効果的に話す能力を伸ばす	16	17	
		国語辞典を使える子を育てる	16	18	
		書く材料を収集・選択する力を育て、正しい文章を書く力をつけさせる	17	14	
	国語事典の使い方	18	14		
	第5学年	表現の工夫の指導	15	15	
		漢字辞典の引き方の指導	15	15	
		修飾・被修飾の指導	15	15	
		修飾・被修飾の関係を理解する力を伸ばす	16	20	
比喩や倒置法などの表現技能を身に付ける		16	21		
登場人物の心情を叙述に即して読む力を伸ばす		16	22		
目的や意図に応じた書き方を指導する		17	16		
叙述に即して読む力を高める	18	16			
第6学年	韻文の指導	15	17		
	「話すこと」についての指導	15	17		
	詩のおける場面の読みとりの能力を高める	16	24		
	説明的文章の読み取りの能力を高める	16	24		
	敬語の正しい使い方を理解し、使えるようにする	17	18		
叙述の細部を読み解き、関係を捉える	18	18			
中学校	漢字の指導	15	19		
	文法の指導	15	19		
	「書くこと」の指導	15	19		
	「読むこと」の指導	15	19		
	文の構造について理解する力を伸ばす	16	26		
	適切に表現する力を伸ばす	16	26		
	文の構造について理解する力を伸ばす	17	20		
目的に応じて理解する読みの力の育成	18	20			

中学校 第2学年	語句の効果的な用法の理解	15	21
	要点の読み取り	15	21
	活用形の種類	15	21
	古典学習において、叙述に即して内容を正確にとらえ、心情を深く理解させる	16	28
	説明的文章の読み取りの力を高める	16	28
	文の成分や組み立てを理解する力を高める	16	28
	漢字を正しく読む・書くことの力を高める	16	28
	古典学習において、叙述に即した読みの力を伸ばす	17	22
	叙述に即した読み取りの力を高める	18	22

2 社会

学年	内容	年度	頁	備考
第3学年	道具の名称、正しい使い方等を理解させる	15	24	
	社会的事象・事象の意味を捉えさせる	15	24	
	基礎的な図やグラフを読み取る	15	24	
	身近な地域の観察をもとに、特色の理解・方位感覚を身につけさせる	16	31	
	体験をもとに、今と昔の生活の違いを考え理解を深める	16	31	
	「昔の暮らし」の学習において、新旧の道具や生活の変化の理解を深める	17	25	
	資料をもとに、町の移り変わりを理解させる	17	25	
	「昔の暮らし」の学習において、道具の移り変わりや生活の変化の理解を深める	18	25	
第4学年	イラストや地図、表を読み取る技能の向上を図る	15	26	
	地図記号への興味・関心を高め、理解を深める	16	33	
	飲料水の確保や廃棄物の処理と自分たちの生活との関わり	17	27	
	地図記号を見て、地形の特色などを理解できるようにする	17	27	
	浄水場やダム役割を理解させる	18	27	
小学校 第5学年	学習したことを身近な生活と関連して理解させる	15	28	
	地図帳を活用し、名称や位置を理解させる	15	28	
	複数の資料を相互に関連させて読み取る	15	28	
	適切な資料を選び、その資料をもとに思考・判断する	15	28	
	地図帳を活用できるようにする	16	35	
	グラフや表の読み取り能力を高める	16	35	
	我が国の国土に関する基本事項	17	29	
	我が国の水産業について	17	29	
日本の農業(米作り)の導入	18	29		
第6学年	県の名称や位置、特徴などを理解させる	15	30	
	歴史の代表的な人物や文化遺産への関心・意欲を身に付ける	15	30	
	地理的・歴史的分野において地図帳を活用する	15	30	
	我が国の政治の働きについて考える	15	30	
	事例から他の地域へと一般化を図り、全体の特色を理解させる	16	37	
	人物や文化遺産を調べる活動を通して、各時代の特色を理解させる	16	37	
	西郷隆盛や西南戦争について	17	31	
	政治のはたらき(国会・内閣)を理解させる	17	31	
地域と連携した歴史学習の指導	18	31		
中学校 第1学年	白地図に地名などを適切に示す	15	32	
	歴史に関する関心・意欲を高める	15	32	
	我が国の歴史を世界の歴史を背景に理解させる	15	32	
	人々の生活や文化に関する知識・理解を定着させる	15	32	
	社会的事象について様々な角度から考察する	15	32	
	地域構成が大観でき、略図の世界地図や日本地図を描けるようにさせる	16	39	
	中国・朝鮮とのかかわりを背景に歴史の流れをとらえさせる	16	39	
	歴史の大きな流れをとらえさせる	17	33	
日本の位置の表し方や地域構成に関する学習に主体的に取り組ませる	18	33		

中学校	第2学年	社会的事象への関心・意欲を高め、学習に主体的に取り組む	15	34
		地名や社会的事象が起きた場所を白地図に示す	15	34
		歴史的な人物と業績、時代の大きな流れや特色について学習する	15	34
		世界と日本の気候や自然環境を理解させる	16	41
		「近・現代の日本と世界」の歴史を大きく正確に理解させる	16	41
		歴史の舞台を意識した「近世・近現代の日本と世界」の学習	17	35
		近現代の歴史学習の基礎基本の定着	18	35

3 算数・数学

学年	内容	年度	頁	備考
第3学年	乗法 ～2桁×1桁の計算～	15	37	
	～筆算の計算～	15	37	
	乗法に成り立つ性質 ～交換法則, 結合法則, 分配法則～	15	37	
	乗法の計算の仕方・乗法の性質についての理解	16	44	
	正確な乗法の計算	16	44	
	2位数×2位数の乗法の計算	17	38	
	除法の意味理解を確かなものにする	18	38	
第4学年	面積と面積の単位換算	15	39	
	正方形・長方形の面積の求め方	16	46	
	比較の4段階の指導 ～直接・間接・任意単位・普遍単位～	16	46	
	面積の公式を導き出す過程の重視	16	46	
	分度器の使い方	17	40	
	三角定規を組み合わせてできる角度の計算の問題	17	40	
	伴って変わる2つの数量関係を明確にする	18	40	
第5学年	小数の意味理解 ～数直線の活用～	15	41	
	～4.6×7.8のような計算～	15	41	
	三角形, 四角形, 多角形の面積の求め方	15	41	
	小数の意味および乗除法	16	48	
	基本的な図形の面積を求め, 活用する力	16	48	
	三角形の面積公式の定着	17	42	
	□や○などを使って式に表せるようにするための指導	18	42	
第6学年	演算決定力を養うための手立て ～立式指導～	15	43	
	～分数の乗法・立式に関する指導～	15	43	
	～割合に関する指導～	15	43	
	～数量や図形に関する指導～	15	43	
	分数の乗法の場面で演算決定させる力	16	50	
	～数直線対応図を用いた「かけ算」の数量関係～	16	50	
	～単元・領域や, 学年を超えた意図的・統計的な指導～	16	50	
	伴って変わる2つの数量の関係を表す式	17	44	
	比例の扱い方	18	44	
第1学年	二等分線の作図 ～二等辺三角形, 円の対象性を利用した基本作図～	15	45	
	「比例」「反比例」の概念	15	45	
	文字を使った式の表し方 ～乗法の記号の省略～	16	52	
	錐体についての理解	16	52	
	比例の理解	16	52	
	基本的な作図の手順 ～ひし形を利用した作図～	17	46	
	表、グラフ、式の理解	18	46	
第2学年	三角形の合同・証明	15	47	
	一次関数の変化の割合 ～変化の割合と比例定数・傾きの関係～	16	54	
	基本的な図形の表面積を文字式で表わす。	17	48	
	「逆」の意味の理解	17	48	
	一次関数の表中のxやyの値の求め方	18	48	

4 理科

学年	内容	年度	頁	備考
第3学年	生物とその環境 ～昆虫の育ち方・体のつくり～	15	50	
	物質とエネルギー ～光の性質・磁石の性質～	15	50	
	地球と宇宙 ～温度計の使い方～	15	50	
	昆虫の育ち方や体のつくり ～観察・比較をする活動～	16	59	
	～模型作り～	16	59	
	～VTR, 図鑑, インターネットの活用～	16	59	
	電気の通る条件と磁石のつく条件の違い	16	59	
	昆虫の育ち方や体のつくり ～関心を持たせるには～	17	51	
	磁石の性質 ～磁石につくものを探す～	17	51	
	光を重ねて明るくする方法	18	51	
かけのうごきと太陽の位置関係	18	51		
第4学年	生物とその環境 ～四季に見られる昆虫の様子～	15	52	
	物質とエネルギー ～空気・水の性質～	15	52	
	～電気のはたらき～	15	52	
	地球と宇宙 ～水のすがた～	15	52	
	動物の活動と季節 ～校庭, 学校周辺の観察活動～	16	61	
	～VTR, 補助教材の活用～	16	61	
	～1年間のまとめの表の作成～	16	61	
	ものの温まり方やかさの変化	16	61	
	動物の活動と季節 ～昆虫の越冬～	17	53	
	乾電池のはたらき ～電気の回路との関係～	17	53	
金属の熱の伝わり方	18	53		
星の動きの観察の仕方	18	53		
第5学年	生物とその環境 ～植物の発芽と成長～	15	54	
	物質とエネルギー ～もののとけ方～	15	54	
	～てんびんとてこ～	15	54	
	植物の成長・結実 ～花のつくりと結実のしくみ～	16	63	
	～花の部位の役割(へちま)～	16	63	
	もののとけ方 ～もののとけ方の規則～	16	63	
	～重さの変化～	16	63	
	植物の花のつくりと名称, その役割	17	55	
	てこの仕組みやはたらき ～支点・力点・作用点～	17	55	
	～身の回りのもの(シーソー)を活用する～	17	55	
植物の花粉の観察方法	18	55		
流れる水のはたらきの理解	18	55		

小学校	第6学年	ヒトや動物の体 ~小腸や大腸のはたらき~	15	56
		電流と電磁石 ~電気が通らない回路~	15	56
		~電磁石でひきつける力を強くする~	15	56
		大地のようす ~土地やその中に含まれるもの~	15	56
		~大地のつくりや土地のでき方~	15	56
		電磁石の性質 ~強い電磁石の条件~	16	65
		水溶液の性質 ~リトマス紙による液性の分類~	16	65
		~水溶液に溶けているもの~	16	65
		~水溶液が溶かすもの~	16	65
		物の燃え方 ~燃え方の違い~	17	57
		~物が燃えた前後の違い~	17	57
		水溶液と金属の反応 ~酸素の生成~	17	57
		~結晶の析出~	17	57
		水溶液の性質 ~ものを溶かす性質と溶けたものの析出から 人のからだのつくり	18	57
中学校	第1学年	身近な物理現象 ~光や音の規則性~	15	58
		~レンズを通した光の性質と実験~	15	58
		植物の生活と種類 ~顕微鏡観察~	15	58
		植物の生活と種類 ~体験的な観察・実験~	16	67
		~顕微鏡の操作~	16	67
		身近な物理現象 ~興味関心を高める授業の工夫(光)~	16	67
		~実験方法の工夫(レンズ)~	16	67
		身近な生物の観察 ~顕微鏡の操作方法~	17	59
		~水中の微生物の観察~	17	59
		物質のすがた ~混合物の蒸留~	17	59
		~蒸留実験~	17	59
		圧力の計算の仕方	18	59
		微生物・ゾウリムシに関する指導	18	59
		中学校	第2学年	電流とその利用 ~オームの法則を用いた計算~
化学変化と原子、分子	15			60
動物の生活と種類	15			60
天気とその変化	15			60
オームの法則の理解・知識の定着	16			69
~電流計の読み方を十分理解させた上で実験~	16			69
~細かなステップでの実験~	16			69
動物の体のつくりと働き ~血液の流れと肺の位置関係~	16			69
物質のなりたち ~質量保存の法則~	17			61
~実験結果をモデル化する~	17			61
天気とその変化 ~天気による気温・湿度・露点の関係~	17			61
セキツイ動物のなかま分けの系統的な指導	18			61
動物の血液の流れと臓器についての理解	18			61

5 英語

学年	内容	年度	頁	備考
第1学年	書くことの指導を効果的に行う	15	63	
	繰り返し指導を行う	15	63	
	適切な状況設定の中で使う	15	63	
	簡単な単語や数値を含む文の内容を正確に聞き取る	16	72	
	簡単な文の意味を理解し、まとまった内容の文章を読みとる	16	72	
	身近に使われる表現及び慣用的な表現、話すことの力をつける	16	72	
	単語を正確に綴り、適切な語句を使って文を書く	16	72	
	簡単な単語(日付・曜日・数字等)を含んだ文の内容を正確に聞き取る	17	64	
	身近に使われる表現・慣用的な表現を身に付け、話す力を伸ばす	17	64	
	自分の体験や出来事を英文にし、書く力を伸ばす	18	64	
三単現の肯定文、疑問文の答えに慣れ、話す力を伸ばす	18	64		
第2学年	基本的な表現を理解し、活用できるようにする。	15	65	
	言語の使用場面に応じた活動を重視する。	15	65	
	読解力を身に付ける。	15	65	
	疑問詞で始まる疑問文を正確に聞き取る。	16	74	
	長文を読んで内容を理解する。	16	74	
	具体的な場面での特有の表現を身に付け、話す。	16	74	
	身近な出来事や自分の考えや気持ちを表現する英文を書く。	16	74	
	具体的な場面での特有の表現を身に付け、話す。	17	66	
	身近な出来事や自分の考えや気持ち等を表現する英文を書く。	17	66	
	比較級を使い、話す力を伸ばす	18	66	
英語力を駆使し、英文の概略を理解する	18	66		

学力分析と指導の手立てⅤ
－標準学力検査を活用して－

川越市学力調査研究委員会 編

平成20年 3月

発 行 川越市教育委員会
担当課所 川越市立教育研究所
住 所 〒350-1133 川越市大字砂 260番地
電 話 049-245-2920
E - m a i l kenkyujo@city.kawagoe.saitama.jp



スマイルシティ・川越